

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 慶應義塾
理事長 清 家

慶應義塾大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	76
--------	----

(注)前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	652人	64人	668.2人	看護業務補助者	98人	診 療 X 線 技 師	0人	
歯 科 医 師	23人	8人	24.9人	理 学 療 法 士	12人	臨 床 検 査	臨 床 検 査 技 師	136人
薬 剤 師	92人	27人	110.4人	作 業 療 法 士	4人		衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	14人		そ の 他	0人
助 産 師	30人	1人	30.2人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 士	0人	
看 護 師	966人	13人	974.6人	臨 床 工 学 技 士	22人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	3人	
准 看 護 師	8人	0人	8人	栄 養 士	14人	そ の 他 の 技 術 員	88人	
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	238人	
管 理 栄 養 士	25人	0人	25人	診 療 放 射 線 技 師	65人	そ の 他 の 職 員	11人	

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、少数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄にはそれぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者数及びが外来患者数の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	909人	8人	917 人
1日当たり平均外来患者数	2,957人	183人	3,140 人
1日当たり平均調剤数	5,502剤		

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮筋腫核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例にかかわるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	16人
・顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齲蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病・悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・スキンドライブ法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋硬直性又は筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cに胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	8人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断(特発性低身長に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんにかかるものに限る)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・声帯内自家側頭筋移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はパーージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊椎小脳変性症、球脊椎性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損、(角膜移植によるものを含む。)角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒痕、眼球癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒痕その他の重症の癒痕性角結膜疾患を含む。)結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・無	6人
・重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・無	人
・31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・無	人
・神経芽腫のDNA診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。)に係るものに限る。)	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・無	人
・骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術(インスリンノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・無	人
・エキシマレーザ冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザ冠動脈形成術を除く。)による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・無	人
・活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがいないために造血肝細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するYag-LaserによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
・ケラチン病の遺伝子診断(水泡型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水泡症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・無	人
・隆起性製皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血管細胞による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャー病(重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるものに限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症にあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支がん病変に係るものに限る。)	有・無	人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のちに、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節にかかわるものに限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎にかかわるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性高インシュリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損にかかわるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、管内胆肝がん、転移性肝がん、又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗体ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	35人
・先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療ができないものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例にかかわるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
・マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例にかかわるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗GFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGRF陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・光トポグラフィ検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、障害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百十六号)の「(1)疾病、障害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類を言う。)においてF2(総合失調症、総合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾患及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状のものを除く。)に係るものに限る。))	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレンジによる歯冠補綴(小白歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。)又は腺種(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	81 人
・カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性繊維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術(ブルー・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0 人
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	
・腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input type="radio"/> 無	
・根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

(注)1. 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2. 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	36人	・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	18人
・多発性硬化症	44人	・ウェグナー肉芽腫症	8人
・重症筋無力症	56人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	52人
・全身性エリテマトーデス	105人	・多系統萎縮病	4人
・スモン	4人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	10人
・再生不良性貧血	63人	・膿疱性乾癬	1人
・サルコイドーシス	48人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・筋萎縮性側索硬化症	23人	・原発性胆汁性肝硬変	31人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	43人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	47人	・特発性大腿骨頭壊死症	13人
・結節性動脈周囲炎	7人	・混合性結合組織病	18人
・潰瘍性大腸炎	366人	・原発性免疫不全症候群	4人
・大動脈炎症候群	11人	・特発性間質性肺炎	2人
・ビュルガー病	2人	・網膜色素変性症	71人
・天疱瘡	6人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	44人	・原発性肺高血圧症	17人
・クローン病	119人	・神経線維腫症	5人
・難治性肝炎のうち劇症肝炎	7人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・パーキンソン病関連疾患	235人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	11人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	69人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	中央臨床検査部は週2回程度、病理診断部は年間約100回	
剖検の状況	剖検症例数	71例
	剖検率	17.7 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別紙参照				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委

計 571

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に丸をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙参照			

計 576

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発および評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
成人の携帯電話使用者の追跡調査研究	武林亨	医学部基礎教室	8,000,000 円	補 委* (財)テレコム先端技術研究支援センター
転移・再発乳がんに対するタキサン系薬剤と ディーエスワンのランダム化比較試験	神野浩光	医学部臨床教室	200,000 円	補 委* (財)パブリックヘルスリサーチセンター
「ヒト血小板キメラNOGマウスモデルにおけるヒト 血小板変動評価系構築とNIP-022および P07320028の薬効評価試験」に関するコンサル ティング	宮川義隆	医学部臨床教室	1,890,000 円	補 委* (財)実験動物中央研究所
本邦における低用量アスピリンによる上部消化管 合併症に関する調査研究—心筋梗塞、脳梗塞患 者などの動脈血栓性疾患を対象として—(略称: MAGIC研究)	鈴木秀和	医学部臨床教室	2,050,140 円	補 委* (財)循環器病研究振興財団
急性期脳梗塞患者における抗血栓薬および脳保 護薬の併用療法に関する研究(EAST Study)	鈴木則宏	医学部臨床教室	1,008,000 円	補 委* (財)循環器病研究振興財団
Stage III結腸癌治療切除例に対する術後補助化 学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1療法 の第III相比較臨床試験および遺伝子発現に基 づく効果予測因子の探索的研究	長谷川博俊	医学部臨床教室	1,155,000 円	補 委* (財)先端医療振興財団
頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学 療法の検討	今西順久	医学部臨床教室	840,000 円	補 委* (財)先端医療振興財団
小児心電・心音図の基準値設定に関する研究	山岸敬幸	医学部臨床教室	547,400 円	補 委* (財)東京都予防医学協会
J-RHYTHM II試験	佐藤俊明	医学部臨床教室	4,387,600 円	補 委* (財)日本心臓財団
生体内における酸素およびガス分子を介した代 謝ネットワークの解明による糖質・アミノ酸利用制 御機構の包括的理解	末松誠	医学部基礎教室	2,235,294 円	補 委* (財)糧食研究会
神経細胞死抑制因子を応用したアルツハイマー 病治療法の開発	松岡正明	医学部寄附講座	50,000,000 円	補 委* (独)医薬基盤研究所
サルおよびヒト胚性幹細胞を用いた心筋細胞の 再生と移植法の開発	福田恵一	医学部坂口光洋記念 講座	74,500,000 円	補 委* (独)医薬基盤研究所
新たなヒト悪性中皮腫浸潤増殖モデルの開発お よびヒト化CD26抗体による悪性中皮腫の新規治 療法の開発	山田健人	医学部基礎教室	20,780,000 円	補 委* (独)医薬基盤研究所
SOCS-mimeticsの開発と炎症性疾患治療への応 用	吉村昭彦	医学部基礎教室	29,000,000 円	補 委* (独)医薬基盤研究所
接着分子CD44の機能阻害の基づくがん浸潤・転 移抑制法の開発	佐谷秀行	医学部附属先端医科 学研究所	17,000,000 円	補 委* (独)医薬基盤研究所

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
ヒト再生医療分野における間葉系幹細胞の高感度かつ高純度な細胞分離技術の確立	松崎有未	医学部総合医科学研究センター	999,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
RNAサイレンシングが司る遺伝子情報制御	塩見美喜子	医学部総合医科学研究センター	87,490,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
「骨代謝」における破骨細胞の細胞融合と代謝制御	宮本健史	医学部総合医科学研究センター	27,820,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
造血幹細胞の代謝解析	須田年生	医学部坂口光洋記念講座	13,000,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
代謝産物の変化情報に基づく心筋機能制御法の確立	佐野元昭	医学部坂口光洋記念講座	21,918,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
内在性神経幹細胞活性化による神経再生戦略—モデル生物系を用いた解析	岡野栄之	医学部基礎教室	75,673,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
BC-BOXペプチドによる体性幹細胞等からの神経分化誘導研究	工藤純	医学部基礎教室	2,000,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
ファージ提示型ヒト単鎖抗体ライブラリーの作製と改良、抗ガングリオシド単鎖抗体のスクリーニング	高柳淳	医学部基礎教室	4,160,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
自然免疫反応におけるシェディングの役割と制御機構	岩男恭子	医学部基礎教室	6,370,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
新規早期肝がん関連分子をターゲットとした診断技術開発・実用化の検討	坂元亨宇	医学部基礎教室	1,630,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
T細胞分化のリプログラミング	吉村昭彦	医学部基礎教室	26,624,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
人工幹細胞を用いた分化制御異常解析と癌創薬研究	佐谷秀行	医学部附属先端医科学研究研究所	55,650,400 円	補 委* (独)科学技術振興機構
高機能性鉄磁性体微粒子を用いた乳癌に対する新しい、低侵襲・個別化診断・治療法の開発	上田政和	医学部臨床教室	22,000,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
骨関連手術支援システムとしての3D-GBSの開発	池上博泰	医学部臨床教室	2,600,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
外傷性脊髄傷害における機能的ワイヤによる神経機能回復の評価	中村雅也	医学部臨床教室	2,600,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
疾患早期診断のための糖鎖自動分析装置開発	青木大輔	医学部臨床教室	3,900,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
到来方向測定による高感度ガンマ線3Dカメラの開発	久保敦司	医学部臨床教室	3,120,000 円	補 委* (独)科学技術振興機構
電子線等による膜タンパク質及びその複合体の構造解析技術の開発	安井正人	医学部基礎教室	15,750,000 円	補 委* (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
「担癌生体の免疫動態評価システム開発のための免疫抑制解除法」に関する調査	河上裕	医学部附属先端医科学研究所	4,950,750 円	補 委* (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構
幹細胞とがん幹細胞	須田年生	医学部坂口光洋記念講座	26,400,000 円	補 委* (独)日本学術振興会
医歯薬学分野に関する学術動向の調査・研究	福田恵一	医学部坂口光洋記念講座	3,500,000 円	補 委* (独)日本学術振興会
iPS細胞研究国際拠点人材養成事業	岡野栄之	医学部基礎教室	3,631,200 円	補 委* (独)日本学術振興会
脆弱X症候群の遺伝的・生化学的機能解析	塩見春彦	医学部基礎教室	1,500,000 円	補 委* (独)日本学術振興会
微生物学・免疫学分野に関する学術動向の調査・研究	小安重夫	医学部基礎教室	2,250,000 円	補 委* (独)日本学術振興会
糖タンパク質を含む複合糖鎖抗原に対する人工抗体の研究開発	高柳淳	医学部基礎教室	3,150,000 円	補 委* バイオテクノロジー開発技術研究組合
国際共同研究	石橋智昭	医学部基礎教室	4,500,000 円	補 委* ファイザーヘルスリサーチ振興財団
悪性脳腫瘍に対するアプタマー技術を用いた新しい診断法、治療法の開発	井上浩義	医学部(日吉)	0 円	補 委* 学校法人久留米大学
わが国における飲酒の実態ならびに飲酒に関連する生活習慣病、公衆衛生上の諸問題とその対策に関する総合的研究	石井裕正	医学部	16,200,000 円	補 委* 厚生労働省
臨床応用可能な人工血小板としてのH12結合微粒子のin vivo評価	梶村真弓	医学部	2,500,000 円	補 委* 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	平形道人	医学部医学教育統轄センター	1,800,000 円	補 委* 厚生労働省
医師主導型治験の実施に関する研究(タクロリムス)	平形道人	医学部医学教育統轄センター	2,500,000 円	補 委* 厚生労働省
膠原病の生命予後規定因子である肺合併症の診断及び治療法の再評価と新規開発に関する研究	平形道人	医学部医学教育統轄センター	2,000,000 円	補 委* 厚生労働省

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
漢方医学の証に関する分類の妥当性検討	渡辺賢治	医学部漢方医学センター	1,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
主観的個別化患者情報のデータマイニングによる漢方・鍼灸の新規エビデンス創出	渡辺賢治	医学部漢方医学センター	10,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
肝炎ウイルスにより惹起される炎症性誘発要因及びウイルス増殖に対する人為的制御による肝炎征圧	下遠野邦忠	医学部総合医科学研究センター	9,258,000 円	補 * 厚生労働省 委
規格化された高品質な成育バイオリソースと異種由来成分を排除した完全ヒト型培養システムの構築-再生医療・細胞治療の有効性、安全性の検証システムの標準化-	三好俊一郎	医学部寄附講座	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
人工赤血球のICU使用を目的とした最適化およびME技術の改良	富田裕	医学部寄附講座	2,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
在宅医療への遠隔医療実用実施手順の策定	本間聡起	医学部寄附講座	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
臓器特異的ストレス応答探索マウスを用いた疾病予防法の開発	佐野元昭	医学部坂口光洋記念講座	5,450,000 円	補 * 厚生労働省 委
プロスタグランジン-i2合成酵素遺伝子を用いた肺動脈性胚高血圧症に対する新規治療法の開発	福田恵一	医学部坂口光洋記念講座	30,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
候補遺伝子DISC1の機能解析による統合失調症の病態理解と治療戦略の構築	久保健一郎	医学部基礎教室	4,463,000 円	補 * 厚生労働省 委
臨床応用可能な人工血小板としてのH12結合微粒子のin vivo評価	鎌田徹治	医学部基礎教室	1,800,000 円	補 * 厚生労働省 委
筋萎縮性側索硬化症に対する肝細胞増殖因子を用いた画期的治療法の開発	岡野栄之	医学部基礎教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
筋萎縮性側索硬化症の画期的診断・治療法に関する研究	岡野栄之	医学部基礎教室	1,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
肝炎ウイルスにより惹起される炎症性誘発要因及びウイルス増殖に対する人為的制御による肝炎征圧	杉山和夫	医学部基礎教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
赤血球・酸素輸液の有効利用を目的としたヒト組換え型アルブミン修飾剤の開発	末松誠	医学部基礎教室	11,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
バリア機能障害によるアトピー性疾患病態解明に関する研究	工藤純	医学部基礎教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
大都市圏脳卒中診療連携体制の構築-ニーズと資源のマッチング用データベースを用いたリハビリテーション医療連携システムの開発と効果の実証	武林亨	医学部基礎教室	800,000 円	補 * 厚生労働省 委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
病院勤務医等の勤務環境改善に関する緊急研究	武林亨	医学部基礎教室	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
膝痛、腰痛、骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究	西脇祐司	医学部基礎教室	2,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
多施設臨床研究ネットワークの中核機能を担うリニカルリサーチセンターの整備	武林亨	医学部基礎教室	77,987,000 円	補 * 厚生労働省 委
未受診者対策を含めた健診・保健指導を用いた循環器疾患予防のための地域保健クリティカルパスの開発と実践に関する研究	西脇祐司	医学部基礎教室	800,000 円	補 * 厚生労働省 委
加齢性難聴に対する地域介入プログラムの有効性評価	西脇祐司	医学部基礎教室	6,700,000 円	補 * 厚生労働省 委
難治性炎症性腸管障害に関する研究	武林亨	医学部基礎教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
顧みられない病気に関する研究	小林正規	医学部基礎教室	4,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
慢性寄生虫感染症の侵入監視及びその健康管理体制の確立	竹内勤	医学部基礎教室	2,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
重篤な日和見感染症の「早期発見と最適治療」に関する研究	竹内勤	医学部基礎教室	2,200,000 円	補 * 厚生労働省 委
弱毒生ウイルスワクチン(痘そうワクチン)の疫学的有効性及び安全性評価における統計学的研究	齋藤智也	医学部基礎教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
献血血の安全性確保と安定供給のための振興感染症等に対する検査・スクリーニング法等の開発と献血制限に関する研究	三浦左千夫	医学部基礎教室	1,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
がん病理・病態学的特性の分子基盤の解析とそれに基づく診断・治療法の開発に関する研究	岡田保典	医学部基礎教室	6,300,000 円	補 * 厚生労働省 委
がん病理・病態学的特性の分子基盤の解析とそれに基づく診断・治療法の開発に関する研究	坂元亨字	医学部基礎教室	6,300,000 円	補 * 厚生労働省 委
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	坂元亨字	医学部基礎教室	7,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
免疫疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチ	小安重夫	医学部基礎教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
アジア・太平洋地域におけるHIV・エイズの流行・対策状況と日本への波及に関する研究	加藤真吾	医学部基礎教室	1,500,000 円	補 * 厚生労働省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究	加藤真吾	医学部基礎教室	2,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
薬剤耐性HIVの動向把握のための検査方法・調査体制確立およびその対策に関する研究	加藤真吾	医学部基礎教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
神経皮膚症候群に関する調査研究	佐谷秀行	医学部附属先端医科学研究所	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
侵襲の運命決定因子HMGBIを分子標的とした救命的治療法の開発	石坂彰敏	医学部臨床教室	8,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
呼吸不全に関する調査研究	石坂彰敏	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
バリア機能障害によるアトピー性疾患病態解明に関する研究	浅野浩一郎	医学部臨床教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
特発性心筋症に関する調査研究	小川聡	医学部臨床教室	1,100,000 円	補 * 厚生労働省 委
致死性遺伝性不整脈疾患の遺伝子診断と臨床応用	小川聡	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	日比紀文	医学部臨床教室	4,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究	日比紀文	医学部臨床教室	6,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
副腎ホルモン産生異常に関する研究	柴田洋孝	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
ヒトES細胞を用いたin vitro血管神経細胞分化システムによる「虚血脳再生ホルモン」の探索とホルモン補償による新規認知症治療法の開発	伊藤裕	医学部臨床教室	8,230,000 円	補 * 厚生労働省 委
MRIを用いた脳卒中発症・再発防止のためのより有効な降圧治療のエビデンスの創出	伊藤裕	医学部臨床教室	1,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
免疫性神経疾患に関する研究	鈴木則宏	医学部臨床教室	900,000 円	補 * 厚生労働省 委
正常水頭症の疫学・病態と治療に関する研究班	鈴木則宏	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
ウイルス動脈輪閉塞症における病態・治療に関する研究	鈴木則宏	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
難治性疾患の医療費構造に関する研究	鈴木則宏	医学部臨床教室	800,000 円	補 * 厚生労働省 委
大都市圏脳卒中診療連携体制の構築—ニーズと資源のマッチング用データベースを用いたリハビリテーション医療連携システムの開発と効果の実証	鈴木則宏	医学部臨床教室	800,000 円	補 * 厚生労働省 委
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	桑名正隆	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
特発性造血障害に関する研究	岡本真一郎	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
血液凝固異常症に関する調査研究	桑名正隆	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
臨床応用可能な人工血小板としてのH12結合微粒子のin vivo評価	池田康夫	医学部臨床教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
ペーチェット病に関する調査研究	桑名正隆	医学部臨床教室	800,000 円	補 * 厚生労働省 委
血液凝固異常症に関する調査研究	横山健次	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発に関する研究	桑名正隆	医学部臨床教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
同種末梢血管細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	岡本真一郎	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
同種造血幹細胞移植成績の一元化登録と国際間の共有およびドナーとレシピエントのQDLを視野に入れた成績の向上に関する研究	岡本真一郎	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究	桑名正隆	医学部臨床教室	1,300,000 円	補 * 厚生労働省 委
血液凝固異常症に関する調査研究	池田康夫	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
難治性疾患克服研究の評価ならびに研究の方向性に関する研究	岡本真一郎	医学部臨床教室	1,600,000 円	補 * 厚生労働省 委
侵襲の運命決定因子HMGBIを分子標的とした救命的治療法の開発	北川雄光	医学部臨床教室	6,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
臨床的リンパ節転移陰性胃癌に対するセンチネルリンパ節生検の安全性に関する多施設共同臨床試験	北川雄光	医学部臨床教室	3,375,000 円	補 * 厚生労働省 委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の確立に関する研究	長谷川博俊	医学部臨床教室	750,000 円	補 * 厚生労働省 委
悪性脳腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	長谷川博俊	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
小児悪性固形腫瘍領域における体系的な臨床試験実施に基づく適応外医薬品の臨床導入の妥当性検討に関する研究	森川康英	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
人工酸素運搬体の臨床応用に関する研究	齋庭了	医学部臨床教室	800,000 円	補 * 厚生労働省 委
人工酸素運搬体の臨床応用に関する研究	小林紘一	医学部臨床教室	4,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
人工赤血球のICU使用を目的とした最適化およびME技術の改良	泉陽太郎	医学部臨床教室	2,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
人工酸素運搬体の臨床応用に関する研究	堀之内宏久	医学部臨床教室	6,650,000 円	補 * 厚生労働省 委
危機的出血に対する輸血ガイドライン導入による救命率変化および輸血ネットワークシステム構築に関する研究	津崎晃一	医学部臨床教室	200,000 円	補 * 厚生労働省 委
人工赤血球のICU使用を目的とした最適化およびME技術の改良	武田純三	医学部臨床教室	4,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
筋萎縮性側索硬化症に対する肝細胞増殖因子を用いた画期的治療法の開発	中村雅也	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	森岡秀夫	医学部臨床教室	750,000 円	補 * 厚生労働省 委
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	松本守雄	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	千葉一裕	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	戸山芳昭	医学部臨床教室	9,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
高齢者の腰痛症に係る効果的な診断・治療・リハビリテーション等の確立	千葉一裕	医学部臨床教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
高齢者の腰痛症に係る効果的な診断・治療・リハビリテーション等の確立	戸山芳昭	医学部臨床教室	9,060,000 円	補 * 厚生労働省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良 その他有効性及び安全性確保のあり方に関する 研究	関口進一郎	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	長谷川奉延	医学部臨床教室	800,000 円	補 * 厚生労働省 委
小児先天性疾患および難知性疾患における遺伝 子診断法の標準化と国内実施施設の整備	小崎健次郎	医学部臨床教室	5,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
超少子化時代のわが国における新たな不妊症原 因の究明と社会に即した治療システムの開発	吉村泰典	医学部臨床教室	1,750,000 円	補 * 厚生労働省 委
女性生殖器における妊娠能の客観的な評価法の 確立	浜谷敏生	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
超少子化時代のわが国における新たな不妊症原 因の究明と社会に即した治療システムの開発	久慈直昭	医学部臨床教室	1,400,000 円	補 * 厚生労働省 委
不育症治療に関する再評価と新たな治療法の 開発に関する研究	丸山哲夫	医学部臨床教室	1,200,000 円	補 * 厚生労働省 委
生殖補助医療の医療技術の標準化、安全性の確 保と生殖補助医療により生まれた児の長期予後 の検証に関する研究	吉村泰典	医学部臨床教室	4,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
生殖補助医療の医療技術の標準化、安全性の確 保と生殖補助医療により生まれた児の長期予後 の検証に関する研究	久慈直昭	医学部臨床教室	1,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
子宮体がんに対する標準的化学療法の確立に 関する研究	進伸幸	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
臨床研究の実施・成果の高品質化に必須なデー タマネジメント教育プログラムの開発および普及	青木大輔	医学部臨床教室	400,000 円	補 * 厚生労働省 委
子宮体がんに対する標準的化学療法の確立に 関する研究	青木大輔	医学部臨床教室	15,690,000 円	補 * 厚生労働省 委
標準的検診法と精度管理や医療経済的効果に 関する研究	青木大輔	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担最 小化に関する研究	青木大輔	医学部臨床教室	1,600,000 円	補 * 厚生労働省 委
がん領域における薬剤のエビデンスの確立を日 的とした臨床研究	青木大輔	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
プール水泳後の洗眼が眼表面に与える影響及び その有効性に関する研究	加藤直子	医学部臨床教室	4,800,000 円	補 * 厚生労働省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
角膜上皮細胞の生体外での未分化能維持の研究	川北哲也	医学部臨床教室	5,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
バリア機能障害によるアトピー性疾患病態解明に関する研究	天谷雅行	医学部臨床教室	23,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
希少難知性皮膚疾患に対する調査研究	天谷雅行	医学部臨床教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の標準化に関する研究	天谷雅行	医学部臨床教室	3,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	大家基嗣	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
急性高度軟調に関する調査研究	小川郁	医学部臨床教室	3,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
認知神経科学的アプローチによる精神神経疾患に対する偏見の実態調査と偏見軽減に関する研究	加藤元一郎	医学部臨床教室	1,600,000 円	補 * 厚生労働省 委
スポーツ・運動の統合失調症の認知機能・高次脳機能障害に対する効果に関する研究	加藤元一郎	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 厚生労働省 委
精神科薬物療法アルゴリズムの最適化と均てん化に関する研究	加藤元一郎	医学部臨床教室	10,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
分子イメージングによる精神科治療法の科学的評価法の確立に関する研究	加藤元一郎	医学部臨床教室	2,700,000 円	補 * 厚生労働省 委
定位放射線治療による予後改善に関する研究	久保教司	医学部臨床教室	548,000 円	補 * 厚生労働省 委
スモンに関する調査研究	里宇明元	医学部臨床教室	700,000 円	補 * 厚生労働省 委
緩和ケアのガイドライン作成に関するシステム構築に関する研究	辻哲也	医学部臨床教室	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
大都市圏脳卒中診療連携体制の構築ニーズと資源のマッチング用データベースを用いたリハビリテーション医療連携システムの開発と効果の実証	里宇明元	医学部臨床教室	13,300,000 円	補 * 厚生労働省 委
試験問題プール制の推進等国家試験の改善に係る研究	相川直樹	医学部中央診療施設等	1,200,000 円	補 * 厚生労働省 委
新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と、診断・治療に関する研究	藤島清太郎	医学部中央診療施設等	2,000,000 円	補 * 厚生労働省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
動作解析装置を用いた歩行傷害・ADL障害の解明に関する研究	松本秀男	医学部中央診療施設等	11,000,000 円	補 * 厚生労働省 委
血液凝固異常症に関する調査研究	村田満	医学部中央診療施設等	18,500,000 円	補 * 厚生労働省 委
臨床応用可能な人工血小板としてのH12結合微粒子のin vivo評価	村田満	医学部中央診療施設等	1,600,000 円	補 * 厚生労働省 委
臨床応用可能な人工血小板としてのH12結合微粒子のin vivo評価	半田誠	医学部中央診療施設等	14,700,000 円	補 * 厚生労働省 委
院内血液製剤の適正な製造体制・順守規程に関する研究	半田誠	医学部中央診療施設等	600,000 円	補 * 厚生労働省 委
輸血副作用把握体制の確立・特に免疫学的副作用の実態把握とその対応	半田誠	医学部中央診療施設等	800,000 円	補 * 厚生労働省 委
超高齢者のQOLに寄与する要因の包括的検討と地域比較	新井康通	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 財)ユニバーサル財団 委
米国内臓病学会第62回高血圧学会	松下健一	医学部臨床教室	200,000 円	補 * 財)井上科学振興財団 委
中枢神経系における水制御の分子機構ーアクアポリンの細胞間接着能とアレイ構造形成に着目してー	安井正人	医学部基礎教室	8,500,000 円	補 * 財)三菱財団 委
“Gas Therapy”による虚血再還流傷害に対する新たな治療戦略の開発とメカニズム解明	林田健太郎	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 財)内藤記念科学振興財団 委
ES細胞およびiPS細胞を用いた心筋再生医療の確立	湯浅慎介	医学部総合医科学研究センター	2,000,000 円	補 * 財)武田科学振興財団 委
免疫応答としての肝脂肪蓄積と代謝異常の解析	入江潤一郎	医学部寄附講座	2,000,000 円	補 * 財)武田科学振興財団 委
発生期大脳皮質における神経細胞の成熟過程を制御する分子機構のin vivo解析	川内健史	医学部基礎教室	2,000,000 円	補 * 財)武田科学振興財団 委
統合失調症候補遺伝子の機能解析	仲嶋一範	医学部基礎教室	1,500,000 円	補 * 財)武田科学振興財団 委
成熟脳においてシナプス再構築を制御する新しい分子機構ー機能的神経再生に向けて	柚崎通介	医学部基礎教室	10,000,000 円	補 * 財)武田科学振興財団 委
研究助成	齋藤都暁	医学部基礎教室	3,000,000 円	補 * 財)財団法人 細胞科学研究財団 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
長期派遣援助	升田博隆	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 財団法人 山田科学振興財団 委
研究奨励金(研究助成)	宮本健史	医学部総合医科学研究センター	2,000,000 円	補 * 財団法人 上原記念生命科学財団 委
研究奨励金(研究助成)	宮下和季	医学部寄附講座	2,000,000 円	補 * 財団法人 上原記念生命科学財団 委
研究奨励金(研究助成)	川内健史	医学部基礎教室	2,000,000 円	補 * 財団法人 上原記念生命科学財団 委
研究助成	中島秀明	医学部臨床教室	5,000,000 円	補 * 財団法人 上原記念生命科学財団 委
研究助成	天谷雅行	医学部臨床教室	5,000,000 円	補 * 財団法人 上原記念生命科学財団 委
留学助成	八木満	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 財団法人 中富健康科学振興財団 委
研究助成	中村俊康	医学部臨床教室	1,000,000 円	補 * 財団法人 中富健康科学振興財団 委
留学助成	服部典子	医学部臨床教室	500,000 円	補 * 財団法人 中富健康科学振興財団 委
科学奨励金(研究助成)	仲嶋一範	医学部基礎教室	3,000,000 円	補 * 財団法人 内藤記念科学振興財団 委
特定研究助成[Ⅱ]	釜谷陸生	医学部基礎教室	1,500,000 円	補 * 財団法人 武田科学振興財団 委
学術研究助成	小川葉子	医学部臨床教室	300,000 円	補 * 社団法人 日本女医会 委
社会厚生事業助成制度(医学研究助成)	前倉敬子	医学部基礎教室	1,000,000 円	補 * 千代田健康開発事業団 委
高齢者のストレス・ネットワークアクセスを実現する感覚運動オーグメンテーション技術の研究開発	里宇明元	医学部臨床教室	5,200,000 円	補 * 総務省 委 *
高齢者のストレス・ネットワークアクセスを実現する感覚運動オーグメンテーション技術の研究開発	里宇明元	医学部臨床教室	7,540,000 円	補 * 総務省 委 *
帰島後健康診断(呼吸器系)データ解析業務委託	大前和幸	医学部基礎教室	2,800,000 円	補 * 東京都三宅島三宅村 委 *

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法—CPT-11単独療法vsTS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験—(臨床試験実施計画書No.	中村理恵子	医学部臨床教室	840,000 円	補 * 特定非営利活動法人 日本がん臨床試験推進機構 委 *
医学賞	日比紀文	医学部臨床教室	5,000,000 円	補 * 日本医師会 委
医学研究助成費	丸山哲夫	医学部臨床教室	1,500,000 円	補 * 日本医師会 委
生殖幹細胞におけるRNAサイレンシング機構の解析	堀見春彦	医学部基礎教室	3,976,000 円	補 * 日本私立学校振興・共済事業団 委
食品素材の胃病変軽減・予防作用に関する研究	鈴木秀和	医学部臨床教室	2,100,000 円	補 * 農林水産省 委
TACEの骨代謝、炎症性疾患における機能解析	堀内圭輔	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
炎症性骨・軟骨破壊に対するMMPの役割	高石官成	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
変形性関節症の軟骨修復機転における血管内皮増殖因子の役割	榎本宏之	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
前立腺癌の血管新生におけるアンジオテンシンⅡの機能解析	官嶋哲	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
骨軟骨組織における神経反発因子セマフォリン3Aによる血管侵入の制御	藤田貴也	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
後天性多嚢胞化腎における腎細胞癌発生機構	大家基嗣	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
卵特異的新規遺伝子と「正常な卵」を規定する遺伝子ネットワーク	浜谷敏生	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト体外培養卵子・受精卵に発現する遺伝子プロファイル解析と不妊症診療への応用	久慈直昭	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
退行変性性腰痛症に対する新たな治療法開発に関する基礎的研究	千葉一裕	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
上皮性卵巣癌における間質-腫瘍相互作用の臨床的意義の解明	津田浩史	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮体癌におけるDNAミスマッチ修復異常・腫瘍免疫と抗癌剤・ホルモン剤感受性	進伸幸	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
子宮体癌の生物学的解析に基づく新規治療法の開発	藤田知信	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
網膜再生に向けた視細胞の分化調節機構の解析	小沢洋子	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
ルテインの網膜・脈絡膜血管病態への関与	石田晋	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
microRNAのエピジェネティック制御を介した胃がんの新規予防・治療法の開発	齋藤義正	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
定住ラテンアメリカ人のChagas病疫学調査と輸血感染予防対策	三浦左千夫	医学部	1,040,000 円	補 * 文部科学省 委
自己細胞由来の生理活性物質を利用した内在性神経幹細胞の活性化と神経再生誘導	並木淳	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
口腔胃相関からみた摂食早期の一酸化窒素介在型グレリン分泌機構	鈴木秀和	医学部	1,100,000 円	補 * 文部科学省 委
筋萎縮性側索硬化症発症要因としてのVAPBと小胞体ストレスの解析	松岡正明	医学部	1,600,000 円	補 * 文部科学省 委
認知症患者における後見制度鑑定に必要な臨床検査の検討、付随する制度的問題点の検討	大平雅之	医学部	100,000 円	補 * 文部科学省 委
抗癌剤感受性に関連するタンパク質(ペプチド)バイオマーカーの研究	鈴木小夜	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
毛髪を成長・維持させる重要遺伝子のノックダウンマウス作製による網羅的同定	渋谷和憲	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
片頭痛におけるASICの役割—片頭痛動物モデルを用いた検討	清水利彦	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
AIRE発現細胞株を用いた自己抗原遺伝子の異所性発現の解析	山口良考	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
栄養疫学調査とデータマイニングによる遺伝子-環境相互作用の探索	宮木幸一	医学部	700,000 円	補 * 文部科学省 委
局所脳虚血後の梗塞巣拡大におけるERKシグナル伝達経路の関与の検討	冨田裕	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
β細胞におけるフォークヘッド転写因子の核内転写活性調節機構の解明	中江淳	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
抗ALS及び抗アルツハイマー病活性を有する新規神経保護因子の探索と作用機序解析	喜多淑子	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
酸化ストレスによるミネラルコルチコイド受容体のSUMO化とアルドステロン作用調節	柴田洋孝	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
皮膚筋炎で見出された抗CADM-140抗体の臨床応用に関する研究	佐藤慎二	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
1型糖尿病発症におけるケモカインレセプターの同定とその発症制御	島田明	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
網羅的発現解析で同定した悪性黒色腫高発現遺伝子の病態解析と診断・治療への応用	松崎ゆり子	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
肺腫瘍に対する凍結療法の局所制御力の向上を目指した治療補助システムの構築	川村雅文	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
光とRIの二重標識物質により癌関連遺伝子の移動と局在をイメージングする方法の開発	中村佳代子	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
医療放射性廃水の膜分離浄化システムの開発	井上浩義	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
胸部照射での呼吸移動、エネルギー、照射野形状による分布変化と最適化の統合的解析	国枝悦夫	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
標的移動に追従する物理フィルターを使用した強度変調治療放射線治療	沓木章二	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
食道癌における臓器特異性転移機序の解明と新しい癌転移抑制剤の開発	竹内裕也	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
大腸癌特異的発現を示す新規分子を用いた腫瘍マーカー診断と抗体・T細胞療法の開発	塚本信夫	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
消化器癌で高率に発現している分子マーカーを標的とした新しい次世代型DDSの開発	長谷川博俊	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
IL-18拮抗物質による劇症肝不全に対する治療法の開発	田邊稔	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
吸水性ゲルを応用した閉胸手術後癒着防止基材の開発	泉陽太郎	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
ヘパリン結合性成長分化因子Midkineのヒト胎児羊膜系における機能に関する研究	石本人士	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
発生過程におけるmiRNAの役割とDiGeorge症候群の発症機構	塩濱愛子	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
炎症と線維化・癌化の遺伝子発現プロファイル変化とイメージング	北村直人	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
心臓弁に発現する血管新生・骨形成抑制因子ペリオスチンの機能解析	伯野大彦	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
糖尿病性心筋症における低分子量G蛋白質の役割、意義について	村田光繁	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
特異的阻害薬、遺伝子操作動物によるアルドステロン臓器障害でのNF κ Bの役割の検討	福田誠一	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
慢性腎臓病における蛋白メチル化とその意義	立松覚	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
アルツハイマー病におけるSTAT3分子の機能解析	千葉知宏	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
老化制御因子による白血病発症抑制の分子機構	仁田英里子	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
咽頭弓および血管系の発生における細胞内カルシウムシグナルの意義の解明	内田敬子	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
GAD反応性免疫制御性T細胞の生体内誘導による自己免疫性糖尿病の発症抑制	及川洋一	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
臍帯血CD34陽性細胞(血液幹細胞)を用いた肺II型上皮細胞の再生に関する基礎研究	北東功	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
ヘリコクターピロリ感染時の肥満細胞によるB細胞及び血小板制御機構の解明	永井重徳	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
嚥下障害の発生学的発症機序の解明: CHARGE症候群をプロトタイプとして	荒巻道彦	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
デスメグレイン3反応性T細胞の病原性規定因子の同定とその阻害療法の検討	高橋勇人	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
融合画像作成による高精度前立腺癌小線源治療法の確立	大橋俊夫	医学部	910,000 円	補 * 文部科学省 委
外部エネルギーとインテリジェント型ナノ粒子を用いた乳癌局所温熱療法	大西達也	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
自作BACマイクロアレイによる治療指針に役立つがんのDNA診断法の確立	村山裕治	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
大腸癌における新規DDSを用いたHSP27に対する分子標的治療法の開発	林竜平	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
「胃癌幹細胞システム」への骨髄由来細胞の関与	熊谷厚志	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
IL-2結合パクリタキセル封入MPCポリマーの皮膚移植での有効性	山本立真	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
慢性腎臓病に対する抗加齢医療の介入	林晃一	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
薬物代謝酵素CYP2C19遺伝子多型に基づくクロバザムのテーラーメイド医療の確立	下郷幸子	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
シナプス前部から分泌される新しいシナプス形成分子Cbln1-受容体メカニズムの解析	松田恵子	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
気象要因変化による片頭痛発症の機序	岩下達雄	医学部	500,000 円	補 * 文部科学省 委
放射線治療効果を時間差判定するための光・核医学・MRI・CT融合画像ソフトの開発	笠松智孝	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
破骨細胞融合時の自他認識機構	滝戸次郎	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
分泌蛋白プロファイリング(secretome)によるマウス初期胚の機能評価	丸山哲夫	医学部	1,000,000 円	補 * 文部科学省 委
マウス真皮における幹細胞システムの解析	貴志和生	医学部	1,600,000 円	補 * 文部科学省 委
臨床応用へ向けての子宮内膜・子宮筋幹細胞特異的分子システムの解明	梶谷宇	医学部	6,370,000 円	補 * 文部科学省 委
接着分子による大脳皮質層形成メカニズムの解析	大石康二	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
大脳皮質の神経細胞移動におけるネトリンとネトリン受容体の機能解明	佐々木慎二	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
大脳皮質層形成を制御するReelin-Dab1シグナルの細胞内情報伝達機構の解明	本田岳夫	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
椎骨動脈破裂の法医病理学的診断法の確立－ 内因性、外因性の機序の解明と鑑別－	呂彩子	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
生体内CRIP法を用いたRNA結合蛋白質Musa shiの翻訳制御標的遺伝子探索	今井貴雄	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
加齢黄斑変性症の分子疫学研究-酸化ストレス マーカーとの関連を中心に-	朝倉敏子	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
遺伝子改変技術を用いた簡便で安定なマーモ セットES細胞の開発	塩澤誠司	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
慢性閉塞性肺疾患患者における包括的呼吸リハ ビリと骨格筋機能異常の研究	松本真以子	医学部	650,000 円	補 * 文部科学省 委
ヘム合成に関与するポルフィリンのミトコンドリア 集積機構の解明	加部泰明	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
腎細胞癌による破骨細胞誘導因子RANKL発現 と骨転移	三上修治	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト変形性関節症軟骨におけるRECK分子の発 現と機能解析	木村徳宏	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
非アルコール性脂肪肝 (NAFLD) 発症に関わる 免疫学的検討	入江潤一郎	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
腸管病原性大腸菌によって誘導される癌転移抑 制作用の解析および抗転移ワクチンの創製	永井武	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
ヘリコバクター・ピロリのキノロン耐性遺伝子変異 における糞便迅速診断法の開発	西澤俊宏	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
ユビキチン化によるPGC-1制御機構の解明	佐野元昭	医学部	800,000 円	補 * 文部科学省 委
候補遺伝子DISC1の機能解析を通じた精神疾 患の病態理解	久保健一郎	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
造血幹細胞-骨芽細胞ニッチ相互作用の成立・ 維持の分子機構	新井文用	医学部	7,280,000 円	補 * 文部科学省 委
小胞体ストレス誘導遺伝子、スタニオカルチン2の 細胞死抑制作用と神経疾患での役割	伊東大介	医学部	650,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮内発育不全によるネフロン数減少機序の解 明	飛弾麻里子	医学部	1,040,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
人工酵素運搬体による放射線照射の抗腫瘍効果増強—細胞傷害特性と血管新生の検討	堀之内宏久	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
脳下垂体ホルモンであるオキシトシンが敗血症の心筋および血管系におよぼす影響	芹田良平	医学部	910,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮頸部癌の診断技術改良とsiRNAを用いた新たな治療戦略	藤井多久磨	医学部	910,000 円	補 * 文部科学省 委
放射線治療後の被爆顎骨におけるインプラント埋入に関する検討(骨形態計測学的検索)	柴秀行	医学部	650,000 円	補 * 文部科学省 委
肺癌細胞と共に転移する原発巣由来ストローマ細胞は肺転移巣形成を促進する	河野光智	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト幹細胞のインビトロ心筋誘導率アッセイによる、心筋誘導因子同定と誘導効率の改善	三好俊一郎	医学部	1,100,000 円	補 * 文部科学省 委
PhD躍動メディカルサイエンス人材養成	安西祐一郎	医学部	38,502,059 円	補 * 文部科学省 委
再生心筋細胞からなる人工クント束をもちいた、完全房室ブロックの新たな治療法の研究	佐藤俊明	医学部	800,000 円	補 * 文部科学省 委
マルチ電極法を用いたマウス網膜光応答に対するプリン受容体修飾効果の検討	金田誠	医学部	650,000 円	補 * 文部科学省 委
分子動力学的手法を用いた生体高分子に関する研究	平野秀典	医学部	650,000 円	補 * 文部科学省 委
好酸球性気道炎症におけるTh2サイトカインとTLR3受容体のクロストーク	新美京子	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
膵臓性肺炎における抗炎症性脂質メディエーター、リポキシンの役割と有用性の検討	福永興吉	医学部	1,040,000 円	補 * 文部科学省 委
ARB—過性投与による高血圧・腎障害の持続抑制効果とレニン・プロレニン系の関連	石黒喜美子	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
生体肝移植後における、安全かつ効果的な生ワクチン接種	新庄正宜	医学部	650,000 円	補 * 文部科学省 委
ユビキチン加水分解酵素のマウス卵発生過程での発現と機能の検討	水澤友利	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
シングルセルからの角膜培養上皮シートの作成	川北哲也	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
寄生虫感染防御機構に関与する宿主microRNAシステムの解析	田邊将信	医学部	4,500,000 円	補 * 文部科学省 委
中枢神経特異的ユビキチンリガーゼKspotによるシナプス制御	岡野ジェイムス 洋尚	医学部	2,200,000 円	補 * 文部科学省 委
最新のバイオテクノロジー技術を用いた低侵襲心臓幹細胞移植技術の開発	福本耕太郎	医学部	1,000,000 円	補 * 文部科学省 委
治療過程管理を導入した小児横紋筋肉腫にたいする臨床試験と遺伝子解析研究	森川康英	医学部	9,620,000 円	補 * 文部科学省 委
認知症の画像検査のためのマルチモダリティコンピュータ支援診断ツールの開発	橋本順	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
「細胞と代謝」の基盤研究を担う若手育成	安西祐一郎	医学部	250,003,319 円	補 * 文部科学省 委
IL-1受容体antagonist遺伝子導入による劇症肝不全治療法の開発	高野公德	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
造血幹細胞ニッチと細胞分裂制御	須田年生	医学部	91,520,000 円	補 * 文部科学省 委
肝炎ウイルスによる肝炎・肝がんの発症機構と予防	下遠野邦忠	医学部	29,500,000 円	補 * 文部科学省 委
細胞分裂の制御とその破綻による発がん機構の解析	佐谷秀行	医学部	29,500,000 円	補 * 文部科学省 委
がん細胞の分化異常とチロシナーゼ制御	吉村昭彦	医学部	12,900,000 円	補 * 文部科学省 委
消化器がん個性診断法の開発	坂元亨宇	医学部	13,400,000 円	補 * 文部科学省 委
新しい腫瘍抗原同定に基づく免疫療法の開発	河上裕	医学部	14,000,000 円	補 * 文部科学省 委
C型肝炎ウイルス複製効率の高い培養細胞の樹立と遺伝子型1bの感染クローンの作製	杉山和夫	医学部	910,000 円	補 * 文部科学省 委
自己免疫疾患末梢抗原に対する免疫寛容獲得機構の解明	天谷雅行	医学部	18,850,000 円	補 * 文部科学省 委
有限要素シミュレーションによる眼窩吹き抜け骨折発生メカニズムの解明	永竿智久	医学部	650,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
脳虚血初期および片頭痛前兆にみられる大脳皮質拡張性抑制と毛細血管血流変化	鈴木則宏	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
成体脳神経幹細胞の活性化とニューロン新生:その制御機構の解明と可視化技術の開発	岡野栄之	医学部	114,140,000 円	補 * 文部科学省 委
ガス分子を介した新しい生体制御機構の学際的アプローチによる解明と医学への応用	末松誠	医学部	64,350,000 円	補 * 文部科学省 委
細菌感染時の樹状細胞による自然免疫系と獲得免疫系の連結機構の解明	小安重夫	医学部	16,800,000 円	補 * 文部科学省 委
サイトカインのシグナル制御と免疫制御の分子機構	吉村昭彦	医学部	27,690,000 円	補 * 文部科学省 委
抗血小板薬の薬効モニタリングの為に新しい指標の探索	村田満	医学部	11,440,000 円	補 * 文部科学省 委
CD200陽性バリエジ細胞を用いたヒト毛嚢再生の試み	大山学	医学部	5,980,000 円	補 * 文部科学省 委
インテリジェント型バイオナノカプセルによる外科領域における新治療薬の開発	上田政和	医学部	5,330,000 円	補 * 文部科学省 委
成熟脳におけるシナプス維持と記憶の形成-新しい順行性シグナルの解明	柚崎通介	医学部	10,400,000 円	補 * 文部科学省 委
神経分化と可塑性の転写後レベルにおける調節メカニズム	岡野栄之	医学部	7,900,000 円	補 * 文部科学省 委
癌細胞発現内因性レトロウイルスの生物学的意義解明と有効な癌免疫制御法開発への応用	工藤千恵	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
寄生虫感染における制御性T細胞と制御分子の役割の解明	小林隆志	医学部	4,300,000 円	補 * 文部科学省 委
発生期大脳皮質神経細胞の多段階的移動を制御する分子機構	田畑秀典	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
経頭蓋磁気刺激による皮質拡張性抑制を利用した非侵襲的な脳虚血耐性の獲得	小林正人	医学部	1,040,000 円	補 * 文部科学省 委
神経損傷における分子画像診断法の確立:細胞移植療法後のアロジニアの解析	石井賢	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
ガス分子受容・生成系を標的とした脳微小循環血流制御機構の解明	梶村眞弓	医学部	1,040,000 円	補 * 文部科学省 委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
加齢性聴力損失の栄養学的予防戦略研究ー抗酸化物質の役割に着目してー	西脇祐司	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
ABCトランスポーターにおけるNBDエンジンの動作メカニズムの解明	和馬義郎	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
培養ヒト神経幹細胞における細胞特性解析とその評価システムの開発	永井康雄	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
MAPKシグナル依存性MITF活性化機構の悪性黒色腫の病態における意義の解明	住本秀敏	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
嗅粘膜由来幹細胞とその嗅神経グリア分化誘導および脊髄損傷治療モデルの確立	松崎有未	医学部	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委
ADAM28によるvon Willebrand factor分解と癌細胞転移	望月早月	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
神経幹細胞生存因子の同定	島崎琢也	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
LPS誘発急性肝障害に対する住血吸虫感染マウスのサバイバル機構の解析	田邊将信	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
腸内細菌と腸管免疫との相互作用を介した漢方薬の抗アレルギー作用機序解明	渡辺賢治	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
ソーシャルストレスによる遺伝子発現異常の解析(乳仔期ストレス有無の影響)	石毛敦	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
低分化型大腸癌由来細胞株の分化誘導による腸管上皮発生と癌転移メカニズムの解析	江崎俊彦	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
エタノール投与の腸管虚血再灌流惹起性肝障害の影響および適正飲酒ラットモデルの作成	山岸由幸	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
脂肪性肝炎からの肝発癌における抗酸化酵素SOD1の役割	斎藤英胤	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
糖尿病心の虚血・再灌流障害に対するインスリン様成長因子Iの効果	高橋寿由樹	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
小型魚類を用いた心筋再生メカニズムの解明	牧野伸司	医学部	1,040,000 円	補 * 文部科学省 委
難治性炎症性肺疾患の病態形成におけるプロスタグランジンD2とその受容体の関与	浅野浩一郎	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
低酸素刺激下の脳血管内皮細胞におけるclaudin-5発現制御機構の解析	池田栄二	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
メタボエイジングの分子機構と抗加齢医療応用に 対する心血管内分泌代謝学的アプローチ	伊藤裕	医学部	6,240,000 円	補 * 文部科学省 委
急性呼吸不全における低酸素反応性因子の役割に関する研究	田坂定智	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
中枢神経系における神経細胞社会の構築機構	仲嶋一範	医学部	11,960,000 円	補 * 文部科学省 委
機能未知なるカオナン遺伝子の正体解明を目指す戦略的ゲノム研究	清水信義	医学部	20,540,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト人工染色体保有マウスを用いたダウン症原因遺伝子の解明	工藤純	医学部	16,380,000 円	補 * 文部科学省 委
悪性グリオーマの浸潤性及び治療抵抗性を標的とした新規治療薬の開発研究	佐谷秀行	医学部	24,050,000 円	補 * 文部科学省 委
再生医療による致死的不整脈発生機序解明と予防策と再生医療の不整脈治療への応用	三好俊一郎	医学部	8,970,000 円	補 * 文部科学省 委
義足を用いた片麻痺歩行訓練の効果に関する研究	長谷公隆	医学部	8,320,000 円	補 * 文部科学省 委
メタボリックシンドロームにおける反応性低分子による蛋白質翻訳後修飾の解析	足立健	医学部	4,940,000 円	補 * 文部科学省 委
地域在住高齢者の視覚障害予防:加齢黄斑変性等網膜疾患に対する環境疫学アプローチ	武林亨	医学部	9,230,000 円	補 * 文部科学省 委
末梢神経損傷後の回復過程における分子機構の解明	芝田晋介	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
骨髄腸管間を循環する腸炎惹起免疫記憶T細胞の全身播種性を制御する新規治療法の開発	金井隆典	医学部	7,020,000 円	補 * 文部科学省 委
メタロプロテアーゼによる組織内微小環境因子代謝の作用機構解明と制御	岡田保典	医学部	29,120,000 円	補 * 文部科学省 委
血球転写因子による白血病幹細胞の自己複製制御メカニズムの解明と治療への応用	中島秀明	医学部	8,840,000 円	補 * 文部科学省 委
血管内皮前駆細胞異常に注目した強皮症の病態解析と新規治療法の開発	桑名正隆	医学部	8,320,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
細胞内カルシウムシグナル伝達による心臓発生の領域別制御とその分子機構の解明	山岸敬幸	医学部	5,460,000 円	補 * 文部科学省 委
担癌生体免疫制御解除法の併用による消化器癌に対する新規免疫制御法の構築	河上裕	医学部	7,150,000 円	補 * 文部科学省 委
グリオーマ・癌幹細胞共通抗原を標的とした免疫療法の開発	戸田正博	医学部	8,970,000 円	補 * 文部科学省 委
骨形成プログラムの起動と終了の分子機構解明	松尾光一	医学部	8,970,000 円	補 * 文部科学省 委
神経堤幹細胞を用いた脊髄損傷治療法の確立	中村雅也	医学部	10,270,000 円	補 * 文部科学省 委
癌の進展に対して抑制的に作用するヒトモノクローナル抗体の開発	青木大輔	医学部	4,550,000 円	補 * 文部科学省 委
皮膚を完全に再生しうるヒト体性細胞の分離	貴志和生	医学部	6,240,000 円	補 * 文部科学省 委
遺伝子多型情報を用いた減塩介入の血圧値と行動に対する影響の評価	宮木幸一	医学部	4,420,000 円	補 * 文部科学省 委
マウス腸間膜に新たに見出したT前駆細胞を含むリンパ集積の機能解析	茂呂和世	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
MSI陽性子宮体癌におけるフレームシフト変異タンパクの検出と免疫療法への応用	岩田卓	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト羊膜上皮層のクローディングによる傍細胞経路の調節機構	小林謙	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
神経伝達物質による樹状突起電位依存性チャネル制御の薬理的解析	塗谷睦生	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
マーマセットES細胞由来心筋細胞のシート作製と移植	服部文幸	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
膜脂質変化から始まる浸潤突起形成のメカニズムを解く	及川司	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト赤血球代謝応答の大規模数理モデルによる予測と網羅的代謝解析による実証	谷内江綾子	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
経皮水分蒸散量と皮膚バリア遺伝子多型に基づいたアトピー性皮膚炎関連遺伝子の探索	佐々木貴史	医学部	2,730,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
肝がん発がんにおける異常へのがん・幹細胞関連遺伝子Bmi1の関与の解明	森泰昌	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
炎症性腸疾患におけるADAM分子を介した新規炎症機構の解明	下田将之	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
大脳皮質形成の神経細胞の移動と形態変化における膜輸送関連分子群の果たす役割	川内健史	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
骨髄由来間葉系幹細胞のc-Mycによる発癌モデル構築と発癌機構解明、その克服	清水孝恒	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
神経系におけるRNA結合蛋白質Musashi2の機能解析	桑子賢一郎	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
救急初期診療に必要な侵襲的手技のためのマネキンと屍体による臨床解剖学教育の開発	山崎元靖	医学部	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委
胃排出障害ラットモデルにおけるグレリン動態とGHS受容体発現の検討	岩崎栄典	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
IL-23産生腸管粘膜マクロファージのクローン病病態への関与	鎌田信彦	医学部	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委
水素の抗酸化作用による心筋虚血再灌流障害抑制効果の検討	林田健太郎	医学部	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委
糖尿病による心不全発症における性差とホルモン補充療法の有効性の検討	小出希実	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
樹状細胞を介した心筋虚血再灌流障害に及ぼす14員環マクロライドの影響	城祐輔	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
ポリクローナル免疫グロブリンG静脈内投与の心筋虚血再灌流傷害に対する効果	上野耕嗣	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
大動脈瘤の発生及び伸展におけるHMGB1の役割	河野隆志	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
誘導多能性幹細胞由来の心筋細胞分化誘導法の確立および心不全治療への応用	大野洋平	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
脳神経機能に関与するTPRモチーフタンパク複合体の機能解明	泉山朋大	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
育児期の母親の拘束ストレスが母子双方に及ぼす影響の解析	西村甲	医学部	1,600,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
ドナー由来線維芽細胞による眼移植片対宿主病の発症機構の解明と治療法の開発	小川葉子	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
酸化ストレスによる角膜上皮細胞の形質転換と悪性転化の抑制	加藤直子	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒルシユスプルング病における神経堤幹細胞移植治療の可能性に関する研究	下島直樹	医学部	2,730,000 円	補 * 文部科学省 委
侵襲病態下における生体内細胞環境変動の解明と、これに基づく新規予防、治療法開発	藤島清太郎	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
IL-18結合蛋白遺伝子導入による肝虚血再灌流障害抑制法の開発と肝移植への応用	篠田昌宏	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
性差に注目したアルツハイマー病関連記憶障害発症機構の解析	山田真史奈	医学部	1,900,000 円	補 * 文部科学省 委
病原活性を持つ新しいモノクローナル抗体を用いた落葉状天疱瘡水疱形成の解明	石河晃	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
腫瘍発生のリスクのない多能性幹細胞移植治療の開発の基礎的研究	赤松和土	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
遺伝子改変メダカを用いた分裂異常に基づく発癌モデルの構築	佐谷秀行	医学部	3,400,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒアルロン酸マトリクス代謝およびCD44細胞外ドメイン切断阻害による癌浸潤抑制	永野修	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
ヘルパーT細胞分化のシミュレーション	吉村昭彦	医学部	3,400,000 円	補 * 文部科学省 委
レドックス応答の制御機構の解明	片山隆晴	医学部	3,380,000 円	補 * 文部科学省 委
心臓形成に関わる新規転写因子の機能解析	福田忠一	医学部	3,200,000 円	補 * 文部科学省 委
ES細胞を用いた幹細胞代謝と老化に対する心血管ホルモンの作用とメタボローム解析	伊藤裕	医学部	3,200,000 円	補 * 文部科学省 委
網羅的エピジェネティクス解析による脳腫瘍幹細胞特異的な遺伝子発現調節機構の解明	戸田正博	医学部	1,600,000 円	補 * 文部科学省 委
破骨細胞分化後期におけるc-Fosの役割の解明	高田康成	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
IP3受容体およびムスカリニック受容体欠損マウスを用いた涙液分泌機構	坪田一男	医学部	1,600,000 円	補 * 文部科学省 委
βブロッカーは敗血症患者の救命率を高める— 擬似ラットモデルでの検討	森崎浩	医学部	1,400,000 円	補 * 文部科学省 委
マーモセット大脳皮質における抑制性神経細胞 の移動経路・様式の解明	田中大介	医学部	4,030,000 円	補 * 文部科学省 委
神経系の新しいサイトカインCblnファミリー分子 の機能解析	飯島崇利	医学部	3,250,000 円	補 * 文部科学省 委
神経細胞における樹状突起特異的輸送機構	松田信爾	医学部	3,250,000 円	補 * 文部科学省 委
耳小骨を用いた骨細管ネットワークの3次元解 析	松尾光一	医学部	1,700,000 円	補 * 文部科学省 委
フィーダー細胞表面に存在する上皮分化抑制因 子の同定	宮下英之	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
卵巣癌腹膜播種形成において糖鎖が果たす役 割の解明と分子標的治療への応用	野村弘行	医学部	2,730,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮頸癌の免疫逃避機構の解明と免疫療法へ の応用	西尾浩	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
哺乳類卵子成熟、減数分裂過程における卵子特 異的リンカーヒストンの関与	浅井哲	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮体癌における統合的ゲノム解析ならびにマ イクロRNA解析による分子機構の解明	平沢晃	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
転移性卵巣腫瘍における卵巣特異的転移機序 及び癌・間質相互作用の研究	桑原佳子	医学部	2,990,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮頸部腺癌に対する抗腫瘍ペプチドの開発	大野暁子	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
月経関連遺伝子産物の機能解析と子宮内膜炎 の発症・進展に果たす役割	小田英之	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
内耳炎症メカニズムの解明とインターロイキン6阻 害による難聴治療に関する基礎的検討	若林健一郎	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
SOD1欠損マウスの加齢黄斑変性病態における 網膜色素上皮細胞の上皮間葉移行	平沢学	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
心臓副交感神経の正常発生と分布に必須の因子に関する研究	荒井隆秀	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒアルロン酸-CD44シグナルによる上皮間葉移行の脈絡膜血管新生における役割	厚東隆志	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
げっ歯類および霊長類脊髄損傷に対する神経堤幹細胞移植治療の確立	名越慈人	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
マウス無色素上皮の培養系ならびにそれを用いた抗緑内障薬のスクリーニング系の確立	結城賢弥	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
周辺視野の低次および高次収差データの取得とその臨床的意義の検討	山口剛史	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
角膜内皮不全が角膜上皮幹細胞疲弊症を来すメカニズムの解明	内野裕一	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
角膜輪部上皮メラノサイトの役割の同定および角膜上皮幹細胞との相互作用の解明	川島素子	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
糖尿病網膜症モデルにおける白血球接着分子LFA-1, Mac-1の機能解析	野田航介	医学部	3,510,000 円	補 * 文部科学省 委
涙腺の炎症におけるマクロファージの役割	稲葉隆明	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
敗血症に対するニカラベン投与の臓器保護効果	鈴木武志	医学部	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委
神経前駆細胞の運命決定を担う因子の生体レベルでの探索と解析	菅田浩司	医学部	1,742,000 円	補 * 文部科学省 委
新規ALS原因遺伝子VAPBの機能解析	金蔵孝介	医学部	1,742,000 円	補 * 文部科学省 委
遺伝子改変加齢黄斑変性モデルマウスを用いた青色光刺激による網膜機能・病態の解析	小泉春菜	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
遺伝子解析による化学放射線治療感受性予測法の開発～腫瘍細胞を用いた基礎研究～	深田淳一	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
病原性モノクローナル抗体を用いた天疱瘡の口腔粘膜病変発症機序の解明	角田和之	医学部	2,730,000 円	補 * 文部科学省 委
メダカ心室筋形成不全突然変異体を用いた心臓発生の究明	尹誠漢	医学部	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
網羅的代謝解析を用いた白血球によるCOPD発症機構の解明	高宮里奈	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
グルタミン酸毒性増悪因子D-セリンを標的とした筋萎縮性側索硬化症の新規治療法開発	笹部潤平	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
DDAH2過剰発現マウスの降NO、インスリン分泌上昇による糖尿病改善効果の検討	長谷川一宏	医学部	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委
悪性リンパ腫におけるがん抗原特異的制御性T細胞誘導機構の解明とその制御法の開発	松下麻衣子	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
生体内神経前駆細胞におけるp27Kip1の発現調節メカニズムに関する研究	三橋隆行	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
小児PCOS診断におけるLC-MS/MS唾液中ステロイドホルモン一斉分析の有用性	天野直子	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
血中ステロイド一斉測定および病理組織検体をを用いた超早産児の副腎機能の検討	三輪雅之	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
リボソーム法を用いたIL-15遺伝子導入による膀胱癌治療および再発予防効果	松本一宏	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
放射線による臓器障害・線維化のメカニズムの解析—HGF投与による放射線障害抑制—	上竹亜記子	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
インターロイキン27受容体遺伝子欠損マウスにおける炎症性骨破壊モデルの解析	古川満	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
拡散テンソル画像を用いた末梢神経損傷軸索および再生軸索の可視化	高木岳彦	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
温度感受性ナノ磁性体を用いたセンチネルリンパ節の診断と温熱療法の開発	平岩訓彦	医学部	3,510,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト胃癌幹細胞の機能解析	伊藤亮	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
食道扁平上皮癌におけるケモカインレセプター発現と臓器特異性転移機構の解明	入野誠之	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
心臓腱索に特異的発現の見られる血管新生抑制因子デノジュリンの機能解析	木村成卓	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
肺胞上皮幹細胞の組織再生能に差をもたらす制御因子は何か	羽藤泰	医学部	2,730,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
破骨細胞分化制御におけるRANK `ectodomain sheddingの役割	箱崎彰裕	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
体細胞由来人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた脊髄損傷治療	辻収彦	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
頸長類脊髄損傷に対するHGFの有効性および治療法の確立	北村和也	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
CSEノックアウトマウスを用いた高ホモシステインモデルにおける血管障害の解明	山本美智子	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
発達段階特異的なアドリアマイシン投与によるVATER連合発症機構の解明	内藤陽子	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
ウシチクロム酸化酵素のプロトン輸送系の変異体解析	島田秀夫	医学部	3,100,000 円	補 * 文部科学省 委
血管内皮前駆細胞移植による一過性脳虚血後の血管発生の神経機能回復	船良知弘	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
可撤性義歯によるインプラントと天然歯の連結に関する実験的研究	堀江伸行	医学部	910,000 円	補 * 文部科学省 委
慢性筋性顎関節症のセロトニン機能異常による中枢痛覚過敏化と下行性抑制系不全の関与	村岡渡	医学部	780,000 円	補 * 文部科学省 委
TRAF6シグナル経路による炎症性発がんの制御	小林隆志	医学部	5,400,000 円	補 * 文部科学省 委
ADAM28の癌細胞増殖・浸潤・転移における作用解析	岡田保典	医学部	7,200,000 円	補 * 文部科学省 委
有効な腫瘍マーカーのない婦人科悪性腫瘍に対する新しい腫瘍マーカーの確立	津田浩史	医学部	2,800,000 円	補 * 文部科学省 委
がんのメタボローム解析に基づく抗がん剤反応性予測の新戦略	谷川原祐介	医学部	4,900,000 円	補 * 文部科学省 委
ゲノムコホート研究の社会的認知と血液提供意志に寄与する因子の探索	宮木幸一	医学部	2,100,000 円	補 * 文部科学省 委
大脳皮質神経細胞の配置制御	仲嶋一範	医学部	4,000,000 円	補 * 文部科学省 委
インジウム曝露作業者の呼吸器障害に関するコホート研究	大前和幸	医学部	16,510,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
他者理解と適応的運動の社会神経科学的メカニズムの解明	加藤元一郎	医学部	5,000,000 円	補 * 文部科学省 委
毛周期における血管リモデリング制御機構の解明	久保田義顕	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
神経細胞樹状突起へのAMPA受容体トランスポートソームの特異的輸送機構	柚崎通介	医学部	4,100,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮内膜症の慢性疼痛発症における疼痛関連遺伝子の解析と新規疼痛関連分子の探索	浅田弘法	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
哺乳類動物におけるAPC活性化因子cdh1による多倍体化制御機構とその意義の解明	國仲慎治	医学部	3,000,000 円	補 * 文部科学省 委
卵子の遺伝子発現プロファイリング解析に基づく抗加齢生殖研究	末岡浩	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
自己類似腸内細菌に対する末梢性免疫寛容の生体ライフスパンとその破綻	金井隆典	医学部	4,800,000 円	補 * 文部科学省 委
細胞内シグナル伝達による自己応答性の制御	小林隆志	医学部	5,000,000 円	補 * 文部科学省 委
腸管免疫系の炎症誘発に関わるTh17細胞の分化・機能におけるPI3Kの役割	永井重徳	医学部	4,800,000 円	補 * 文部科学省 委
細胞内細菌処理機構からみた腸管粘膜免疫システムの解明と炎症性腸疾患治療への応用	井上詠	医学部	11,700,000 円	補 * 文部科学省 委
転移因子とArgonauteの軍拡競争からゲノムの進化を探る	塩見春彦	医学部	57,330,000 円	補 * 文部科学省 委
成熟脳におけるシナプス可塑性機構の解析と制御—2つの新しいツールを用いて	柚崎通介	医学部	4,500,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮内膜症からの発癌機序に寄与する候補分子の網羅的検索およびその機能解析	東口敦司	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
肺切除術後の残存肺には急性肺損傷が潜在する	江間俊哉	医学部	910,000 円	補 * 文部科学省 委
ガス分子による癌治療 —一酸化窒素(NO)ドナーを用いた肺癌治療の開発	朝倉啓介	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
胚芽腫及びその幹細胞の浸潤機構解明と臨床応用	高橋里史	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
細胞融合因子DC-STAMPのリガンドの同定と細胞融合機構の解明	宮本健史	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
椎間板変性に対する脊索性髄核の役割	辻崇	医学部	780,000 円	補 * 文部科学省 委
進行性骨化性線維異形成症のモデルメダカの作製と発症機構の解明	清水厚志	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
肝虚血再灌流障害における環状グアノシンーリン酸の関与	山田高成	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
顔面痛覚情報処理における三叉神経脊髄路核GABA性ニューロンの役割	細川幸希	医学部	910,000 円	補 * 文部科学省 委
ヒト型子宮内膜炎モデルマウスの作成とその非侵襲的リアルタイム解析システムの開発	升田博隆	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
急性大動脈解離におけるMatrix metalloproteinaseの関与	栗原智宏	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮内膜炎患者の新規治療法開発を目的としたglycodelinによる増殖制御の解析	太田邦明	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
環境温度と血管収縮	上野浩一	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
子宮内膜炎の卵巣明細胞癌、類内膜腺癌への悪性化メカニズムの解析	赤羽智子	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
エレクトロポレーションを用いた、声帯萎縮・癩痕に対する遺伝子治療	稲垣康治	医学部	1,170,000 円	補 * 文部科学省 委
ストレス評価、遺伝子多型解析の耳鼻咽喉科テーラーメイド医療への応用	五島史行	医学部	1,300,000 円	補 * 文部科学省 委
骨粗鬆症と大理石骨病モデルマウスの耳小骨リモデリング異常による聴覚障害の検討	神崎晶	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
音響外傷性難聴のメカニズムの解明およびその防御	山下大介	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
糖尿病モデルマウスにおけるARBによる視機能保護効果の解析	栗原俊英	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
眼内血管新生におけるADAM28の関与	篠田肇	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
オメガ-3不飽和脂肪酸摂取による脈絡新生血管の抑制	持丸博史	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
マウス角膜移植モデルを用いた末梢神経再生機序の解明	大本雅弘	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
神経細胞の分化成熟過程における細胞周期関連タンパク質の役割	川内健史	医学部	3,400,000 円	補 * 文部科学省 委
M期チェックポイント遺伝子siRNAのアテロロラーゲンDDSによる子宮体癌治療	矢野倉恵	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
母体低栄養、ステロイド投与のネフロン形成への影響およびそのメカニズムの解明	栗津緑	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
脂肪肝炎症状態における、肝インスリン抵抗性・酸化ストレスparadoxの解明	富田謙吾	医学部	3,380,000 円	補 * 文部科学省 委
消化器癌における癌幹細胞の同定、分離および生物学的特性の解析	樋口肇	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
心房細動の細胞基質およびアップストリーム治療	城下晃子	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
骨髄由来樹状細胞の心筋梗塞後左室リモデリングに及ぼす影響	安齊俊久	医学部	1,820,000 円	補 * 文部科学省 委
FG視覚センサーによるCOPD患者に対する非侵襲的運動負荷検査法の確立	仲村秀俊	医学部	2,990,000 円	補 * 文部科学省 委
成体幹細胞システムを標的にした雌性生殖器官疾患の病因解明とその制御	吉村泰典	医学部	37,050,000 円	補 * 文部科学省 委
高血圧の退行療法確立とエピジェネティクス技術を用いた分子機序の検討	篠村裕之	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
神経細胞間で機能する新しい分泌性C1qファミリー分子群の解析	袖崎通介	医学部	3,800,000 円	補 * 文部科学省 委
筋炎特異自己抗体の病因的・臨床的意義と病態形成機序の解明	平形道人	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
クローン病マクロファージの機能解析:オートファジーから見た細菌応答・分化異常	岡本晋	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
先天性甲状腺機能低下症の分子遺伝学的発機序および病態生理の解明	長谷川奉延	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
慢性腎臓病進展におけるTRPC6、NF- κ B、NFATの分子連関の役割の解明	林松彦	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
胎児副腎の構造的・機能的リモデリングにおける神経細胞接着因子NCAMの役割	峰岸一宏	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
ラミニン5欠損ヒト皮膚を用いた基底膜構成成分の生体内相互作用の免疫電顕的解析	増永卓司	医学部	2,210,000 円	補 * 文部科学省 委
天疱瘡モノクローナル一本鎖抗体を用いた新規の客観的重症度評価法の開発	石井健	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
中心体数制御異常を通じたボーエン病の病態形成メカニズムの解析とモデルマウスの作製	久保亮治	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
GISTにおけるがん幹細胞の同定と機能解析;グリベック耐性克服を目指して	才川義朗	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
胸(腹)部大動脈瘤手術における持続的脊髄冷却法による脊髄保護効果の臨床的研究	志水秀行	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
呼吸器外科疾患の早期診断を目指した気道上皮被覆液の生化学的およびプロテオーム解析	渡辺真純	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
神経膠腫における分子生物学的分類の構築と、個別化治療の確立	佐々木光	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
膀胱癌に対する新規NF- κ B活性阻害剤を併用した抗癌治療戦略の確立	菊地栄次	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
BAC遺伝子導入マウスを用いたStARのミトコンドリア標的シグナルの必要性の解析	石井智弘	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
磁性体を用いた新しい子宮内膜症モデルの開発	丸山哲夫	医学部	12,610,000 円	補 * 文部科学省 委
抗がん剤反応性の個体差解明とバイオマーカー開発をめざしたプロテオーム解析	谷川原祐介	医学部	6,890,000 円	補 * 文部科学省 委
神経細胞死をターゲットとした神経変性疾患治療法の開発	松岡正明	医学部	7,280,000 円	補 * 文部科学省 委
慢性期脳梗塞の病態におけるStat3リン酸化の意義	鈴木重明	医学部	1,430,000 円	補 * 文部科学省 委
時期特異的遺伝子強制発現マウスを用いた神経幹細胞のクロマチン調節機構に関する研究	高橋孝雄	医学部	6,370,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
アミノ酸代謝モニタリングを用いた炎症性腸疾患の臨床マーカーの確立と治療への応用	久松理一	医学部	2,470,000 円	補 * 文部科学省 委
内耳の易受傷性と加齢変化に関する検討	小川郁	医学部	7,410,000 円	補 * 文部科学省 委
若年性心臓突然死の国際比較II-Brugada症候群との関連性	藤田真幸	医学部	5,850,000 円	補 * 文部科学省 委
デルタ2グルタミン酸受容体の新たなシグナル伝達機構-N末端、C末端領域の機能解析	幸田和久	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
樹状細胞が分泌する新規神経幹細胞増殖因子の機能解析	大多茂樹	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
脳波一筋電図コヒーレンスの運動調節における意義	木村彰男	医学部	3,380,000 円	補 * 文部科学省 委
ピロリ菌のヒトへの新たな感染経路の解明	山田健人	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委
心筋レドックス応答におけるアミノ酸代謝の重要性	佐野元昭	医学部	10,010,000 円	補 * 文部科学省 委
経頭蓋直流電気刺激の脳卒中片麻痺上肢リハビリテーションへの応用	藤原俊之	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
潰瘍性大腸炎合併大腸癌に対するp53抗体を用いた新しいサーベイランス法の確立	岩男泰	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
超高齢者の栄養、主観的QOL、健康状態に関する包括的研究	高山美智代	医学部	2,340,000 円	補 * 文部科学省 委
病原性原虫における含硫アミノ酸分解酵素の生理的役割と反応メカニズムの解明	佐藤暖	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
APC活性化因子cdh1を介した細胞移動・浸潤制御の可能性に関する研究	國仲慎治	医学部	1,560,000 円	補 * 文部科学省 委
呼吸リズムパターン形成に関わる頸髄呼吸神経回路網の全容解明	岡田泰昌	医学部	1,690,000 円	補 * 文部科学省 委
アスコルビン酸の副腎皮質層特異的ステロイドホルモン産生系への関与とその分子機構	三谷芙美子	医学部	2,860,000 円	補 * 文部科学省 委
生体内エネルギー代謝恒常性調節機構解明によるメタボリック症候群へのアプローチ	渡辺光博	医学部	2,080,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
リンパ浮腫に対する治療効果と生理学的機序に関する研究	辻哲也	医学部	3,120,000 円	補 * 文部科学省 委
B細胞における細胞内シグナル制御因子の生理的機能の解明	小林隆志	医学部	1,950,000 円	補 * 文部科学省 委
代替医療・統合医療の科学的評価手法確立に向けた調査研究	渡辺賢治	医学部漢方医学センター	2,600,000 円	補 * 文部科学省 委
慶應義塾大学医学部再生医学・治療研究開発センタープロジェクト	福田恵一	医学部坂口光洋記念講座	27,500,000 円	補 * 文部科学省 委
光刺激・タイムラプスZフォーカス自動補正システム	仲嶋一範	医学部基礎教室	26,649,000 円	補 * 文部科学省 委
動物実験医学の研究支援者育成システム	相磯貞和	医学部基礎教室	49,193,448 円	補 * 文部科学省 委
再生医療実現化を目指したヒトiPS細胞・ES細胞・体性幹細胞研究拠点	岡野栄之	医学部基礎教室	534,500,000 円	補 * 文部科学省 委
「先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独自の霊長類モデルの開発と応用」(遺伝子改変コモンマウスモデルによるヒト神経疾患モデルの開発)	岡野栄之	医学部基礎教室	30,000,000 円	補 * 文部科学省 委
幹細胞医学のための教育研究拠点	岡野栄之	医学部基礎教室	345,930,000 円	補 * 文部科学省 委
「ミトコンドリア呼吸の作用機序の全容の解明を目指す高分解能立体構造解析と機能解析」(ミトコンドリアチトクロム酸化酵素のプロトンポンプ機構の分子生物学的研究)	島田秀夫	医学部基礎教室	10,558,835 円	補 * 文部科学省 委
「次世代生命体統合シミュレーションソフトウェアの研究開発」(系統的分子探索に立脚した細胞シミュレーション開発による臓器代謝モデル構築)	末松誠	医学部基礎教室	49,500,000 円	補 * 文部科学省 委
In vivoヒト代謝システム生物学拠点	末松誠	医学部基礎教室	318,760,000 円	補 * 文部科学省 委
網羅的代謝解析技術の医学・生物学への応用研究プロジェクト	末松誠	医学部基礎教室	20,000,000 円	補 * 文部科学省 委
「非翻訳RNAによる高次細胞機能発現機構の解明」(Argonaute蛋白質の構造-機能相関)	塩見春彦	医学部基礎教室	10,000,000 円	補 * 文部科学省 委
ノンコーディングRNAによるゲノム情報発現制御機構の解析	塩見春彦	医学部基礎教室	13,000,000 円	補 * 文部科学省 委
難治性癌疾患に対する治療法開発プロジェクト	戸田正博	医学部臨床教室	9,700,000 円	補 * 文部科学省 委

16

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又委託元
「日本の特長を活かしたBMIの統合的研究開発」 (ブレイン・マシン・インターフェースの臨床応用を 目指した医工連携プロジェクト「機能代償シス	里宇明元	医学部臨床教室	59,999,873 円	補 文部科学省 委*

/
576件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

【論文発表等の実績】

巻号頁	雑誌名	発行年	題名	発表者氏名	所属部門
93 s1 185	Hematologica	2008	Identification of Cancer Stem Cells in B-cell Lymphoid Hematologic Malignancies	西田浩子 他	総合医科学研究センター
32 8 1325-1327	Leukemia Resarch	2008	Isochromosome i(17q) as a sole cytogenetic abnormality in a case of leukemic transformation from myelodysplastic syndrome (MDS)/myeloproliferative diseases (MPD).	西田浩子 他	総合医科学研究センター
65 9 996-1006	Arch Gen Psychiatry	2008	Recruitment of PCM1 to the centrosome by the cooperative action of DISC1 and BBS4: a candidate for psychiatric illnesses	久保亮治	総合医科学研究センター
22 15 76-93	ロッキング・オン・ジャパン10月号増刊 SIGHT	2008	「万能細胞」は究極の治療法となるのか	八代嘉美	総合医科学研究センター
40 15 77-81	ユリイカ	2008	電子の世界の幹細胞よ、汝の名は初音ミク	八代嘉美	総合医科学研究センター
48 11 522-525	Neurol Med Chir (Tokyo)	2008	Development of Testicular Alpha-Fetoprotein-Secreting Germ Cell Tumor 3 Years After Treatment of Intracranial Lesion Suggesting Non-Secreting Germ Cell Tumor on The Basis of Clinical Data -Case Report-	高橋里史	総合医科学研究センター
72 11 1829-1835	Circ J	2008	Application of support vector machine classifiers to preoperative risk stratification with myocardial perfusion scintigraphy	久保亮治 他	総合医科学研究センター
19 12 5338-5346	Mol Biol Cell	2008	Sentan: a novel specific component of the apical structure of vertebrate motile cilia	久保亮治 他	総合医科学研究センター
19 2 117-121	Endocr Pathol.	2008	Combined gangliocytoma and prolactinoma of the pituitary gland	高橋里史	総合医科学研究センター
47 3-9	神経化学	2008	神経細胞の分化・死・増殖を制御する細胞周期の役割	味岡逸樹	総合医科学研究センター
26 539-542	実験医学	2008	最終分化を終えた網膜水平細胞の増殖による転移性腫瘍形成	味岡逸樹	総合医科学研究センター
	神経化学			味岡逸樹	

342-346		明]		ンター
Cell Cycle 7 735-740	2008	"A new model of tumor susceptibility following tumor suppressor gene inactivation"	味岡逸樹	総合医科学研究センター
International Journal of Hematology. 89 1 24-33	2009	Transcriptional profiling of hematopoietic stem cells by high-throughput sequencing.	八代嘉美	総合医科学研究センター
Biochemical and Biophysical Resarch Communucations 382 1 57-62	2009	CD9 correlates with cancer stem cell potentials in B-acute lymphoblastic leukemia.	西田浩子	総合医科学研究センター
朝日新聞 2009		バイオテクノロジー・生きる権利のために用いよ	八代嘉美	総合医科学研究センター
Biochemical and Biophysical Resarch Communucations 382 2 172-177	2009	Isolation of cancer stem cell-like population by CD90 and CD110 in human T-acute lymphoblastic leukemia	西田浩子 他	総合医科学研究センター
博士論文 2009		マウス造血幹細胞の冬眠状態維持に関わる機能分子の探索および解析	八代嘉美	総合医科学研究センター
BRAIN and NERVE、特集「神経系の発生とその異常」(ゲストエディター: 仲嶋一範) 60 4 395-403	2008	大脳皮質構築のメカニズム	仲嶋一範	解剖学
Journal of Neuroscience 28 22 5794-5805	2008	Cell-autonomous roles of ARX in cell proliferation and neuronal migration during corticogenesis	金谷繁明	解剖学
Dev. Biol. 317 1 147-160	2008	Time constraints and positional cues in the developing cerebellum regulate Purkinje cell placement in the cortical architecture.	仲嶋一範	解剖学
J. Neurosci. 28 22 5794-5805	2008	Cell-autonomous roles of ARX in cell proliferation and neuronal migration during corticogenesis.	仲嶋一範	解剖学
Develop. Growth Differ. 50 6 507-511	2008	Labeling embryonic mouse central nervous system cells by in utero electroporation	仲嶋一範	解剖学
Mol. Cell. Neurosci. 38 4 474-483	2008	The cortical subventricular zone-specific molecule Svet1 is part of the nuclear RNA coded by the putative Netrin receptor gene Unc5d and is expressed in multipolar migrating cells.	仲嶋一範	解剖学
Arch. Gen. Psychiatry		Recruitment of PCMI to the centrosome by the		

65	9	2008	cooperative action of DISC1 and BBS4: a candidate for psychiatric illnesses.	仲嶋一範		解剖学	
	996-1006						
Journal of Neuroscience	28	50	2008	COUP-TFII is preferentially expressed in the caudal ganglionic eminence and is involved in the caudal migratory stream.	金谷繁明	他	解剖学
	13582-13591						
J. Neurosci.	28	50	2008	COUP-TFII is preferentially expressed in the caudal ganglionic eminence and is involved in the caudal migratory stream	仲嶋一範		解剖学
	13582-13591						
Neuropsychopharmacology	33	8	2008	Nasal Colivelin treatment ameliorates memory impairment related to Alzheimer's disease.	千葉知宏	他	解剖学
	2020-2032						
Encyclopedia of Neuroscience (Editors: Marc D. Binder, Nobutaka Hirokawa and Uwe Windhorst)			2008	Neurogenesis	仲嶋一範		解剖学
	2673-2676						
実験医学 増刊「神経回路の制御と脳機能発現のメカニズム」	26	12	2008	発生期大脳皮質を接線方向に移動するニューロンの起源と移動経路の制御機構	仲嶋一範		解剖学
	1847-1851						
Dev. Neurosci.	30	1-3	2008	Molecular Pathways Regulating Cytoskeletal Organization and Morphological Changes in Migrating Neurons	川内健史	他	解剖学
	36-46						
Electroporation and Sonoporation in Developmental Biology(Editor: Harukazu Nakamura)			2009	In utero electroporation; assay system for migration of cerebral cortical neurons.	仲嶋一範		解剖学
	143-152						
The Journal of Neuroscience	28	6	2008	Differential regulation of synaptic plasticity and cerebellar motor learning by the C-terminal PDZ-binding motif of GluRdelta2.	掛川渉	他	生理学
	1460-1468						
Spine	33	9	2008	Surgical results and related factors for ossification of posterior longitudinal ligament of the thoracic spine: a multi-institutional retrospective study	西脇祐司	他	衛生学公衆衛生学
	1034-1041						
労働の科学	63	5	2008	まさかの化学物質による健康障害と対策 2 インジウム	大前和幸	他	衛生学公衆衛生学
	30-33						
日本医事新報	4384		2008	介護予防のための特定高齢者選定のあり方に関する調査研究 -基本健康診査受診者と非受診者の比較から-	西脇祐司	他	衛生学公衆衛生学
	72-75						
Medicina	45	5	2008	【炎症性腸疾患と機能性腸疾患 病態の理解と求められる対応】腸疾患診療のために知っておきたい病態と疫学 炎症性腸疾患と機能性腸疾患の疫学	朝倉敬子	他	衛生学公衆衛生学
	785-788						

健康開発								
12	3	2008	産業医の職場巡視による事業所内外の健康リスクの把握とその低減対策	島田直樹	他	衛生学公衆衛生学		
	35-40							
Journal of Occupational Health			Urinary excretion of an oxidative stress marker, 8-hydroxyguanine (8-OH-Gua), among nickel-cadmium battery workers	吉岡範幸	他	衛生学公衆衛生学		
50	3	2008						
	229-235							
臨床血液			第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会 プレナリー・セッション 多発性骨髄腫における肝細胞増殖因子 (HGF) の予後因子としての意義と分子標的療法	島田直樹	他	衛生学公衆衛生学		
49	6	2008						
	359-366							
Keio Journal of Medicine			Relationship between low evaluation by recipients under 40 years old of health interviews by occupational health nurses and deterioration in health checkup results over one year	島田直樹	他	衛生学公衆衛生学		
57	2	2008						
	90-98							
Cancer Science			Single-institute phase 2 study of thalidomide treatment for refractory or relapsed multiple myeloma: Prognostic factors and unique toxicity profile	島田直樹	他	衛生学公衆衛生学		
99	6	2008						
	1243-1250							
臨床整形外科			【胸椎後縦靭帯骨化症の治療 最近の進歩】胸椎後縦靭帯骨化症に対する手術成績に影響を与える因子の検討 多施設後ろ向き研究	西脇祐司	他	衛生学公衆衛生学		
43	6	2008						
	531-538							
日本公衆衛生雑誌			中高年者における尿失禁に関する調査	西脇祐司	他	衛生学公衆衛生学		
55	7	2008						
	449-455							
Journal of Occupational Health			Marital Status and Cardiovascular Risk Factors among Middle-aged Japanese Male Workers: The High-risk and Population Strategy for Occupational Health Promotion (HIPOP-OHP) Study	武林亨	他	衛生学公衆衛生学		
50	4	2008						
	348-356							
Modern Pathology			Histopathological features and prognostic significance of the micropapillary pattern in lung adenocarcinoma	島田直樹	他	衛生学公衆衛生学		
21	8	2008						
	992-1001							
Respiration			Bronchoscopic microsampling to analyze the epithelial lining fluid of patients with pulmonary Mycobacterium avium complex disease	武林亨	他	衛生学公衆衛生学		
76	3	2008						
	338-343							
日本衛生学雑誌			日本で市販されている食品中のヨウ素含有量	菊池有利子	他	衛生学公衆衛生学		
63	4	2008						
	724-734							
Hypertension Research			The Short Treatment with the Angiotensin Receptor Blocker Candesartan Surveyed by Telemedicine (STAR CAST) Study: Rationale and Study Design	武林亨	他	衛生学公衆衛生学		
31	10	2008						
	1843-1849							
理学療法科学				西脇祐司	他	衛生学公衆衛生学		

597-600			要因に関する研究		
Occupational and Environmental Medicine					
65	10	2008	Volcanic sulfur dioxide and acute respiratory symptoms on Miyakejima island	菊池有利子	他 衛生学公衆衛生学
			701-707		
Journal of Occupational Health					
50	6	2008	Oral Toxicity of Indium in Rats: Single and 28-Day Repeated Administration Studies	朝倉敬子	他 衛生学公衆衛生学
			471-479		
産業医学ジャーナル					
31	6	2008	炭素繊維の毒性	大前和幸	他 衛生学公衆衛生学
			74-77		
The Journals of Gerontology Series A: Biological Sciences and Medical Sciences					
63	11	2008	Adipose endocrine function, insulin-like growth factor-1 axis, and exceptional survival beyond 100 years of age	武林亨	他 衛生学公衆衛生学
			1209-1218		
Ophthalmology					
115	11	2008	Prevalence of Dry Eye Disease among Japanese Visual Display Terminal Users	武林亨	他 衛生学公衆衛生学
			1982-1988		
American Journal of Infection Control					
36	10	2008	Surgical site infection risk factors identified by multivariate analysis for patient undergoing laparoscopic, open colon, and gastric surgery	大前和幸	他 衛生学公衆衛生学
			727-731		
上原記念生命科学財団研究報告 集					
22		2008	地域在住高齢者における心身の機能変化と健康寿命 倉瀬高齢者コホート研究	武林亨	衛生学公衆衛生学
			1-3		
American Journal of Ophthalmology					
146	6	2008	Japan Ministry of Health Study on Prevalence of Dry Eye Disease Among Japanese High School Students	武林亨	他 衛生学公衆衛生学
			925-929.e2		
健康開発					
13	2	2009	健診データ活用セミナー 第7回 集団の統計	島田直樹	衛生学公衆衛生学
			31-41		
Journal of Occupational Health					
51	1	2009	Effects of SO2 on Respiratory System of Adult Miyakejima Resident 2 Years after Returning to the Island	菊池有利子	他 衛生学公衆衛生学
			38-47		
Journal of the Medical Society of Toho University					
56	2	2009	Preventive countermeasures against a pandemic of a new highly pathogenic influenza: rapid mass production and stockpiling of a newly developed long-acting neuraminidase inhibitor	島田直樹	他 衛生学公衆衛生学
			143-152		
Spine					
34	5	2009	Nocturnal leg cramps: a common complaint in patients with lumbar spinal canal stenosis	西脇祐司	他 衛生学公衆衛生学
			E189-194		
Journal of Biological Chemistry					
			A Novel GDP-Dependent Pyruvate Kinase Isozyme		

283	20	2008	From <i>Toxoplasma gondii</i> Localizes to Both The Apicoplast And The Mitochondrion	齋藤智也	他	熱帯医学・寄生虫学
	14041-14052					
オペレーションズ・リサーチ			新型インフルエンザに対するパンデミック対策プログラムとプロジェクト分析	齋藤智也		熱帯医学・寄生虫学
53	12	2008				
	667-671					
感染症学雑誌			米国の対バイオテロリズム研究開発政策：対バイオテロ医薬品開発に向けたプログラム	齋藤智也	他	熱帯医学・寄生虫学
83	1	2009				
	1-6					
Journal of American Medical Association			Clinical and Immunological Response to Attenuated Tissue-Cultured Smallpox Vaccine LC16m8	齋藤智也	他	熱帯医学・寄生虫学
301	10	2009				
	1025-1033					
Parasitology International			Pyruvate kinase type-II isozyme in <i>Plasmodium falciparum</i> localizes to the apicoplast	齋藤智也	他	熱帯医学・寄生虫学
58	1	2009				
	101-105					
stem cell		2008	Novel Cardiac Precursor-like cell from human menstrual blood-derived mesenchymal cell	坂元亨宇	他	病理学
stem cells		2008	Novel cardiac precursor-like cells from human menstrual blood-derived mesenchymal cells	森泰昌		病理学
Journal of pathology			Expression profile of early lung adenocarcinoma: identification of MRP3 as a molecular marker for early progression	坂元亨宇	他	病理学
216		2008				
	75-82					
Intern Med			Megacolon in an adult case of hypoganglionosis, a pseudo-Hirschsprung's disease: an autopsy study.	木村徳宏	他	病理学
47	5	2008				
	421-425					
Intervirolology.			Candidate molecular markers for histological diagnosis of early hepatocellular carcinoma.	森泰昌	他	病理学
1		2008				
	42-45					
The American journal of pathology,			G-Protein-coupled receptor GPR49 is up-regulated in basal cell carcinoma tumor formation;	森泰昌	他	病理学
173	3	2008				
Pathol Int			Amiodarone-related pulmonary mass and unique membranous glomerulonephritis in a patient with valvular heart disease: Diagnostic pitfall and new findings.	木村徳宏	他	病理学
58	10	2008				
	657-663					
Blood			PIAS3 negatively regulates RANKL-mediated osteoclastogenesis directly in osteoclast precursors and indirectly via osteoblasts.	木村徳宏	他	病理学
		2008				
Circulation			Local tenomodulin absence, angiogenesis, and matrix metalloproteinase activation are associated with the rupture of the chordae tendineae cordis.	木村徳宏	他	病理学
118	17	2008				
	1737-1747					

Cancer Sci. 99 1933-1939	2008	Establishment of an ovarian metastasis model and possible involvement of E-cadherin down-regulation in the metastasis.	坂元亨宇	他	病理学
病理と臨床	2008	2) 肝発癌とProgenitor Cellをめぐる最近の知見	坂元亨宇	他	病理学
Medical Technology. 36 8	2008	6. バーチャルスライドの学生教育への応用	坂元亨宇	他	病理学
肝疾患review 2008-2009	2008	2) 肝発癌とProgenitor Cellをめぐる最近の知見	森泰昌		病理学
J Immunol 180 541-549	2008	Cyclooxygenase-2/Prostaglandin D2/CRTH2 pathway mediates double-stranded RNA-induced enhancement of allergic airway inflammation.	池田栄二	他	病理学
Nat Protoc. 3 1111-1124	2008	Purification of matrix metalloproteinases by column chromatography.	岡田保典	他	病理学
Dev. Neurosci. 30 331-339	2008	Brain-specific expression of vascular endothelial growth factor 146 correlates with the blood-brain barrier induction in quail embryos.	岡田保典	他	病理学
Curr. Pharm. Biotechnol. 9 47-54	2008	Joint diseases and matrix metalloproteinases: A role for MMP-13.	岡田保典	他	病理学
Clin. Cancer Res. 14 6055-6061	2008	Expression of heparanase in renal cell carcinomas: Implications for tumor invasion and progression.	岡田保典	他	病理学
生体の科学 59 129-133	2008	細胞-細胞外基質インターフェイスの病理生理学: 組織内微小環境モジュレータ分子ADAMの機能と疾患への関与	岡田保典	他	病理学
Circulation 118 1737-1747	2008	Local tenomodulin absence, angiogenesis, and matrix metalloproteinase activation are associated with the rupture of the chordae tendineae cordis.	岡田保典	他	病理学
Arthritis Rheum. 58 778-789	2008	ADAM12 (Meltrin ·) is involved in chondrocyte proliferation via cleavage of insulin-like growth factor-binding protein-5 in osteoarthritic cartilage.	岡田保典	他	病理学
Ann Rheum Dis	2009	Hyaluronan inhibits expression of ADAMTS4 (aggrecanase-1) in human osteoarthritic chondrocytes.	木村徳宏	他	病理学
J Immunol		Conditional inactivation of TACE by a Sox9 promoter leads to osteoporosis and increased			

182	4	2009	granulopoiesis via dysregulation of IL-17 and G-CSF.	木村徳宏	他	病理学
		2093-2101				
Antimicrob. Agents Chemother.			Intracellular efavirenz levels in peripheral			
52	2	2008	blood mononuclear cells from HIV-infected	加藤真吾	他	微生物学・免疫学
		782-785	individuals. Antimicrob. Agents Chemother.			
Atherosclerosis			Pathological characteristics of Pokkuri Death			
200	1	2008	Syndrome; narrow circumferences of the coronary	藤田眞幸		法医学
		80-82	arteries in Pokkuri Death Syndrome cases.			
分子脳血管病						
7		2008	法医学からみた脳卒中.	藤田眞幸		法医学
		72-77				
Atherosclerosis			Plasma remnant-like lipoprotein particles or			
198		2008	LDL-C as major pathologic factors in sudden	藤田眞幸		法医学
		237-246	cardiac death cases.			
Clin Chim Acta			Detection of apolipoproteins B-48 and B-100			
390		2008	carrying particles in lipoprotein fractions	藤田眞幸		法医学
		38-43	extracted from human aortic atherosclerotic			
			plaques in sudden cardiac death cases.			
犯罪学会誌						
75	1	2009	身体拘束中または直後に肺血栓塞栓症によって死亡し	藤田眞幸	他	法医学
		1-9	た精神科入院患者の経験			
Cancer Science			Reduction of human T-cell leukemia virus type-1			
99	5	2008	infection in mice lacking nuclear factor-kappaB-	杉原英志	他	先端医科学研究所 (遺伝子)
		872-878	inducing kinase.			
Inflammation and Regeneration			Mouse mammary gland reconstitution with ex-			
28	3	2008	trinsic gene-transferred mammary epithelial	杉原英志	他	先端医科学研究所 (遺伝子)
		181-188	cells in vitro and in vivo			
Circ J			Overview image of the lumen and vessel wall in			
72	4	2008	coronary CT angiography	安斉俊久		内科学 (循環器)
		671-673				
Circ J			Comparison of the effects of carvedilol and			
72	3	2008	metoprolol on exercise ventilatory efficiency in	安斉俊久		内科学 (循環器)
		358-363	patients with congestive heart failure			
Heart Vessels			Early use of beta-blockers attenuates systemic			
23	5	2008	inflammatory response and lung oxygenation	安斉俊久		内科学 (循環器)
		334-340	impairment after distal type acute aortic			
			dissection			
J Immunol			Differential effects of GM-CSF and G-CSF on			
181	8	2008	infiltration of dendritic cells during early	安斉俊久		内科学 (循環器)
		5691-5701	left ventricular remodeling after myocardial			
			infarction			
Circ J			Angiotensin-receptor blockade reduces border			
72	10	2008	zone myocardial monocyte chemoattractant	安斉俊久		内科学 (循環器)
			protein-1 expression and macrophage infiltration			

1685-1692			in post-infarction ventricular remodeling		
J Card Fail			Impact of chronic kidney disease on postinfarction inflammation, oxidative stress, and left ventricular remodeling	安斉俊久	内科学 (循環器)
14	10	2008			
831-838					
Ann Thorac Surg			Extrinsic compression of the left main coronary artery by atrial septal defect	安斉俊久	内科学 (循環器)
86	6	2008			
1987-1989					
循環plus			循環器専門医から見たCKDと血圧管理	安斉俊久	内科学 (循環器)
8		2008			
2-6					
東京都医師会雑誌			急性冠症候群におけるCKDの意義	安斉俊久	内科学 (循環器)
61		2008			
1472-1476					
ICUとCCU			慢性腎臓病 (CKD) の合併	安斉俊久	内科学 (循環器)
32		2008			
565-572					
Cardiology			Diagnostic capacity of 64-slice multidetector computed tomography for acute coronary syndrome in patients presenting with acute chest pain	安斉俊久	内科学 (循環器)
112	3	2009			
211-218					
Cardiovasc Res			Role of high-mobility group box 1 protein in post-infarction healing process and left ventricular remodelling	安斉俊久	内科学 (循環器)
81	3	2009			
565-573					
Biochem. Biophys. Res. Com.			Alpha-ketoglutarate oxidoreductase, an essential salvage enzyme of energy metabolism, in coccoid form of <i>Helicobacter pylori</i>	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
376		2008			
46-51					
J. Gastroenterol. Hepatol.			Decreased levels of adiponectin in obese patients with gastroesophageal reflux evaluated by videoesophagography: possible relationship between gastroesophageal reflux and metabolic syndrome	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
23	Suppl.2	2008			
S216-S221					
J. Gastroenterol. Hepatol.			Gatifloxacin-based triple therapy as third-line regimen for <i>Helicobacter pylori</i> eradication.	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
23	Suppl. 2	2008			
S167-S170					
Helicobacter Research			非悪性胃・十二指腸疾患とのかかわり。Helicobacter Year Book - Annual Review 2007	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
12	2	2008			
110-112					
Hepatogastroenterol.			Persistent oxidative stress in the corpus mucosa is evoked by long-term treatment of <i>H. pylori</i> - infected patients with proton pump inhibitors	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
55	81	2008			
138-141					
Helicobacter Research			ガチフロキサシンはどのような薬剤ですか? Helicobacter pylori 除菌に有効ですか? Helicobacter pylori Q&A	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
12	2	2008			
143-145					
G.I. Research			胃食道逆流症とメタボリックシンドローム	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)

99-104					
慶應医学					
85	1	2008	Helicobacter pylori 感染症と慶應医学	鈴木秀和	内科学 (消化器)
	13-23				
治療					
57	6	2008	胸やけの発生机序と機能性胸やけの位置付け	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	1832-1836				
総合臨床					
57	6	2008	消化器のX線診断：胃MALTリンパ腫	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	1832-1836				
G.I. Research					
17	1	2008	胃粘膜の萎縮・再生の分子生物学。新消化管の分子生物学 第3回	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	72-80				
Hepatogastroenterol.					
55	84	2008	High incidence of Dieulafoy's lesions in upper gastrointestinal bleeding associated with polyarteritis - clinical examination of patients of polyarteritis nodosa with rapidly progressive glomerulonephritis	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	821-825				
J. Clin. Invest.					
118	8	2008	Helicobacter pylori eradication shifts monocytes' Fc γ receptor balance toward inhibitory Fc γ RIIB in immune thrombocytopenic purpura	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	2939-2949				
J. Clin. Biochem. Nutri					
42	3	2008	Gastric epithelial cell modality and proton pump inhibitor	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	191-196				
総合臨床					
57	2	2008	消化器のX線診断：胃食道逆流症 (GERD), 逆流性食道炎, 食道裂孔ヘルニア, バレット上皮, アカラシア	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	367-373				
J. Clin. Biochem. Nutri					
42	2	2008	Proton pump inhibitors and gastritis	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	71-75				
Progress of Digestive Endoscopy					
73	2	2008	胃腫瘍性病変に対する低侵襲を旨としたESDの工夫とクリニカルパス	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	58-61				
潰瘍					
35	1	2008	機能性ディスぺプシアにみられる胃排出障害動物モデルでのグレリン動態	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	17-19				
Schneller					
66		2008	メタボリックシンドロームとの関連から胃食道逆流症を考える	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	44-51				
Prog. Med					
28	3	2008	H. pyloriのcoccoid formにおける代謝について	鈴木秀和	他 内科学 (消化器)
	732-734				
成人病と生活習慣病					

39	1 48-51	2009	FDの病態生理 - HPとの関係, GERDとの関係, 精神的要因は? 「特集/いま話題の機能性消化管障害」	鈴木秀和	他	内科学 (消化器)
Journal of Gastroenterology						
44	Suppl.19 18-22	2009	The role of microRNAs in gastrointestinal cancers	鈴木秀和	他	内科学 (消化器)
Digestion						
79	1 1-4	2009	Past rifampicin dosing determines rifabutin resistance of <i>H. pylori</i>	鈴木秀和	他	内科学 (消化器)
Pediatr. Res.						
		2009	Caudal regression and tracheoesophagea; malformation induced by adriamycin: a novel chick model of VATER association	鈴木秀和	他	内科学 (消化器)
Neurogastroenterol. Motil.						
		2009	Japanese herbal medicine in functional gastrointestinal disorders	鈴木秀和	他	内科学 (消化器)
Digestion						
79	2 99-108	2009	Early <i>Helicobacter pylori</i> eradication restores sonic hedgehog expression in the gastric mucosa of Mongolian gerbils.	鈴木秀和	他	内科学 (消化器)
J. Clin. Biochem. Nutri.						
44	2 119-124	2009	Quinolone-based third-line therapy for <i>Helicobacter pylori</i> eradication	鈴木秀和	他	内科学 (消化器)
Diabetes (Suppl)						
57	A224	2008	Epalrestat, an aldose reductase inhibitor, may suppress serum N-carboxymethyl Lysine (CML) in Japanese patients with type 2 diabetes, with diabetic neuropathy.	河合俊英	他	内科学 (腎臓・内分泌・代謝)
DITN						
363	6 8	2008	糖尿病と脂肪酸—最近の考え方—	河合俊英		内科学 (腎臓・内分泌・代謝)
糖尿病						
51	9 861-866	2008	2型糖尿病の経過中にケトーシスを繰り返した1例	及川洋一	他	内科学 (腎臓・内分泌・代謝)
Ann N Y Acad Sci.						
1150	208-209	2008	Eradication of <i>Helicobacter pylori</i> may trigger onset of type 1 diabetes: a case report.	及川洋一	他	内科学 (腎臓・内分泌・代謝)
Kidney International						
73	7 826-834	2008	T-type calcium channel blockade as a therapeutic strategy against renal injury in rats with subtotal nephrectomy.	林晃一		内科学 (腎臓・内分泌・代謝)
Obesity						
16	5 965-971	2008	Renal cytochrome P450 as a determinant of impaired natriuresis by PPAR \cdot ligands in ovariectomized obese rats.	林晃一		内科学 (腎臓・内分泌・代謝)
Biochemical & Biophysical Research Communications						
372	1 51-56	2008	Sirt1 protects against oxidative stress-induced renal tubular apoptosis by bidirectional regulation of catalase expression.	林晃一		内科学 (腎臓・内分泌・代謝)

日本透析医学会雑誌 41(1):81-86, 2008年 41 1 2008 81-86	早期胃癌術後10年以上の経過で造骨性骨転移を発症し 診断に苦慮した維持透析患者の一例。日本透析医学会 雑誌 41(1):81-86, 2008年	林晃一		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
内科 101(5):985-988, 2008年 101 2008 985-988	高齢者高血圧症例の血圧コントロールレベル:積極的 立場から。内科 101(5):985-988, 2008年	林晃一		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
日本臨床 2008	腎疾患に関する知見-CKDを中心に。	林晃一		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
Journal of the American Society of Nephrology 19 (1):4-7, 2008 (editorials) 19 1 2008 4-7,	Cardiovascular disease, chronic kidney disease, and type 2 diabetes mellitus: proceeding with caution at a dangerous intersection.	林晃一		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
診断と治療、96巻2号、221-229、 2008 96 2 2008 221-229	メタボリックシンドローム】メタボリックシンドロ ームにおける「心血管系疾患」の発症リスク、	脇野修		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
分子心血管病 8(5): 10-18, 2008 8 5 2008 10-18	メタボリックシンドロームと心腎連関。	脇野修		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
Heart view 12(3): 64-67, 2008年 12 3 2008 64-67	心・腎疾患とADMA。Heart view 12(3): 64-67, 2008 年	脇野修		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
Diabetes Frontier、19巻1号、69- 73、2008 19 1 2008 69-73	インスリン抵抗性と炎症】インスリン抵抗性、炎症 と臓器障害 RAS活性化と血管リモデリング、	脇野修		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
日本腎臓学会雑誌。 2008	MCTD経過中に発症したANCA関連急速進行性糸球体腎炎 で透析導入となった一例。日本腎臓学会雑誌。	脇野修		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
日本臨床、66巻増刊3号、490-494、 2008 66 増刊3号 2008 490-494	新時代の糖尿病学 病因・診断・治療研究の進歩】 糖尿病基礎研究の進歩 糖尿病と耐糖能低下の成因分 類と発症機序 2型糖尿病 インスリン抵抗性にかか わる因子 アンジオテンシノーゲン、	脇野修		内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
NASH診療best approach 2008 92-97	糖尿病とNASH-b. 糖尿病における肝細胞癌	河合俊英	他	内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
呼吸と循環 56 6 2008 581-587	循環器医が行う耐糖能異常・糖尿病の治療-各種糖尿 病治療薬の使い方-	河合俊英	他	内科学(腎臓・内 分泌・代謝)
Pharma Medica	日本人の降圧療法を考える	河合俊英		

99							分泌・代謝)
新時代の糖尿病学(3)							
66	7	2008	心血管合併症の治療薬	河合俊英	他		内科学 (腎臓・内 分泌・代謝)
	455-459						
Internal Medicine							
47	13	2008	Effects of pretreatment with low-dose metformin on metabolic parameters and weight gain by pioglitazone in Japanese patients with type 2 diabetes.	河合俊英	他		内科学 (腎臓・内 分泌・代謝)
	1181-1188						
EBM Journal							
9	2	2008	メタボリックシンドロームの診断基準	河合俊英	他		内科学 (腎臓・内 分泌・代謝)
	8-13						
Autoimmunity							
42	2	2009	FOXP3/Scurfin gene polymorphism is associated with adult onset type 1 diabetes in Japanese, especially in women and slowly progressive-type patients.	及川洋一	他		内科学 (腎臓・内 分泌・代謝)
	159-67						
Journal of Autoimmunity							
32	2	2009	Induction of anti-whole GAD65 reactivity in vivo results in disease suppression in type 1 diabetes.	及川洋一	他		内科学 (腎臓・内 分泌・代謝)
	104-109						
Heart View							
123	4	2008	ワルファリン以外の新しい経口抗凝固薬.	池田康夫	他		内科学 (血液・感 染・リウマチ)
	418-422						
臨床血液							
49	4	2008	トロンボポエチン様活性を有する新規低分子化合物 (NIP-004) の創製.	池田康夫	他		内科学 (血液・感 染・リウマチ)
	257-262						
血栓止血誌							
19	2	2008	抗血小板薬の歴史と展望.	池田康夫			内科学 (血液・感 染・リウマチ)
	278-283						
Medical Tribune							
		2008	抗血小板療法 アスピリン一次予防効果の検証作業が進行.	池田康夫			内科学 (血液・感 染・リウマチ)
	88						
Thrombosis Research							
123		2008	Enhancing effect of the 145Met-allele of GPIb alpha on platelet sensitivity to aspirin under high-shear conditions.	池田康夫	他		内科学 (血液・感 染・リウマチ)
	331-335						
臨床血液							
49	6	2008	多発性骨髄腫における肝細胞増殖因子 (HGF) の予後因子としての意義と分子標的療法.	池田康夫	他		内科学 (血液・感 染・リウマチ)
	359-366						
Biology of Blood and Marrow Transplantation							
14		2008	Long-term follow-up of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for de novo acute myelogenous leukemia with a conditioning regimen of total body irradiation and granulocyte colony-stimulating factor-combined high-dose cytarabine.	池田康夫	他		内科学 (血液・感 染・リウマチ)
	651-657						
Cancer Science							
			Single-institute phase 2 study of thalidomide treatment for refractory or relapsed multiple				内科学 (血液・感

99	6	2008	myeloma: prognostic factors and unique toxicity profile.	池田康夫	他	染・リウマチ)
	1243-1250					
Circulation Journal			The Japan Thrombosis Registry for Atrial Fibrillation, Coronary or Cerebrovascular Events (J-TRACE) - a nation-wide, prospective large cohort study; the study design -	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
72	6	2008				
	991-997					
Blood Coagulation and Fibrinolysis			Alpha 2A adrenergic receptor polymorphism is associated with plasma von Willebrand factor levels in a general population.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
19	5	2008				
	395-399					
Nature			PML targeting eradicates quiescent leukaemia-initiating cells.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
453		2008				
	1072-1078					
日本医事新報			専門医制度の確立へ中立的立場で指導していく-潮流	池田康夫		内科学 (血液・感染・リウマチ)
4395		2008	2008 キーパーソンに聞く-			
	12-13					
The Journal of Clinical Investigation			Helicobacter pylori eradication shifts monocyte Fcγ receptor balance toward inhibitory FcγRIIB in immune thrombocytopenic purpura patients.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
118	8	2008				
	2939-2949					
Bone Marrow Transplantation			Reduced efficacy of topical corticosteroid in preventing cytarabine-induced keratoconjunctivitis in patients receiving high-dose cytarabine and total body irradiation for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
42		2008				
	197-199					
臨床と研究			旅行者血栓症.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
85	9	2008				
	1226-1228					
Cancer Science			Cantharidin induces apoptosis of human multiple myeloma cells via inhibition of the JAK/STAT pathway.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
99	9	2008				
	1820-1826					
血栓と循環			抗血栓療法.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
16	3	2008				
	233-236					
International Journal of Hematology			Efficacy of mouth rinse in preventing oral mucositis in patients receiving high-dose cytarabine for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
88		2008				
	583-587					
E & C 2008			世界から集まる研究者たちとマルチディスプレナリーな会議を「第23回国際血栓止血学会」.	池田康夫		内科学 (血液・感染・リウマチ)
	16	2008				
臨床検査			血液凝固学の新たな展開.	池田康夫		内科学 (血液・感染・リウマチ)
52	13	2008				
	1521-1522					

Transfusion Medicine 18 158-166	2008	Hemostatic effects of polymerized albumin particles carrying fibrinogen γ -chain dodecapeptide as platelet substitutes in severely thrombocytopenic rabbits.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
Blood 113 5 1027-1036	2009	SHD1 is a novel cytokine-inducible, negative feedback regulator of STAT5-dependent transcription.	池田康夫	他	内科学 (血液・感染・リウマチ)
Cancer Science 99 9 1820-1826	2008	Cantharidin induces apoptosis of human multiple myeloma cells via inhibition of the JAK/STAT pathway.	佐川森彦	他	内科学 (血液)
Chemical Pharmaceutical Bulletin (Tokyo). 56 10 1490-1495	2008	Structural development of benzhydryl-type 1'-acetoxychavicol acetate (ACA) analogs as human leukemia cell-growth inhibitors based on quantitative structure-activity relationship (QSAR) analysis.	佐川森彦	他	内科学 (血液)
International Journal of Molecular Medicine 21 163-8	2008	Novel tubulin-polymerization inhibitor derived from thalidomide directly induces apoptosis in human multiple myeloma cells: Possible anti-myeloma mechanism of thalidomide.	佐川森彦	他	内科学 (血液)
日本血栓止血学会誌 19 2 199-201	2008	血栓止血の臨床-研修医のために III: ITPの診断と治療	桑名正隆		内科学 (リウマチ)
リウマチ科 39 4 281-288	2008	強皮症の病態とそのマネージメント:強皮症患者のケアにおける現状と問題点-診断基準、病型分類、話題性の評価、臓器障害の評価について-	桑名正隆		内科学 (リウマチ)
リウマチ科 39 5 393-399	2008	膠原病の難治性病態-新しい考え方と新規治療法への応用; 強皮症の血管病変における血管内皮前駆細胞の役割とスタチン	桑名正隆		内科学 (リウマチ)
The Journal of Immunology 181 2 1526-1535	2008	Novel system evaluating <i>in vivo</i> pathogenicity of desmoglein 3-reactive T-cell clones using murine pemphigus vulgaris.	桑名正隆	他	内科学 (リウマチ)
Immunology and Cell Biology 86 5 453-459	2008	Human circulating monocytes can express receptor activator of nuclear factor- κ B ligand and differentiate into functional osteoclasts without exogenous stimulation.	桑名正隆	他	内科学 (リウマチ)
Immunology and Cell Biology 86 5 453-459	2008	Human circulating monocytes can express receptor activator of nuclear factor- κ B ligand and differentiate into functional osteoclasts without exogenous stimulation.	瀬田範行	他	内科学 (リウマチ)
Medical Practice 25 8 1425-1428	2008	新しい治療法の展開と最新の実地治療法の進めかた; ベーチェット病へのTNF阻害療法の使用の実際	桑名正隆		内科学 (リウマチ)
炎症と免疫			桑名正隆		

91-96		斑病			チ)
The Journal of Clinical Investigation	118 8 2008	2939-2949	<i>Helicobacter pylori</i> eradication shifts monocytes' Fc γ receptor balance toward inhibitory Fc γ RIIB in immune thrombocytopenic purpura.	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
分子消化器病	5 3 2008	52-59	<i>H. pylori</i> の病原性のメカニズムを解明する; <i>H. pylori</i> 感染はどのようにしてITPを誘導するのか?	桑名正隆	内科学 (リウマチ)
リウマチ科	40 3 2008	239-245	膠原病の難治性病態-新しい考え方と新規治療法への応用; 強皮症の臨床における抗RNAポリメラーゼ抗体の有用性	桑名正隆	内科学 (リウマチ)
Clinical and Experimental Rheumatology	26 5 2008	914-917	Estrogen receptor gene polymorphisms in Japanese patients with systemic sclerosis.	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
Clinical and Experimental Rheumatology	26 suppl. 50 2008	S59-S63	Preferential activation of circulating CD8+ and $\gamma\delta$ T cells in patients with active Behçet's disease and HLA-B51.	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
Rheumatology	47 10 2008	1539-1542	Clinical utility of anti-signal recognition particle autoantibody in the differential diagnosis of myopathies.	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
臨床皮膚科	62 12 2008	909-912	抗Mi-2抗体陽性を示した皮膚筋炎の1例	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
Inflammation & Regeneration	28 6 2008	533-540	Inflammation and pathologic fibrosis in human ocular chronic graft-versus-host disease.	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
Modern Rheumatology	18 6 2008	593-600	Autoreactive T-cell responses to myeloperoxidase in patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis and in healthy individuals.	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
Arthritis & Rheumatism	58 11 2008	3562-3573	A CD40-CD154 interaction in tissue fibrosis.	桑名正隆 他	内科学 (リウマチ)
Modern Rheumatology	18 6 2008	593-600	Autoreactive T-cell responses to myeloperoxidase in patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis and in healthy individuals.	瀬田範行 他	内科学 (リウマチ)
総合臨床	57 12 2008	2921-2924	リウマチの類縁疾患; RS3PE症候群	桑名正隆	内科学 (リウマチ)
リンパ学			ベーチェット病における細胞傷害性T細胞の役割	桑名正隆 他	

45-49							チ)
リンパ学							
31	2	2008	ベーチェット病における細胞傷害性T細胞の役割	安岡秀剛	他		内科学 (リウマチ)
45-49							
Clin Exp Rheumatol							
26		2008	Estrogen receptor gene polymorphisms in Japanese patients with systemic sclerosis	安岡秀剛	他		内科学 (リウマチ)
914-917							
Crit Rev Eukaryot Gene Expr							
18	1	2008	Gene expression in pulmonary fibrosis	安岡秀剛	他		内科学 (リウマチ)
47-56							
The Open Rheumatology Journal							
2		2008	Human skin culture as an ex vivo model for assessing the fibrotic effects of insulin-like growth factor binding proteins	安岡秀剛			内科学 (リウマチ)
17-22							
Clinical and Experimental Rheumatology							
26		2008	Preferential activation of circulating CD8+ and gamma-delta T cells in patients with active Behcet's disease and HLA-B51	安岡秀剛			内科学 (リウマチ)
S59-S63							
Inflammation and Regeneration							
29	1	2009	Autoantibodies to platelets: roles in thrombocytopenia.	桑名正隆			内科学 (リウマチ)
40-46							
Rheumatology							
48	1	2009	Comment on: Clinical utility of anti-signal recognition particle antibody in the differential diagnosis of myopathies: reply (letter)	桑名正隆	他		内科学 (リウマチ)
90-91							
塾							
261		2009	MEDICAL OFFICE; リウマチの話	桑名正隆			内科学 (リウマチ)
25							
検査と技術							
37	2	2009	新しい抗血小板抗体検査	桑名正隆			内科学 (リウマチ)
123-128							
PROGRESS IN MEDICINE							
29	2	2009	膠原病領域におけるエボプロステノールの位置づけ	桑名正隆	他		内科学 (リウマチ)
520-528							
リウマチ科							
41	2	2009	感染によって自己免疫疾患は誘導されるのか?	桑名正隆			内科学 (リウマチ)
222-228							
Journal of Thrombosis Haemostasis							
7	2	2009	Splenic macrophages maintain the anti-platelet autoimmune response via uptake of opsonized platelets in patients with immune thrombocytopenic purpura.	桑名正隆	他		内科学 (リウマチ)
322-329							
Clinical Rheumatology							
28	2	2009	Successful treatment of refractory polymyositis with the immunosuppressant mizoribine: Case report.	桑名正隆	他		内科学 (リウマチ)
227-229							
			A single helper T-cell clone is sufficient to				

The Journal of Immunology	182	3	2009	1740-1745	commit polyclonal naive B cells to produce pathogenic IgG in experimental pemphigus vulgaris.	桑名正隆	他	内科学 (リウマチ)
分子消化器病	6	1	2009	96-98	日本人のヒット作品; <i>H. pylori</i> 除菌は単球におけるFc γ 受容体バランスを抑制に遍倚させることでITP病態を是正する	桑名正隆		内科学 (リウマチ)
塾		262	2009	44	MEDICAL OFFICE; リウマチの話	桑名正隆		内科学 (リウマチ)
日本老年医学会	45	Suppl.	2008	91	WHOQOL-OLD調査票を用いた高齢者QOLの検討 性格5特性との関係	長井麻衣子		内科学 (老年)
Mol Cell Endocrinol.			2008		The metabolic syndrome, IGF-1, and insulin action.	高山美智代	他	内科学 (老年)
Biochem Biophys Res Commun	373	1	2008	30-5	Inhalation of hydrogen gas reduces infarct size in the rat model of myocardial ischemia-reperfusion injury.	新村健	他	内科学 (老年)
Cardiovasc Res.	79	3	2008	387-94	Loss of ischaemic preconditioning in ovariectomized rat hearts: possible involvement of impaired protein kinase C epsilon phosphorylation.	新村健	他	内科学 (老年)
PloS One.	3	6	2008	e2421	Mitochondrial DNA Haplogroup D4a is a Marker for Extreme Longevity in Japan.	新井康通	他	内科学 (老年)
Am J Physiol Heart Circ Physiol	295	6	2008	H2348-55	Impact of 6-mo caloric restriction on myocardial ischemic tolerance: possible involvement of nitric oxide-dependent increase in nuclear Sirt1.	新村健	他	内科学 (老年)
Pharma Medica	26	5	2008	106-107	日本人にとって最適な降圧療法とは? 日本人のエビデンスを検証して第2回	新村健		内科学 (老年)
J Gerontol A Biol Sci Med Sci.	63A		2008	1209-1218	Adipose endocrine function, insulin-like growth factor-1 axis, and exceptional survival beyond 100 years of age.	高山美智代	他	内科学 (老年)
医学のあゆみ	227		2008	603-607	百寿者研究—ヒト長寿遺伝子同定の戦略	新井康通	他	内科学 (老年)
Geriat Med	46		2008	497-500	百寿者の肥満と痩せ—脂肪組織の機能と健康長寿	新井康通	他	内科学 (老年)
Exp Gerontol.	43		2008	892-899	ssDNA fragments induce cell senescence by telomere uncapping.	新井康通	他	内科学 (老年)

Geriatr Gerontol Int. 2008 300-302	Relationship between physical and cognitive function, blood pressure and serum lipid concentration in centenarians.	新井康通	他	内科学 (老年)
日老医誌 45 259-265	百寿者研究の現状と展望2.	新井康通	他	内科学 (老年)
J Gerontol A Biol Sci Med Sci 63A 2008 1209-1218	Adipose Endocrine Function, Insulin-like Growth Factor-1 Axis, and Exceptional Survival beyond 100 years of Age.	新井康通	他	内科学 (老年)
脂質栄養学 17 2008 319-320	百寿者調査から超百寿者調査へー健康長寿達成の秘訣を探る	新井康通	他	内科学 (老年)
Interact Cardiovasc Thorac Surg 7 6 2008 1164-6	Giant left coronary ostial aneurysm after modified Bentall procedure in a Marfan patient	岡本一真	他	外科学 (心臓血管)
Neurol Res 29 2008	Source analysis of the magnetic field evoked during self-paced finger movements.	小林正人	他	外科学 (脳神経)
臨床皮膚科 62 6 2008 383-385	顔面骨移植術後浮腫に対する柴苓湯の効果 歯科用CTによる顔面浮腫評価	宮本純平		形成外科学
J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2008	Full-thickness reconstruction of the eyelid with rotation flap based on orbicularis oculi muscle and palatal mucosal graft: Long-term results in 12 cases.	宮本純平		形成外科学
J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2008	Anthropometric evaluation of complete unilateral cleft lip nose with cone beam CT in early childhood.	宮本純平		形成外科学
Unilateral Complete Cleft Lip and Palate 46 2 2009 153-160	Dynamic Analysis of the Effects of Upper Lip Pressure on the Asymmetry of the Facial Skeleton in Patients With	緒方寿夫	他	形成外科学
Plast Reconstr Surg. 123 3 2009 889-896	Biomechanical evaluation of surgical correction of prominent ear.	宮本純平		形成外科学
産科と婦人科 75 suppl 2008 8-14	【産婦人科ホルモン療法マニュアル】 生殖内分泌・不妊 無月経	内田浩	他	産婦人科学
Journal of Clinical Oncology 26 suppl. 2008 658	Randomized phase II study comparing docetaxel plus cisplatin, docetaxel plus carboplatin, and paclitaxel plus carboplatin in patients with advanced or recurrent endometrial carcinoma: Japanese Gynecologic Oncology Group trial (JGOG2041)	野村弘行	他	産婦人科学

産科と婦人科							
75	5	2008	【思春期の諸問題】 排卵障害	内田浩	他	産婦人科学	
	529-536						
日本生殖内分泌学会雑誌							
13		2008	着床期特異的蛋白glycodelinによる子宮内膜腺上皮細胞の増殖機能制御	内田浩	他	産婦人科学	
	43-47						
臨床検査							
52	11	2008	多臓器, 組織におけるホルモン相互間作用性周期 (月経)	橋場剛士		産婦人科学	
	1347-1350						
産婦人科の実際							
57	13	2008	子宮体癌の術後化学療法 -タキサンとプラチナの併用に関する新たなエビデンスの構築を目指して-	野村弘行	他	産婦人科学	
	2129-2134						
Osteoporosis Japan							
16	3	2008	子宮体がん術後患者における骨密度の特徴に関する検討	平沢晃		産婦人科学	
	429-431						
産婦人科漢方研究のあゆみ							
25		2008	季節による漢方製剤の切り替えが片頭痛発作の軽減に有効であった1例	平沢晃		産婦人科学	
	115-118						
Osteoporosis Japan							
16	2	2008	当科更年期外来にて診断し得た骨粗鬆症/骨量減少症における低エストロゲン血症以外の危険因子の検討	平沢晃		産婦人科学	
	308						
日本受精着床学会雑誌							
26	1	2009	Newly Developed Method for Preimplantation Genetic Diagnosis by Whole Genome Amplification using Multiple Displacement Amplification	橋場剛士		産婦人科学	
	47-50						
臨床婦人科産科							
62	4	2008	今月の臨床 産婦人科臨床の難題を解く一私はこうしている II 不妊治療 [ART 8] 着床前遺伝子診断 (PGD) の適応は?	末岡浩		産婦人科学 (産科)	
	538-543						
産科と婦人科							
75	5	2008	排卵障害	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)	
	529-536						
産婦人科の実際							
57	5	2008	我が国における着床前遺伝子診断の実施と成績	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)	
	847-851						
再生医療							
7	2	2008	ヒト雄性生殖器官の再生とモデル動物の確立	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)	
	137-141						
産婦人科の実際							
57	5	2008	我が国における着床前遺伝子診断の実施と成績	末岡浩		産婦人科学 (産科)	
	847-851						
Reproduction							
135	5	2008	What can you learn from gene expression profiling of mouse oocytes?	浜谷敏生	他	産婦人科学 (産科)	
	581-592						
日産婦東京会誌							
				吉村泰典	他		

225-228		1例			科)
Jurist 1359 4-41	2008	生殖補助医療を考える—日本学術会議報告書を契機に	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 34 4 666-669	2008	Occipital hemangioma: prenatal sonographic and magnetic resonance image	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
医学のあゆみ 226 12 1067-1070	2008	日本産科婦人科学会からの提言	吉村泰典		産婦人科学 (産科)
Radiology 248 3 917-924	2008	Semiquantitative assessment of MR imaging in prediction of efficacy of gonadotropin-releasing hormone agonist for volume reduction of uterine leiomyoma: Initial experience.	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
産科と婦人科 75 10 1265-1271	2008	特集 生殖補助医療をめぐる諸問題 9. 着床前遺伝子診断 (PGD)	末岡浩		産婦人科学 (産科)
産婦人科の実際 57 10 1597-1602	2008	診療 多胎妊娠の羊水検査における遺伝カウンセリングの問題点	末岡浩	他	産婦人科学 (産科)
産婦人科の実際 57 10 1571-1574	2008	連載 産婦人科医師不足の問題点と対策 15. 本連載を企画して	末岡浩		産婦人科学 (産科)
Fertility & Sterility 90 4 1301-1304	2008	Pregnancy outcomes of reciprocal translocation carriers who have a history of repeated pregnancy loss	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
日産婦会誌 60 10 1765-1769	2008	シンポジウムに関するレビュー	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
MMJ(The Mainichi Medical Journal) 4 11 941	2008	産科スタッフへの多角的介入で分娩管理が改善—産科ケア改善のための行動介入 解説 基本的分娩手技にもエビデンスが必要	末岡浩		産婦人科学 (産科)
日産婦誌 60 11 N477-N483	2008	婦人科疾患の診断・治療・管理 3. 内分泌疾患 2) 月経異常を伴う内分泌疾患 (3) 多嚢胞性卵巣症候群	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
Fertility and Sterility 90 5 1983-1987	2008	Buoyant density and sedimentation dynamics of HIV-1 in two density-gradient media for semen processing	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
Fertil Steril 9 5 1983-7	2008	Buoyant density and sedimentation dynamics of HIV-1 in two density-gradient media for semen processing.	浜谷敏生	他	産婦人科学 (産科)
日産婦会誌					

57	4	2008	成熟嚢胞性奇形腫に腺癌または境界悪性腫瘍を共存した2例	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
	451-454					
J Clin Endocrinol Metab			The periphery of the human fetal adrenal gland is a site of angiogenesis: Zonal differential expression and regulation of angiogenic factors	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
93		2008				
	2402-2408					
エンドメトリオーシス研究会誌			子宮内膜症・腺筋症由来疼痛に関連する遺伝子の発現解析	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
29		2008				
	91-93					
産婦人科漢方研究のあゆみ			季節による漢方製剤の切り替えが片頭痛発作の軽減に有効であった1例	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
25		2008				
	115-118					
Biochem Biophys Res Commun			Phosphorylation in the C-terminal domain of Aquaporin-4 is required for Golgi transition in primary cultured astrocytes	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
377		2008				
	463-468					
Mol Hum Reprod			Glycodelin inhibits progression to S phase and cell proliferation: a progesterone-induced regulator for endometrial epithelial cell growth	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
14		2008				
	17-22					
Endocrinology			Activation of SRC kinase and phosphorylation of STAT5 are required for decidual transformation of human endometrial stromal cells	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
149		2008				
	1227-1234					
Endocrine Journal			Molecular and cellular mechanisms for differentiation and regeneration of the uterine endometrium	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
55	5	2008				
	795-810					
エンドメトリオーシス研究会誌			子宮内膜症関連遺伝子同定のための新しいアプローチ	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
29		2008				
	42					
エンドメトリオーシス研究会誌			精査により診断に至った重症慢性骨盤痛を伴う異所性子宮内膜症の2例	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
29		2008				
	147-151					
Current Topics in Microbiology and Immunology			In vivo imaging in humanized mice	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
324		2008				
	179-196					
治療学			心房細動の治療薬について知りたい	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
43	1	2009				
	117-119					
産婦人科の実際			ミトコンドリア病に対する着床前遺伝子診断	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
58	2	2009				
	183-189					
産婦人科治療			生殖医療の進歩と問題	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
98	2	2009				
	103-107					
産婦人科の実際				吉村泰典	他	

203-208			トと問題点			科)
産婦人科の実際						
58	2	2009	特集 着床前診断の実際と問題点 単一遺伝子病に対する着床前診断の実際	末岡浩		産婦人科学 (産科)
177-182						
産婦人科の実際						
58	2	2009	特集 着床前診断の実際と問題点 心理遺伝カウンセリングにおける着床前診断のポイントと問題点	末岡浩		産婦人科学 (産科)
203-208						
産婦人科の実際						
58	2	2009	特集 着床前診断の実際と問題点 着床前診断の現状と将来	末岡浩		産婦人科学 (産科)
209-215						
産婦人科の実際						
58	2	2009	特集 着床前診断の実際と問題点 ミトコンドリア病に対する着床前遺伝子診断	末岡浩		産婦人科学 (産科)
183-189						
Fetal Diagnosis and Therapy						
25		2009	Prenatal diagnosis of retroperitoneal teratoma: a case report and review of the literature	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
76-78						
Hormone Frontier in Gynecology						
16	1	2009	子宮内膜脱落膜化の分子機構	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
19-25						
日本受精着床学会雑誌						
26	1	2009	IVF-ET症例における妊娠初期血中hCG値の動態	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
202-205						
日本受精着床学会雑誌						
26	1	2009	multiple displacement amplification法を用いた whole genome amplificationによる、新たな着床前遺伝子診断の開発	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
47-50						
日本受精着床学会雑誌						
26	1	2009	multiple displacement amplification法を用いた whole genome amplificationによる、新たな着床前遺伝子診断の開発	末岡浩		産婦人科学 (産科)
47-50						
日本受精着床学会雑誌						
26	1	2009	IVF-ET症例における妊娠初期血中hCG値の動態	末岡浩		産婦人科学 (産科)
202-205						
日産婦東京会誌						
58	1	2009	腹腔鏡手術時期の遅れにより片側卵巢機能障害に至った傍卵巢囊腫茎捻転の1例	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
125-128						
産婦人科漢方研究のあゆみ						
26		2009	当科更年期外来における更年期不定愁訴に対する漢方薬との比較検討-8年前の調査結果との比較検討-	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
44-47						
Fertility and Sterility						
91	3	2009	Pseudoaneurysm of the uterine artery after laparoscopic myomectomy	吉村泰典	他	産婦人科学 (産科)
929						
臨床婦人科産科						
62	5	2008	再発に対するレジメンとその有効性	青木大輔		産婦人科学 (婦人科)
706-711						

Journal of Clinical Oncology 26 15S 2008 Abstract No.16526	Randomized phase II study comparing docetaxel plus cisplatin, docetaxel plus carboplatin, and paclitaxel plus carboplatin in patients with advanced or recurrent endometrial carcinoma: Japanese Gynecologic Oncology Group trial (JGOG2041)	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
Journal of Clinical Oncology 26 15S 2008 Abstract No.5506	Randomized phase III trial of conventional paclitaxel and carboplatin (c-TC) versus dose dense weekly paclitaxel and carboplatin (dd-TC) in women with advanced epithelial ovarian, fallopian tube, or primary peritoneal cancer: Japanese Gynecologic Oncology	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
臨床婦人科産科 62 5 2008 706-711	子宮体癌-再発に対するレジメンとその有効性	阪莖浩司		産婦人科学 (婦人科)
日本産科婦人科学会東京地方部 会誌 57 2 2008 225-228	術前に腹腔内貯留液を段階的に除去し卵巣癌根治術を施行した1例	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
Cancer Science 99 9 2008 1715-1719	Molecular epidemiological and mutational analysis of DNA mismatch repair (MMR) genes in endometrial cancer patients with HNPCC-associated familial predisposition to cancer.	阪莖浩司	他	産婦人科学 (婦人科)
産婦人科治療 96 6 2008 1030-1034	中高年女性とセクシャリティ	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
産婦人科の実際 57 7 2008 1189-1194	子宮頸癌におけるエピジェネティックなCHFR遺伝子の不活化とタキサン製剤感受性との関連	阪莖浩司	他	産婦人科学 (婦人科)
Osteoporosis Japan 16 3 2008 429-431	子宮体がん術後患者における骨密度の特徴に関する検討	阪莖浩司		産婦人科学 (婦人科)
産婦人科の実際 57 7 2008 1189-1194	子宮頸癌におけるエピジェネティックなCHFR遺伝子の不活化とタキサン製剤感受性との関連	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
Osteoporosis Japan 16 3 2008 57-59	子宮体がん術後患者における骨密度の特徴に関する検討	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
エンドメトリオーシス研究会会誌 29 2008 147-151	精査により診断に至った重症慢性骨盤痛を伴う異所性子宮内膜症の2例	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
産婦人科の実際 57 9 2008 1393-1398	子宮体がん検診のエビデンスとこれからの考え方	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)

International Journal of Gynecological Cancer	18	5	2008	996-1006	Human monoclonal antibody for ovarian clear cell carcinoma-2, a human monoclonal antibody with antitumor activity against ovarian cancer cells that recognizes CA125-like antigen	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
日本産科婦人科学会雑誌	60	9	2008	N-178-N-184	特集 第60回日本産科婦人科学会生涯研修プログラム・卒後研修プログラムクリニカルレクチャー 知っておきたい子宮頸部細胞診の報告様式ーベセスダシステム2001ー	青木大輔		産婦人科学 (婦人科)
臨床婦人科産科	62	10	2008	1282-1289	卵巣癌のリスクファクター	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
産婦人科の実際	57	11(10月臨時増刊号)	2008	1734-1740	広汎性子宮頸部摘出術	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
産婦人科の実際	57	11(10月臨時増刊号)	2008	1873-1879	晩期有害事象	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
日本更年期医学会雑誌	16	2	2008	246-251	更年期外来でのアンケート調査結果からみた本邦の中 高年婦人の「night sweats」の実態とホルモン療法の有 有用性に関する一考察	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
Cancer Science	99	10	2008	1933-1939	Establishment of an ovarian metastasis model and possible involvement of E-cadherin down-regulation in the metastasis	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
Cancer Science	99	10	2008	1967-1976	Cross-sectional analysis of germline BRCA1 and BRCA2 mutations in Japanese patients suspected to have hereditary breast/ovarian cancer	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
Cancer Science	99	10	2008	1933-1939	Establishment of an ovarian metastasis model and possible involvement of E-cadherin down-regulation in the metastasis.	阪埜浩司		産婦人科学 (婦人科)
臨床婦人科産科	62	10	2008	1282-1289	卵巣癌のリスクファクター.	阪埜浩司		産婦人科学 (婦人科)
British Journal of Cancer	99	10	2008	1651-1655	Can ABCF2 protein expression predict the prognosis of uterine cancer?	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
Japanese Journal of Clinical Oncology	38	11	2008	777-785	Phase II Clinical Trial of Pegylated Liposomal Doxorubicin (JNS002) in Japanese Patients with Mullerian Carcinoma (Epithelial Ovarian Carcinoma, Primary Carcinoma of Fallopian Tube, Peritoneal Carcinoma) Having a Therapeutic History of Platinum-based Chemotherapy: A Phase II Study of the Japanese Gynecologic Oncology	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)

			Group				
臨床腫瘍プラクティス	4	4	2008	子宮がん患者へのインフォームドコンセント (IC)	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				313-319			
臨床腫瘍プラクティス	4	4	2008	子宮がん患者へのインフォームドコンセント (IC)	阪埜浩司	他	産婦人科学 (婦人科)
				313-319			
British Journal of Cancer	99	10	2008	Can ABCF2 protein expression predict the prognosis of uterine cancer?	阪埜浩司	他	産婦人科学 (婦人科)
				1651-1655			
産婦人科の実際	57	13	2008	子宮体癌の術後化学療法ータキサンとプラチナの併用に関する新たなエビデンスの構築を目指してー	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				2129-2134			
日本産科婦人科学会東京地方部 会誌	57	4	2008	成熟嚢胞性奇形腫に腺癌または境界悪性腫瘍を共存した2例	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				451-454			
Virchows Archiv	453	6	2008	Ancillary testing of liquid-based cytology specimens for identification of patients at high risk of cervical cancer	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				545-555			
日本産科婦人科学会東京地方部 会誌	57	4	2008	腺癌への悪性転化を伴う成熟嚢胞性奇形腫の3例	阪埜浩司	他	産婦人科学 (婦人科)
				451-454			
日本分子腫瘍マーカー研究会誌	24		2009	子宮癌腫瘍マーカーとしての β 3Gal-T4/T5 及び GlcNAc6ST2	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				25-26			
Clin Cancer Research	15	4	2009	Overexpression of Class III β -Tubulin Predicts Good Response to Taxane-Based Chemotherapy in Ovarian Clear Cell Adenocarcinoma	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				1473-1480			
Anticancer Research	29	2	2009	Favourable prognosis with modified dosing of docetaxel and cisplatin in Japanese patients with ovarian cancer	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				561-566			
日本産科婦人科学会東京地方部 会誌	58	1	2009	腹腔鏡手術時期の遅れにより片側卵巣機能障害に至った傍卵巣嚢腫茎捻転の1例	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				125-128			
産婦人科の実際	58	3	2009	婦人科がんの妊孕性温存手術ー開腹手術ー	青木大輔	他	産婦人科学 (婦人科)
				291-296			
日本がん検診・診断学会誌	17	1	2009	子宮がん検診における精度管理充実に向けた追跡調査の取り組みと課題	阪埜浩司	他	産婦人科学 (婦人科)
				47-51			
Journal of Minimally Invasive Surgery							

24	4	2008	Diagnosis of steroid-induced glaucoma after photorefractive keratectomy.	山口剛史		眼科学
	413-415					
Front Biosci						
13		2008	Pathologic roles of prorenin and (pro)renin receptor in the eye	里深信吾		眼科学
	3884-3895					
Journal of Cataract and Refractive Surgery						
34	8	2008	Alterations in the anterior chamber angle after implantation of iris-fixated phakic intraocular lenses.	山口剛史		眼科学
	1300-1305					
Int Ophthalmol						
28	5	2008	Rhegmatogenous retinal detachment associated with primary congenital glaucoma	里深信吾		眼科学
	369-371					
Am J Pathol						
173	6	2008	(Pro)renin receptor promotes choroidal neovascularization by activating its signal transduction and tissue renin-angiotensin system	里深信吾		眼科学
	1911-1918					
Journal of Cataract and Refractive Surgery						
35	1	2009	Effect of spherical aberration on visual function under photopic and mesopic conditions after cataract surgery.	山口剛史		眼科学
	57-63					
臨床皮膚科						
62	4	2008	乳頭状汗腺腫の1例	海老原全	他	皮膚科学
	319-321					
Br J Dermatol						
158	4	2008	Evaluating efficacy of plasmapheresis for patients with pemphigus using desmoglein enzyme-linked immunosorbent assay	谷川瑛子	他	皮膚科学
	685-690					
臨床皮膚科						
62	5	2008	抗マラリア薬	谷川瑛子		皮膚科学
	122					
医薬の門						
48	2	2008	皮膚科エキスパートQ&A 肛門周囲の紅斑 乳房外Paget病	石河晃	他	皮膚科学
	190-191					
Br J Dermatol						
158	4	2008	Evaluating efficacy of plasmapheresis for patients with pemphigus using desmoglein enzyme-linked immunosorbent assay	天谷雅行	他	皮膚科学
	685-690					
J Invest Dermatol						
128	4	2008	Isolation of pathogenic monoclonal anti-desmoglein 1 human antibodies by phage display of pemphigus foliaceus autoantibodies	石井健	他	皮膚科学
	939-948					
Eur J Haematol						
80	5	2008	A case of atypical POEMS syndrome without polyneuropathy	高江雄二郎	他	皮膚科学
	452-455					
Clin Exp Dermatol						
33	3	2008	Indeterminate cell histiocytosis successfully treated with ultraviolet B phototherapy	谷川瑛子	他	皮膚科学
	301-304					
皮膚病診療						

30	5	2008	【薬疹2008】臨床例ペグインターフェロン・リバビリン併用療法による薬疹	石河晃	他	皮膚科学
503-506						
実験医学						
26	8	2008	詳細な自己抗体解析による天疱瘡の病態解明	天谷雅行	他	皮膚科学
1302-1307						
Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology						
2	2	2008	座談会 Clinical Immunologyの展望	天谷雅行		皮膚科学
69-81						
実験医学						
28	8	2008	基礎研究の新たな方向性を解く疾患解明Overview詳細な自己抗体解析による天疱瘡の病態解明	石井健	他	皮膚科学
1302-1307						
実験医学						
26	8	2008	詳細な自己抗体解析による天疱瘡の病態解明	石井健	他	皮膚科学
1302-1307						
臨床検査						
52	5	2008	【自己免疫疾患の診断】抗体と疾患 抗デスモグレイン抗体と天疱瘡	石井健		皮膚科学
519-524						
医薬の門						
48	3	2008	皮膚エキスパートQ&A 足底の色素斑	石河晃	他	皮膚科学
63-65						
Derma						
	140	2008	【皮膚疾患薬物療法update】脱毛症治療薬	大山学		皮膚科学
129-134						
J Am Acad Dermatol						
58	6	2008	Consensus statement on definitions of disease, end points, and therapeutic response for pemphigus	天谷雅行	他	皮膚科学
1043-1046						
Clin Genet						
74	1	2008	Tietz syndrome: unique phenotype specific to mutations of MITF nuclear localization signal	石河晃	他	皮膚科学
93-95						
J Immunol						
181	2	2008	Novel system evaluating in vivo pathogenicity of desmoglein 3-reactive T cell clones using murine pemphigus vulgaris	天谷雅行	他	皮膚科学
1526-1535						
Exp Dermatol						
18		2008	Pemphigus mouse model as a tool to evaluate various immunosuppressive therapies	天谷雅行	他	皮膚科学
252-260						
J Dermatol Sci						
51	2	2008	Sequence analysis of filaggrin gene by novel shotgun method in Japanese atopic dermatitis	海老原全	他	皮膚科学
113-120						
皮膚科の臨床						
50	8	2008	再発性多軟骨炎の1例	海老原全	他	皮膚科学
1040-1041						
医薬の門						
				石河晃	他	皮膚科学

347-349			脰 肉芽腫性口唇炎			
J Vet Med Sci 70 8 2008 807-812			Neutrophils contact to plasma membrane of keratinocytes including desmosomal structures in canine pemphigus foliaceus	石河晃	他	皮膚科学
J Dermatol Sci 51 2 2008 113-120			Sequence analysis of filaggrin gene by novel shotgun method in Japanese atopic dermatitis	天谷雅行	他	皮膚科学
臨床皮膚科 62 10 2008 752-755			X線照射とHAARTの併用が有効であったAIDS関連Kaposi肉腫の1例	高江雄二郎	他	皮膚科学
Br J Dermatol 159 4 2008 887-894			Comparison of the reliability and validity of outcome instruments for cutaneous dermatomyositis	谷川瑛子	他	皮膚科学
Am J Pathol 173 3 2008 835-843			G-protein-coupled receptor GPR49 is up-regulated in basal cell carcinoma and promotes cell proliferation and tumor formation	石河晃	他	皮膚科学
Monthly Book Derma 143 2008			「色素脱失のすべて」Hypomelanosis of Ito、脱色素性母斑、結節性硬化症における白斑の鑑別	石河晃		皮膚科学
Am J Pathol 173 3 2008 835-843			G-protein-coupled receptor GPR49 is up-regulated in basal cell carcinoma and promotes cell proliferation and tumor formation	天谷雅行	他	皮膚科学
J Eur Acad Dermatol Venereol 22 9 2008 1070-1075			Anti-desmoglein IgG autoantibodies in patients with pemphigus in remission	天谷雅行	他	皮膚科学
J Invest Dermatol 128 9 2008 2135-2137			Post-IID 2008 International Meeting on autoimmune bullous diseases	天谷雅行	他	皮膚科学
J Dermatol Sci 52 1 2008 13-20			Genotype-phenotype correlations in six Japanese patients with recessive dystrophic epidermolysis bullosa with the recurrent p. Glu2857X mutation	石河晃	他	皮膚科学
Derma 145 2008 7-13			【毛のすべて】 毛包幹細胞・毛包再生の最前線	大山学		皮膚科学
炎症と免疫 16 6 2008 717-719			デスマogleインと天疱瘡	天谷雅行	他	皮膚科学
内科 102 4 2008 781-785			水膨れが生じる皮膚疾患	天谷雅行	他	皮膚科学
日本皮膚科学会雑誌 118 12 2008 2397-2402			多形紅斑 皮膚科セミナー第43回蕁麻疹の診断と紅斑症	谷川瑛子		皮膚科学

Br J Dermatol	159	5	2008	A novel silent mutation in the NSDHL gene causing CHILD syndrome as a result of aberrant splicing	1204-1206	石河晃	他	皮膚科学
J Dermatol Sci	52	2	2008	Genetic characterization of human Dsg3-specific B cells isolated by flow cytometry from the peripheral blood of patients with pemphigus vulgaris	98-107	天谷雅行	他	皮膚科学
Clin Exp Dermatol	33	6	2008	Cutaneous pemphigus vulgaris with skin features similar to the classic mucocutaneous type: a case report and review of the literature	724-728	天谷雅行	他	皮膚科学
Dig Dis Sci	53	11	2008	Candida albicans infection delays duodenal ulcer healing in cysteamine-induced duodenal ulcers in rats	2878-2885	天谷雅行	他	皮膚科学
Transpl Int	21	12	2008	Demodicidosis as a cause of facial eruption developing early after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	1192-1193	谷川瑛子	他	皮膚科学
日本皮膚科学会雑誌	118	13	2008	皮膚病理へのいざない上皮系腫瘍嚢腫を形成する良性腫瘍	2939-2941	石河晃		皮膚科学
医薬の門	48	6	2008	皮膚エキスパートQ&A 化膿を繰り返す臀部の皮疹	37-39	石河晃	他	皮膚科学
日本皮膚病理組織学会会誌	24	1	2008	後頭部に生じた結節	6-9	石河晃	他	皮膚科学
Topics in Atopy	7	4	2008	【アレルギーマーチを検証する】 気道アレルギー発症への経皮感作の影響	37-42	天谷雅行	他	皮膚科学
日本皮膚病理組織学会会誌	24	1	2008	後頭部に生じた結節	6-9	天谷雅行	他	皮膚科学
Mol Biol Cell	19	12	2008	Sentan: a novel specific component of the apical structure of vertebrate motile cilia	5338-5346	天谷雅行	他	皮膚科学
Scand J Infect Dis	40	8	2008	Development of varicella after allogeneic cord blood transplantation in a varicella zoster virus seropositive patient	684-685	高江雄二郎	他	皮膚科学
Vet Immunol Immunopathol	127	1-2	2009	Canine pemphigus foliaceus antigen is localized within desmosomes of keratinocyte	57-64	石河晃	他	皮膚科学
J Eur Acad Dermatol Venereol	23	1	2009	Sparing of the bulge area could preserve intact lower portion of hair follicles in a case of tufted folliculitis	87-89	大山学	他	皮膚科学
J Eur Acad Dermatol Venereol				Primary tuberculosis of the penis after				

23	1	2009	intravesical bacillus Calmette-Guerin instillation therapy	大山学	他	皮膚科学
J Eur Acad Dermatol Venereol						
23	1	2009	Primary tuberculosis of the penis after intravesical bacillus Calmette-Guerin instillation therapy	天谷雅行	他	皮膚科学
J Eur Acad Dermatol Venereol						
		2009	Cutaneous Serratia marcescens infection on the face of a healthy female	高江雄二郎	他	皮膚科学
医薬の門						
49	1	2009	皮膚エキスパートQ&A 夏季増悪し冬季軽快する陰部の難治性湿潤病変	石河晃	他	皮膚科学
Clin Exp Dermatol						
		2009	Malignant eccrine spiradenoma: case report and review of the literature, including 15 Japanese cases	石河晃	他	皮膚科学
J Am Acad Dermatol						
60	2	2009	Inflammatory plaque with peripheral nodules: a new specific finding of cutaneous polyarteritis nodosa	石河晃	他	皮膚科学
J Am Acad Dermatol						
60	2	2009	Inflammatory plaque with peripheral nodules: a new specific finding of cutaneous polyarteritis nodosa	天谷雅行	他	皮膚科学
J Immunol						
182	3	2009	A single helper T cell clone is sufficient to commit polyclonal naive B cells to produce pathogenic IgG in experimental pemphigus vulgaris	天谷雅行	他	皮膚科学
Exp Dermatol						
18	3	2009	Pemphigus mouse model as a tool to evaluate various immunosuppressive therapies	高江雄二郎	他	皮膚科学
IBD research						
3	1	2009	IBDに合併する皮膚症状とその対策	海老原全	他	皮膚科学
Br J Dermatol						
		2009	Novel mutation p.Gly59Arg in GJB6 encoding connexin 30 underlies palmoplantar keratoderma with pseudoainhum, knuckle pads and hearing loss	石河晃	他	皮膚科学
IBD Research						
3	1	2009	IBDに合併する皮膚症状とその対策	天谷雅行	他	皮膚科学
J Invest Dermatol						
		2009	Pathogenic Anti-Desmoglein MAb Shows Variable ELISA Activity because of Preferential Binding of Mature versus Proprotein Isoforms of Desmoglein 3	石井健	他	皮膚科学
Nephron Exp Nephrol						
100		2008	The novel NF- κ B activation inhibitor dehydroxymethyl-epoxyqionomicin suppresses anti-thyl. 1-induced glomerulonephritis in rats.	宮嶋哲		泌尿器科学
			Prediction of extraprostatic extension by			

Int J Urol 15 520-523	2008	prostate specific antigen velocity, endorectal MRI, and biopsy Gleason score in clinically localized prostate cancer.	宮嶋哲	泌尿器科学
Urol Int 80 129-33	2008	Simple stratification of survival using bone scan and serum C-reactive protein in prostate cancer patients with metastases.	宮嶋哲	泌尿器科学
Clin Exp Nephrol 12 195-9	2008	Papillary renal cell carcinoma: clinicopathological characteristics in 40 patients.	宮嶋哲	泌尿器科学
Jpn J Clin Oncol 38 360-364	2008	The predictors of local recurrence after radical cystectomy in patients with invasive bladder cancer.	宮嶋哲	泌尿器科学
Int J Clin Oncol 13 510-514	2008	Gemcitabine and paclitaxel chemotherapy for advanced urothelial carcinoma in patients who have received prior cisplatin-based chemotherapy.	宮嶋哲	泌尿器科学
臨床泌尿器科 62(1) 57	2008	腹部腫瘤を主訴とする後腹膜原発粘液嚢胞腺癌	安藤利行 他	泌尿器科学
臨床泌尿器科62(1) 62 1 57-59	2008	腹部腫瘤を主訴とする後腹膜原発粘液嚢胞腺癌	石田勝 他	泌尿器科学
Urology 73 epub	2009	Discontinuance of BCG instillation therapy for non-muscle invasive bladder cancer has negative effect on tumor recurrence.	宮嶋哲	泌尿器科学
Urology 73 3 655-660	2009	Angiotensin II type 1 receptor antagonist enhances cis-dichlorodiammineplatinum -induced cytotoxicity in mouse xenograft model of bladder cancer.	宮嶋哲	泌尿器科学
Psychiatry Res. 158 3 287-296	2008	Gaze-triggered orienting is reduced in chronic schizophrenia.	前田貴記	精神・神経科学
精神神経学雑誌(0033-2658)110巻6号 Page517(2008.06) 2008	2008	重症アルコール性肝炎に精神病症状を伴った1例	加藤隆	精神・神経科学
Hum Psychopharmacol 23 6 455-463	2008	Effectiveness of antipsychotic polypharmacy for patients with treatment refractory schizophrenia: an open-label trial of olanzapine plus risperidone for those who failed to respond to a sequential treatment with olanzapine, quetiapine and risperidone.	野村健介	精神・神経科学
Schizophr Res		Novel rating scales for schizophrenia - Targeted Inventory on Problems in Schizophrenia (TIP-Sz)		

	2008		and Functional Assessment for Comprehensive Treatment of Schizophrenia (FACT-Sz).	野村健介		精神・神経科学
J Clin Psychopharmacol 28 5 540-543	2008		A randomized, open-label comparison of 2 switching strategies to aripiprazole treatment in patients with schizophrenia: add-on, wait, and tapering of previous antipsychotics versus add-on and simultaneous tapering.	野村健介		精神・神経科学
最新精神医学 13 6 583-590	2008		【抗精神病薬】 プロナサンセリン(ロナセン)	仁王進太郎	他	精神・神経科学
精神科 13 6 483-490	2008		【統合失調症の薬物療法 プロナサンセリンの up to date】 非定型抗精神病薬の使い分け プロナサンセリンと他剤との違いについて	仁王進太郎	他	精神・神経科学
臨床精神薬理 11 1435-1440	2008		Saliency仮説とドーパミン	内田裕之	他	精神・神経科学
Schizophrenia Research 106 328-36	2008		Novel Rating Scales for Patients with Schizophrenia - Targeted Inventory on Problems in Schizophrenia (TIP-Sz) and Functional Assessment for Comprehensive Treatment of Schizophrenia (FACT-Sz): A Preliminary Study	内田裕之	他	精神・神経科学
Psychopharmacology Bulletin 41 80-102	2008		Treatment target in schizophrenia. A critical review and a clinical suggestion	内田裕之	他	精神・神経科学
Journal of Clinical Psychiatry 69 1281-1286	2008		Dopamine D2 Receptor Occupancy and Once-monthly Administration of Long-Acting Injectable Risperidone: A PET study	内田裕之	他	精神・神経科学
Journal of Clinical Psychopharmacology 28 540-543	2008		A randomized open-label comparison of two switching strategies to aripiprazole treatment in patients with schizophrenia - Add-on, wait, and tapering of previous antipsychotics vs. add-on and simultaneous tapering	内田裕之	他	精神・神経科学
American Journal of Geriatric Psychiatry 16 584-593	2008		Effect of age on dosing of prescribed antipsychotic drugs in schizophrenia spectrum disorders: a survey of 1,418 patients in Japan	内田裕之	他	精神・神経科学
Psychopharmacology Bulletin 41 164-70	2008		A potentially aborted neuroleptic malignant syndrome following seclusion against uncontrollable water intoxication	内田裕之	他	精神・神経科学
Schizophrenia Frontier 8 252-256	2008		陽性症状の神経化学的基盤に関する仮説 - Aberrant Saliency仮説を中心に	内田裕之		精神・神経科学
			Effectiveness of antipsychotic polypharmacy for patients with treatment refractory			

Human Psychopharmacology 23 455-463	2008	schizophrenia. -An open-label trial of olanzapine plus risperidone for those who failed to respond to a sequential treatment with olanzapine, quetiapine and risperidone	内田裕之	他	精神・神経科学
Journal of Clinical Psychiatry 69 81-86	2008	Quetiapine Sustained Release versus Immediate Release Formulations: A PET study	内田裕之	他	精神・神経科学
Oncology 74 s1 111-112	2008	Screening for Psychological Distress among Cancer Patients in a Pain Clinic Using the Distress and Impact Thermometer.	藤澤大介	他	精神・神経科学
Int J Mental Health Systems 9 14	2008	Pathway to Psychiatric Care in Japan: a multicenter observational study.	藤澤大介	他	精神・神経科学
Schizophrenia Research 106 356-362	2008	A self-reported instrument for prodromal symptoms of psychosis: Testing the clinical validity of the PRIME Screen-Revised (PS-R) in a Japanese population	山澤涼子		精神・神経科学
日本社会精神医学会雑誌 17 188-196	2008	社会機能評価尺度 (Social Functioning Scale ; SFS) 日本語版の作成および信頼性と妥当性の検討	山澤涼子	他	精神・神経科学
精神科治療学 23 579-586	2008	インターネットを利用した精神障害の早期発見・早期治療 DUI (Duration of Untreated Illness, 疾病の未治療期間) を短縮するために	山澤涼子	他	精神・神経科学
Australian and New Zealand Journal of Psychiatry 42 159-165	2008	Association between duration of untreated psychosis, premorbid functioning, and cognitive performance and the outcome of first-episode schizophrenia in Japanese patients : prospective study	山澤涼子	他	精神・神経科学
Cog Behav Neurol 21 246-248	2008	Differential hand-neglect after a callosal lesion.	村松太郎	他	精神・神経科学
Psychiatry Research 158 287-296	2008	Gaze-triggered orienting is reduced in chronic schizophrenia	村松太郎	他	精神・神経科学
高次脳機能研究 28 392-403	2008	アルツハイマー病に出現した漢字の選択的失書について	村松太郎	他	精神・神経科学
JIM 18 4 308-310	2008	ホームレスの精神疾患	新村秀人		精神・神経科学
日本森田療法学会雑誌 19 1 55-61	2008	森田療法をいかに学ぶか	新村秀人		精神・神経科学
Schizophrenia Frontier					

10	1	2009	Klaus Conrad (Die beginnende Schizophrenie: Versuch einer Gestaltanalyse des Wahns)	前田貴記		精神・神経科学
	69-72					
臨床精神医学(0300-032X)38巻1号 Page53-59(2009.01)		2009	【神経経済学 社会における意思決定の神経基盤と精神医学】 不確実な状況下での意思決定 ギャンブリ ング課題と前頭葉眼窩部の機能	加藤隆		精神・神経科学
歯科学報(0037-3710)109巻1号 Page32-34(2009.02)		2009	口腔内感覚の脳内認知機構の解明とその臨床医学的展 開 ヒト大脳皮質体性感覚機能の特殊性	加藤隆	他	精神・神経科学
Annals of Nuclear Medicine 22 3		2008	Accumulation of gallium-67 within mature and immature teratoma in pediatric patients: Investigation for the uptake mechanism	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
207-213						
Int J Radiation Oncology Biol Phys 71 1		2008	Phase II study of chemoradiotherapy with S-1 and low-dose cisplatin for inoperable advanced gastric cancer	茂松直之	他	放射線科学(治 療・核医学)
173-179						
クリニシアン						
55 6		2008	放射線治療の最前線 高精度放射線治療	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
650-656						
Cancer 113 4		2008	Pattern of tumor recurrence in initially nonmetastatic breast cancer patients - distribution and frequency of metastases at unusual sites.	茂松直之	他	放射線科学(治 療・核医学)
677-682						
Clin Nucl Med 33 8		2008	Detection of perineural tumor invasion of the head and neck: clinical use of thallium-201 SPECT/CT image fusion	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
567-70						
Cancer 113 4		2008	Pattern of tumor relapse in initially non- metastatic breast cancer patients: distribution and frequency of metastases at unusual sites	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
677-82						
JJCO 38 8		2008	Patterns of local recurrence after intraoperative radiotherapy for advanced neuroblastoma	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
562-6						
臨床放射線						
53 11		2008	頭頸部の診断と治療 update【放射線治療】1. 総論 手術と放射線治療の併用	大橋俊夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
1565-1569						
Acta Radiologica						
		2008	Gadolinium-enhanced 3D-MP-RAGE imaging is superior to spin echo imaging in delineating brain metastases	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
1-7						
Radiat Med 26 8		2008	Acute Exacerbation of Subclinical Idiopathic Pulmonary Fibrosis (IPF) Triggered by Hypofractionated Stereotactic Body Radiotherapy (SBRT) in a Primary Lung Cancer Patient with Slightly Focal Honeycombing	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
504-7						
医学のあゆみ						

227	9	2008	655-659	知っておけばこんな変わる放射線治療成績「X線を 用いた最新の治療法の問題点と将来」	国枝悦夫		放射線科学(治 療・核医学)	
Phys. Med. Biol.	53	23	2008	6695-711	Proportion-corrected scaled voxel models for Japanese children and their application to the numerical dosimetry of specific absorption rate for frequencies from 30 MHz to 3 GHz	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
胃がんperspective	1	1	2008	30-35	胃癌における化学放射線療法 の展望	大橋俊夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
Physica Medica	24	4	2008	204-11	Variation of dose distribution of stereotactic radiotherapy for small-volume lung tumors under different respiratory conditions (in printing)	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
Cancer Gene Ther	15	2	2008	126-132	Cell studies of a three-component antisense MORF/tat/Herceptin nanoparticle designed for improved tumor delivery.	中村佳代子	他	放射線科学(治 療・核医学)
臨床核医学	41	6	2008	120-121	遺伝子と臨床核医学(19):【分子イメージング】へ の道	中村佳代子		放射線科学(治 療・核医学)
Int J Radiat Oncol Biol Phys	70	4	2008	1057-68	Possible misinterpretation of demarcated solid patterns of radiation fibrosis on CT scans as tumor recurrence in patients receiving hypofractionated stereotactic radiotherapy for lung cancer	国枝悦夫	他	放射線科学(治 療・核医学)
Hepatol Res	38	1	2008	60-69	Hypofractionated stereotactic radiotherapy with and without transarterial chemoembolization for small hepatocellular carcinoma not eligible for other ablation therapies: preliminary results for efficacy and toxicity	茂松直之	他	放射線科学(治 療・核医学)
Eur J Gastroenterol Hepatol	20	10	2008	1040-1044	Dose-related fluorodeoxyglucose uptake in acute radiation-induced hepatitis.	茂松直之	他	放射線科学(治 療・核医学)
Biol Blood Marrow Transplant	14	6	2008	651-657	Long-term follow-up of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for de novo acute myelogenous leukemia with a conditioning regimen of total body irradiation and granulocyte colony-stimulating factor-combined high-dose cytarabine.	茂松直之	他	放射線科学(治 療・核医学)
Clin Nucl Med	33	8	2008	567-570	Detection of perineal tumor invasion of the head and neck: clinical use of thallium-201 SPECT/CT image fusion	茂松直之	他	放射線科学(治 療・核医学)
Hepatol Res	38	1	2008	60-69	Hypofractionated stereotactic radiotherapy with and without transarterial chemoembolization for small hepatocellular carcinoma not eligible for other ablation therapies: preliminary results	茂松直之	他	放射線科学(治 療・核医学)

			for efficacy and toxicity			
Exp Anim	57	1	2008	Effects of single or repeated administration of methamphetamine on immune response in mice	茂松直之 他	放射線科学 (治療・核医学)
			35-43			
Radiother Oncol	87	3	2008	Intrafractional gastric motion and interfractional stomach deformity during radiation therapy.	茂松直之 他	放射線科学 (治療・核医学)
			425-431			
Am J Chin Med	36	3	2008	Anti-tumor effects of water-soluble propolis on a mouse sarcoma cell line in vivo and in vitro.	茂松直之 他	放射線科学 (治療・核医学)
			625-634			
Bone Marrow Transplant	42	3	2008	Reduced efficacy of topical corticosteroid in preventing cytarabine-induced keratoconjunctivitis in patients receiving high-dose cytarabine and total body irradiation for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	茂松直之 他	放射線科学 (治療・核医学)
			197-199			
Physica Medica			2008	Variation of dose distribution of stereotactic radiotherapy for small-volume lung tumors under different respiratory conditions (in printing)	川瀬貴嗣 他	放射線科学 (治療・核医学)
International Journal of Radiation Oncology Biology Physics			2008	Extrapulmonary soft-tissue fibrosis resulting from hypofractionated stereotactic body radiotherapy for pulmonary nodular lesions	川瀬貴嗣 他	放射線科学 (治療・核医学)
			in press			
日本放射線技術学会雑誌	65	1	2009	体幹部定位放射線治療における骨構造を基準としたアイソセンタ決定の不確かさについて	大橋俊夫 他	放射線科学 (治療・核医学)
			41-48			
Int J Radiat Oncol Biol Phys	73	1	2009	Dose Distribution Analysis of Axillary Lymph Nodes for Three-Dimensional Conformal Radiotherapy With a Field-in-Field Technique for Breast Cancer	大橋俊夫 他	放射線科学 (治療・核医学)
			80-87			
臨床核医学	42	1	2009	分子イメージング『Molecular-imaging』I：その意味は？	中村佳代子	放射線科学 (治療・核医学)
			132-133			
Int J Radiat Oncol Biol Phys	73	2	2009	Stereotactic body radiotherapy (SBRT) for primary lung cancer at a dose of 50 Gy total in 5 fractions to the periphery of the planning target volume (PTV) calculated using a superposition algorithm	国枝悦夫 他	放射線科学 (治療・核医学)
			442-8			
Int J Radiat Oncol Biol Phys	73	2	2009	Stereotactic Body Radiotherapy for Primary Lung Cancer at a Dose of 50 Gy Total in Five Fractions to the Periphery of the Planning Target Volume Calculated Using a Superposition Algorithm	大橋俊夫 他	放射線科学 (治療・核医学)
			442-448			
				Radiosurgical Treatment Planning for		

Keio J Med 58 1 2009 41-49	Intracranial AVM Based on Images Generated by Principal Component Analysis - A Simulation Study	大橋俊夫 他	放射線科学 (治療・核医学)
臨床核医学 42 2 2009 27-29	分子イメージング『Molecular-imaging』II:小動物核医学イメージング装置	中村佳代子	放射線科学 (治療・核医学)
映像情報メディカル 40 2008 486-489	Gd-EOB-DTPA (EOB・プリモビスト)による肝MRI診断	谷本伸弘	放射線科学 (診断)
日本医師会雑誌 137 8 2008 1010-1011	非造影MRA (MR血管撮影)	谷本伸弘	放射線科学 (診断)
Clin Nucl Med 33 8 2008 567-70	Detection of perineural tumor invasion of the head and neck: clinical use of thallium-201 SPECT/CT image fusion.	百島祐貴 他	放射線科学 (診断)
Radiology 248 3 2008 917-924	Semi-quantitative Assessment of R2* and T1-weighted MR Imaging in the Prediction of Efficacy of Gonadotropin-releasing Hormone Analogue for Volume Reduction of Uterine Leiomyoma - Initial Experience	奥田茂男 他	放射線科学 (診断)
神経内科 69 3 2008 232-235	MRI T2*強調画像の原理	百島祐貴	放射線科学 (診断)
Medical Practice 25 12 2008 2126-37	脳卒中患者の画像診断 (CT・MRI) のポイント	百島祐貴 他	放射線科学 (診断)
有病者歯科医療 17 1 2008 29-35	経口ビスホスホネート系薬剤投与患者に対するインプラント手術経験	矢郷香 他	歯科・口腔外科学
Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod 106 2 2008 e20-e25	Laugier-Hunziker-Baran syndrome	矢郷香	歯科・口腔外科学
日本口腔外科学会雑誌 54 9 2008 550-554	知覚神経異常を伴った上下顎大量骨融解症の1例	矢郷香 他	歯科・口腔外科学
Am J Med Genet A. 149A 3 2009 496-500	Case report: Adult phenotype of Mulvihill-Smith syndrome.	矢郷香 他	歯科・口腔外科学
救急医学 32 4 2008 398-402	指針 (痙攣を含む)	鈴木昌	救急医学
Mebio	救急部における失神の診療	鈴木昌	救急医学

128-138					
日本臨床、別冊循環器症候群Ⅲ 2008 347-351	大動脈緊急症	堀進悟		救急医学	
Biomed Pharmacother 62 5 2008 333-8	Neutrophil elastase and systemic inflammatory response syndrome in the initiation and development of acute lung injury among critically ill patients.	藤島清太郎	他	救急医学	
日本外科感染症学会 5 (1) 2008 49-54	【救急・集中治療領域の感染管理】 救急患者における人工呼吸器関連肺炎の臨床的検討.	藤島清太郎	他	救急医学	
呼吸 27 1 2008 43-8	【重症呼吸器疾患の救急管理】 ARDS.	藤島清太郎	他	救急医学	
日本外科感染症学会雑誌 5 1 2008 49-54	救急患者における人工呼吸器関連肺炎の臨床的検討	宮木大		救急医学	
日本救急医学会関東地方会雑誌 29 2008 146-147	同時に強盗被害に遭いストレスを受傷し、救急外来を受診した急性ストレス反応とPTSDの2症例	中谷宣章	他	救急医学	
日本熱傷学会機関誌 34 2 2008 96-103	球肢にこだわりリハビリテーションが遅れた脳梗塞・認知症合併高齢者熱傷の1例.	相川直樹	他	救急部	
Society of Critical Care Medicine 36 2008 A16	Treatment effects of thrombomodulin alfa in patients with dic associated with infection.	相川直樹	他	救急部	
Biomedicine & Pharmacotherapy 62 2008 333-338	Neutrophil elastase and systemic inflammatory response syndrome in the initiation and development of acute lung injury among critically ill patients	相川直樹	他	救急部	
日本外科感染症学会雑誌 5 4 2008 293-300	Surviving Sepsis CampaignとGuidlines	相川直樹	他	救急部	
Japan Medical Education Foundation 27 2008 6-32	病院長が先導する大学病院改革	相川直樹		救急部	
the Journal of Infection Control and Prevention 4 2008 23-26	感染制御に関する話題. 感染制御	相川直樹		救急部	
日本化学療法学会雑誌 56 2008 299-312	MRSA感染症患者に対するarbakacin 200 mg 1日1回投与の治療効果 一臨床薬理試験一	相川直樹	他	救急部	

日本外科感染症学会雑誌 5 49-54	2008	救急患者における人工呼吸器関連肺炎の臨床的検討.	相川直樹	他	救急部
救急・集中治療 20 1399-1404	2008	全身性炎症反応症候群 (SIRS) .	相川直樹	他	救急部
日本腹部救急医学会雑誌 28 797-801	2008	手術的治療および非手術的治療の適応と限界.	相川直樹	他	救急部
SHOCK 30 178-183	2008	ADENOSINE triphosphate-sensitive potassium channels prevent extension of myocardial ischemia to subepicardium during hemorrhagic shock.	相川直樹	他	救急部
Shock 23 53-58	2008	Sepsisに対する新規治療戦略；一次侵襲後の免疫・栄養学的予防療法.	相川直樹	他	救急部
救急医療ジャーナル 16 94 66-67	2008	洞爺湖サミットにおける要人の緊急医療.	相川直樹	他	救急部
救急・集中治療 20 1399-1404	2008	抗サイトカイン療法.	相川直樹	他	救急部
Shock 23 53-58	2008	Sepsisに対する新規治療戦略；一次侵襲後の免疫・栄養学的予防療法.	相川直樹	他	救急部
日本救急医学会関東地方雑誌 29 76-77	2008	積極的脳平温・バルビツレート併用療法により良好な予後が得られた重症急性硬膜下血腫非手術の1例.	相川直樹	他	救急部
日本救急医学会関東地方会雑誌 29 42-43	2008	；島しょからヘリコプターで搬送され心停止に至った急性心筋梗塞の1例.	相川直樹	他	救急部
日本外傷学会雑誌 22 422-427	2008	外傷外科医の育成；救急外科医（外科系救急医）としての後期研修医教育.	相川直樹	他	救急部
Japanese Journal of Antibiotics 61 122-171	2008	外科感染症分離菌とその薬剤感受性；2006年度分離菌を中心に.	相川直樹	他	救急部
J Infect Chemother 14 244-249	2008	Usefulness of procalcitonin serum level for the discrimination of severe sepsis from sepsis ; a multicenter prospective study.	相川直樹	他	救急部
Biomedicine Pharmacotherapy 62 333-338	2008	Neutrophil elastase and systemic inflammatory response syndrome in the initiation and development of acute lung injury among critically ill patients.	相川直樹	他	救急部

日本化学療法学会雑誌	56	2008	330-343	外科・救急・集中治療領域におけるキャンディン系抗真菌薬ミカファンギンの臨床効果—AKOTTアルゴリズムを用いた検討—	相川直樹	他	救急部
感染・炎症・免疫	38	2008	83-85	Severe sepsisとseptic shockに対する新規薬物療法	相川直樹	他	救急部
日本医事新報	4374	2008	72-78	臨床医学の展望2008: 診断および治療上の進歩: 一般外科学.	相川直樹	他	救急部
The Japanese Journal of Antibiotics	61	2008	29-41	救急・集中治療領域における深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの影響—ガイドライン準拠, 非準拠と転帰への影響—.	相川直樹	他	救急部
The Japanese Journal of Antibiotics	61	2008	18-28	救急・集中治療領域における深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの影響—患者背景について—.	相川直樹	他	救急部
臨床スポーツ医学	25	2008	5 469-477	アンチドーピングのための頻用薬の知識 -各論 代謝系-	石田浩之		スポーツクリニック
臨床スポーツ医学臨時増刊号	25	2008	383-389	予防としてのスポーツ医学-オーバートレーニング症候群-	石田浩之		スポーツクリニック
臨床スポーツ医学臨時増刊号	25	2008	432-436	予防としてのスポーツ医学-蛋白尿と血尿-	石田浩之		スポーツクリニック
ドクターサロン	52	2008	11 19-22	METsとエクササイズ	石田浩之		スポーツクリニック
BJU Int.		2008		Risk stratification of patients with nodal involvement in upper tract urothelial carcinoma: value of lymph-node density.	三上修治	他	病理診断部
Pathology International	58	2008	10 664-7	Angiomyolipoma with epithelial cysts of the kidney in a man.	三上修治	他	病理診断部
Clin Cancer Res.		2008		Expression of Heparanase in Renal Cell Carcinomas: Implications for Tumor Invasion and Prognosis.	三上修治	他	病理診断部
Neurol Med Chir	48	2008	11 522-525	Development of Testicular Alpha-Fetoprotein-Secreting Germ Cell Tumor 3 Years After Treatment of Intracranial Lesion Identified as Non-secreting Germ Cell Tumor on the Basis of Clinical Data.	三上修治	他	病理診断部
J Clin Oncol.		2008		Lymphovascular Invasion Predicts Clinical Outcomes in Patients With Node-Negative Upper Tract Urothelial Carcinoma.	三上修治	他	病理診断部

J Urol.		2008	Decreased Acetylation of Histone H3 in Renal Cell Carcinoma: A Potential Target of Histone Deacetylase Inhibitors.	三上修治	他	病理診断部
J Dermatol Sci.		2008	E-cadherin expression in the subepithelial nevus cells of the giant congenital nevocellular nevi (GCNN) correlates with their migration ability in vitro.	三上修治	他	病理診断部
Clin. Exp Nephrol		2008	Papillary renal cell carcinoma: clinicopathological characteristics in 40 patients.	三上修治	他	病理診断部
Endocr Pathol.		2008	Combined Gangliocytoma and Prolactinoma of the Pituitary Gland.	三上修治	他	病理診断部
薬剤学	68 5	2008	院内製剤「人工髄液CSF-19」の開発と調製実績	谷川原祐介	他	薬剤部
	371-377					
TDM研究	25 4	2008	血中濃度モニタリングに基づくアミカシン, トブラマイシンの用量最適化と治療効果の向上	谷川原祐介	他	薬剤部
	180-186					
日本化学療法学会雑誌	56 3	2008	MRSA感染症患者に対するarbakacin 200mg 1日1回投与の治療効果-臨床薬理試験-	谷川原祐介	他	薬剤部
	299-312					
日本化学療法学会雑誌	56 S1	2008	呼吸器感染症に対するsitafloxacinの一般臨床試験	谷川原祐介	他	薬剤部
	63-80					
日本化学療法学会雑誌	56 2	2008	小児深在性真菌症患者におけるmicafunginの有効性, 安全性および薬物動態	谷川原祐介	他	薬剤部
	190-201					
J. Pediatr. Hematol. Oncol.	30 5	2008	Influence of MTHFR and RFC1 polymorphisms on toxicities during maintenance chemotherapy for childhood acute lymphoblastic leukemia of lymphoma	谷川原祐介	他	薬剤部
	347-352					
JJCLA	33 1	2008	多項目自動分析装置の精度管理プログラムの自主開発~第1報: 精度管理試料の測定結果の監視	石橋みどり	他	中央臨床検査部
	28-45					
臨床化学	37 1	2008	HbA1c測定の信頼性確保のための指針 (Ver. 1.4:2007-11-20)	石橋みどり	他	中央臨床検査部
	68-74					
日本臨床検査自動化学会会誌	33 1	2008	多項目自動分析装置の精度管理プログラムの自主開発-第1報: 精度管理試料の測定結果の監視-	早川富夫	他	中央臨床検査部
	38-45					
私立医科大学臨床検査技師会誌	46	2008	全自動総合血液学分析装置CELL-DYN Sapphireの基礎的検討	浅井百合子	他	中央臨床検査部
	31-35					

薬剤学								
68	5	2008	院内製剤「人工髄液CSF-19」の開発と調製実績	山口雅也			薬剤部	
	371-377							
臨床看護								
34	14	2008	ポイント伝授認定看護師の看護ケア 不妊症看護	坂中弘江			看護部門	
	2112-2116							
Hiyoshi Review of Natural Science, Keio University								
44		2008	Two-Dimensional Crystal Film of Streptavidin: A Binding Base for Biotinylated Proteins for Protein Device Application	古野泰二			医学部 (日吉)	
	1-17							
Journal of Electron Spectroscopy and Related Phenomena								
165	1-3	2008	Electronic structure of 2,5,8-tri-tert-butylphenalenyl radical studied by He(I) photoelectron spectroscopy	久保田真理	他		医学部 (日吉)	
	11-14							
Microvasc Res.								
76	1	2008	Serum levels of soluble form of receptor for advanced glycation end products (sRAGE) are positively associated with circulating AGEs and soluble form of VCAM-1 in patients with type 2 diabetes.	井上浩義	他		医学部 (日吉)	
	52-56							
久留米大学医学部放射性同位元素施設紀要								
6		2008	PET検査施設における放射線被ばく管理.	井上浩義	他		医学部 (日吉)	
	1-4							
広領域教育								
70		2008	親子で育む原子力・放射線の理解—教育コンテンツから教育機会・教育環境の整備の時代へ	井上浩義			医学部 (日吉)	
	7-18							
Int J Cardiol.								
		2008	Serum level of pigment epithelium derived factor (PEDF) is an independent determinant of resting heart rate in Japanese subjects.	井上浩義	他		医学部 (日吉)	
Diabetes Metab Res Rev.								
24	2	2008	Circulating advanced glycation end products (AGEs) and soluble form of receptor for AGEs (sRAGE) are independent determinants of serum monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) levels in patients with type 2 diabetes.	井上浩義	他		医学部 (日吉)	
	109-114							
食品工業								
51	12	2008	アポラクトフェリンと終末糖化産物 (AGEs)	井上浩義			医学部 (日吉)	
	26-31							
Cell Microbiol.								
10	7	2008	A novel secreted protease from Pseudomonas aeruginosa activates NF-kappaB through protease-activated receptors.	井上浩義	他		医学部 (日吉)	
	1491-1504							
Protein Pept Lett								
15	8	2008	Telmisartan inhibits advanced glycation end-products (AGEs)-elicited endothelial cell injury by suppressing AGE receptor (RAGE) expression via peroxisome proliferator-activated receptor-	井上浩義	他		医学部 (日吉)	
	850-853							

			gammaactivation.				
Microvasc Res.	75	1	2008	130-134	Olmesartan blocks advanced glycation end products (AGEs)-induced angiogenesis in vitro by suppressing receptor for AGEs (RAGE) expression.	井上浩義 他	医学部 (日吉)
Ophthalmic Res.	40	1	2008	10-15	Olmesartan Blocks Inflammatory Reactions in Endothelial Cells Evoked by Advanced Glycation End Products by Suppressing Generation of Reactive Oxygen Species.	井上浩義 他	医学部 (日吉)
<i>Tetrahedron Letters</i>	49	12	2008	1943-1947	Total synthesis of mycestericin A	大石毅 他	医学部 (日吉)
<i>J. Photochem. Photobiol. A: Chem.</i>	199		2008	261-266	Photochemical reduction of flavone with NaBH ₄ in batch and micro-channel reactors using excimer lasers	大石毅 他	医学部 (日吉)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載にあたって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師などが主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 武田 純三
管理担当者氏名	医療事務室長 竹田 巧一 総務担当事務次長 朝倉 崇 薬剤部次長 河村 俊一

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方箋、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		医療事務室 (中央病歴室)	外来診療録は、一患者一番号、各科ファイル。電算機により、集中管理しており、効率的に管理するため、アクティブカルテとインアクティブに区別して管理している。入院診療録は、年度別の連番を付与し各科ファイル。レントゲンフィルムは、電子媒体にて保存している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課		
	高度の医療の提供の実績	医療事務室		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援センター本部		
	高度の医療の研修の実績	研究支援センター本部		
	閲覧実績	医療事務室(中央病歴室)		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療事務室		
	体制確保の状況 規則第9条の2及び第11条各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	資料1参照
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	資料2参照
		医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医療安全対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談窓口	資料3参照
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	資料5参照		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	院内安全対策マニュアル		

		保 管 場 所	分 類 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	薬剤部次長
		従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集とその他の医薬品安全使用を目的とした改善のための方策と実施状況	薬剤部
		医療機器の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	中央放射線技術室 医用工学センター
		従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	中央放射線技術室 医用工学センター
		医療機器の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	中央放射線技術室 医用工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集とその他の医薬品安全使用を目的とした改善のための方策と実施状況	中央放射線技術室 医用工学センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

医療安全対策室

高橋 孝雄 (兼任：室長、副院長、小児科診療科部長)

半田 誠 (兼任：副室長、院内安全対策委員長、輸血・細胞療法部長)

森崎 浩 (兼任：副室長、中央手術部副部長、麻酔科)

長谷川 奉延 (兼任：医師、小児科)

稲垣 一美 (専従：看護師、医療安全管理者)

高取 弘子 (専任：薬剤師)

三宮 敏和 (兼任：危機管理担当次長、医療安全対策室・感染対策室)

神蔵 信江 (兼任：事務、医療安全対策室・感染対策室)

篠原 廣樹 (兼任：事務、主；医療安全対策室、副；感染対策室)

朝日 洋光 (兼任：事務、主；感染対策室、副；医療安全対策室)

平成 21 年 8 月 1 日現在

医療安全管理部門の業務指針および医療安全管理者業務に関する申合せ

平成 18 年 4 月 1 日制定
平成 19 年 3 月 7 日改正

1 設置

医療安全管理部門に医療安全管理者を置く。

2 任免

医療安全管理者の任免は、医療安全対策室長の推薦に基づき病院長が決定する。

3 任期

医療安全管理者の任期は 2 年間とし、重任を妨げない。ただし、任期の途中で退任した場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

4 目的

- (1) 医療安全管理部門は、院内におけるリスクを回避するための安全管理システム構築と安全管理を行う。
- (2) 医療事故発生時には、医療安全管理部門は関連部門・部署と協力・連携しながら、速やかに対処し、患者・家族、来院者および病院教職員の安全を確保することを目的とする。

4 業務

医療安全管理者は以下の各業務を担当する。

- (1) 「報告書」に関する情報管理を行う。
- (2) リスクマネジメント手法を用いて、再発防止対策を検討し、院内安全対策委員会に提言する。
- (3) 院内安全対策委員会で決議された再発防止策の活用状況を継続的に監視し、評価・修正をすることで医療の質の向上を図る。
- (4) リスクマネジメントの観点から各部門・部署を支援する。

5 改廃

本申合せの改廃については院内安全対策委員会の承認を得て行う。

付記

なお、この制定に伴い“医療安全対策室専任「病院安全管理者」業務規定”は、平成 18 年 3 月 31 日をもって廃止とする。

慶應義塾大学病院安全管理指針

第1条 趣旨

本指針は、慶應義塾大学病院(以下「病院」という)における医療安全管理体制の確立、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的とする。

第2条 医療安全管理に関する基本的な考え方

安全で質の高い医療を提供することは、全ての医療従事者の責務であり、病院教職員ひとりひとりが、医療安全の必要性・重要性を自分自身の課題と認識し、最大限の注意を払いながら日々の医療に従事せねばならない。

病院は、医療の安全管理、医療事故防止の徹底を図り、病院の理念に則った医療が提供できるよう、本指針を定める。

第3条 組織及び体制

病院における医療安全対策と患者の安全確保を推進するために、本指針に基づき以下の役職及び組織等を設置する。

- (1) 医療安全管理者
- (2) 医薬品安全管理者
- (3) 医療機器安全管理責任者
- (4) 院内安全対策委員会
- (5) 医療安全対策室

第4条 院内安全対策委員会の設置

- 1 病院における医療安全管理対策を総合的に企画、実施するために、院内安全対策委員会(以下「委員会」という)を設置する。
- 2 前項に規定する委員会の組織及び運営等については、「院内安全対策委員会要綱」に定める。

第5条 医療安全対策室の設置

- 1 病院における医療安全に関する病院教職員の意識向上や指導及び患者等からの苦情・相談に応じる等、組織横断的に病院内の安全管理を担うため、病院長直属の医療安全対策室(以下「安全対策室」という)を設置する。
- 2 前項の安全対策室の業務、組織および運営等については、「慶應義塾大学病院医療安全対策室内規」に定める。

第6条 医療安全管理のための教職員研修

- 1 医療安全に関する基本的な考え方及び具体的方策について、病院教職員へ周知徹底を図るために研修会を開催し、併せて病院教職員の医療安全に対する意識向上を図る。
- 2 医療安全管理のための職員研修については、「院内安全対策委員会要綱」に定める。

第7条 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策

- 1 病院教職員はインシデント及びアクシデント事例が発生した場合に、速やかに「報告書」により、委員会へ報告するものとする。尚、報告書は診療録、看護記録等に基づき作成する。(報告の提出については、別途定める「慶應義塾大学病院院内報告書入力システム運用マニュアル」参照)
- 2 委員会は病院全体の医療事故情報を一元化し、評価・分析することにより、再発防止のための改善策を図るものとする。必要に応じて、各部門・部署のセーフティマネジャーならびに担当責任者を通じて、病院教職員に速やかに周知する。
- 3 報告は医療法において医療従事者としての義務であるが、明らかな医療過誤でない限り当事者個人の責任を一切問うものではない。
- 4 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策については、「院内安全対策委員会要綱」に定める。

第8条 医療事故等発生時の対応

- 1 医療側の過失によるか否かを問わず、患者に望ましくない事象が生じた場合には、可能な限り、先ず、病院内の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。
- 2 医療事故等発生時については、「慶應義塾大学病院医療事故対応マニュアル」に従い対応する。

第9条 患者への情報提供

本指針の内容を含め、患者との情報の共有に努めるとともに、患者または家族は診療録を含め本指針の閲覧ができるものとする。また、本指針についての照会には医療安全対策室が対応する。

第10条 患者からの相談への対応

- 1 患者等からの苦情、相談に応じられる体制を確保するために、患者相談窓口を常設する。
- 2 患者相談窓口の業務および運営等については、「患者相談窓口規約」に定める。

第11条 本指針の改廃

本指針の改廃は、院内安全対策委員会が発議し、病院運営会議の議を経て病院長が決定する。

(平成19年9月1日制定、施行)
(平成20年4月1日改訂)

平成21年度
院内安全対策委員会 開催予定表

開催月	開催日
平成21年 4月	1日(水)
5月	13日(水)
6月	3日(水)
7月	1日(水)
9月	2日(水)
10月	7日(水)
11月	4日(水)
12月	2日(水)
平成22年 1月	6日(水)
2月	3日(水)
3月	3日(水)

時間	AM7:45~8:40
場所	カンファレンスルーム (中央棟5階)

* 原則毎月第1水曜日開催

平成 20 年度院内安全対策セミナー開催内容

第 24 回院内安全対策セミナー 平成 20 年 6 月 9 日(月) 17:30 ~ 18:30

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 1. 平成 19 年度「報告書」集計分析ならびに検証結果 | 医療安全対策室 稲垣 一美 |
| 2. 医薬品のより安全な使用に向けて | 薬剤部 椎名 宏吉 |

第 25 回院内安全対策セミナー 平成 20 年 9 月 25 日(木) 17:30 ~ 18:30

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 除細動器の保守点検とトラブル事例 | 医用工学センター 又吉 徹 |
| 2. AED、その後 | BLS ワーキンググループ委員長 堀 進悟 |
| 1) 藤沢キャンパス: 学生による学生の救命の報告 | 総合政策学部2年 横川 達郎 |
| 2) 心肺蘇生法デモンストレーション | 総合政策学部1年 松原 ルマ ユリ アキスキ
クリニカルシミュレーションラボ 安井 清孝 |
- KAPPA(医学部・看護医療学部学生公認団体)有志

第 26 回院内安全対策セミナー 平成 20 年 10 月 28 日(火) 17:30 ~ 18:30

医療におけるコミュニケーション ～リスク・コミュニケーションの問題を中心に～

商学部准教授・医学部非常勤講師 吉川 肇子

第 27 回院内安全対策セミナー 平成 21 年 1 月 21 日(水) 17:30 ~ 18:30

- | | |
|---|------------------------|
| 1. 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症の予防と早期診断
—肺血栓塞栓症予防ガイドラインを用いて— | 肺血栓塞栓症予防ガイドラインWG 佐山 宏一 |
| 2. 医療機器のインシデント報告とその対処 | 医療機器安全管理副責任者 又吉 徹 |

院内褥瘡対策セミナー

- | | |
|---|------------------------------------|
| 第1回 : 平成 20 年 10 月 9 日(木) 17:00 ~ 18:00
「褥瘡のでき方・治り方」 | 形成外科 貴志 和生 |
| 第2回 : 平成 20 年 10 月 30 日(木) 17:30 ~ 18:30
「褥瘡の治し方」 | 皮膚科 石井 健 |
| 第3回 : 平成 20 年 11 月 13 日(木) 17:30 ~ 18:30
「リハビリテーションから見た褥瘡予防」
「褥瘡ケアにおける栄養管理」 | リハビリテーション科医師 松本 真以子
管理栄養士 鈴木 和子 |

平成 20 年度呼吸管理に関する講習会 平成 20 年 11 月 14 日(金) 17:30 ~ 18:30

「院内酸素療法について」

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 酸素療法ガイドラインと当院における運用 | 麻酔科 南 靖志 |
| 2. 酸素療法中の事故と対応 | 看護部 林 明美 |
| 3. 酸素療法中の安全管理 —機器を中心に— | 医用工学センター 平林 則行 |

第 16 回看護安全推進講習会 平成 20 年 6 月 20 日(水) 15:30 ~ 16:30

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 平成 19 年度報告書の集計・分析結果 | |
| 2. 重要事例と再発防止対策 | 誤薬、転倒、チューブトラブル・その他から3事例 |

第 17 回看護安全推進講習会 平成 21 年 1 月 15 日(木) 15:30 ~ 16:30

医療・看護のゆくえ —役割分担・業務拡大— 看護部長 木村 チヅ子

院内安全対策委員会要綱

第1条 目的および設置

慶應義塾大学病院（以下「病院」と称する）における医療事故、医事紛争の発生を未然に防止する方策を審議し、解決策を策定することを目的とし、院内安全対策委員会（以下「委員会」と称する）を設置する。

第2条 所掌事項

1. 委員会は、前条の目的を図るため、次の事項を所掌する。
 - (1) 医療事故を未然に防止するための効果的な院内体制の確立
 - (2) 院内において発生した医療事故およびニアミスについての情報の収集
 - (3) 医療事故やニアミスに関する資料の収集ならびに分析
 - (4) 医療事故防止のための具体的対策の検討および推進
 - (5) 医療事故防止のための研修および教育
 - (6) その他、病院長から指示された事案
2. 委員会は前項につき病院長に報告、助言する義務を持つ。

第3条 委員等

1. 委員会は、以下の部門から病院長が任命する者をもって構成する。（別紙3）
 - (1) 診療部門（医師）
 - (2) 看護部
 - (3) 医療安全対策室
 - (4) 感染対策室
 - (5) 中央手術部
 - (6) 医用工学センター
 - (7) 薬剤部
 - (8) 輸血・細胞療法部
 - (9) 中央臨床検査部
 - (10) 中央放射線技術室
 - (11) 食養管理室
 - (12) 人事部門
 - (13) 管財部門
 - (14) 病院情報システム部
 - (15) 事務部門
 - (16) その他
2. 病院長は、必要が生じた場合には委員を追加任命することができる。
3. 病院長は、院外の者で医療事故の防止に関し知識・経験を有する者を特別委員に任命することができる。
4. 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5. 病院長、副院長および病院長が指名したものはアドバイザーとして委員会に参加することができる。

第4条 委員長等

1. 委員長および副委員長は診療科（医師）の中から病院長が任命する。
2. 委員長は、委員会を統括し、委員会を代表する。
3. 委員長に事故が生じたときは、副委員長がその職務を代行する。

第5条 会議等

1. 委員会の会議は、委員長が召集し、議長にあたる。
2. 定例委員会は、年10回以上開催する。なお、委員が求めたときは、随時臨時委員会を開催する。
3. 委員会は、会議を開いたときは議事録を作成しなければならない。
4. 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に対し、会議への出席、意見または資料の提出を求めることができる。
5. 委員会の庶務ならびに書記は、医療安全対策室が担当する。
6. 委員長は、委員が職種・職位等にかかわらず自由に意見表明等ができるように努めなければならない。
7. 委員会は、必要に応じて小委員会を設置することができる。

第6条 セーフティマネジャー会議

1. 委員会は、院内の安全管理体制確保を目的としてセーフティマネジャー会議を設置する。
2. セーフティマネジャー会議は病院長が任命するセーフティマネジャーにより構成される。（別紙4）
3. 委員会は、セーフティマネジャー会議に対し委員会における決定事項の報告、指導を行い、セーフティマネジャー会議からは助言をうける。
4. セーフティマネジャーについては、「慶應義塾大学病院セーフティマネジャーに関する申合せ」に別途定める。

第7条 医療事故が生じた場合の対応

1. 委員会は、医療事故に関する報告書の書式を定める。（別紙1〈様式0～1〉）なお、「報告書」作成は「報告範囲の考え方」に従い作成する。（別紙2）
2. 委員会は、当該部署においてインシデントおよびアクシデント事例が発生した場合に「報告書」を提出させることとし、原則として当事者がセーフティマネジャーと相談の上「報告書」を作成し、同時に部門長に報告し、院内安全対策委員会へ提出する。
3. 委員会は、院内で医療事故が発生した場合には、その大小を問わず、事実関係の把握のため、関係者に対し、報告または資料の提出を求めることができる。
4. 委員会は、前項の報告、資料等に基づき、事故原因を分析して将来の医療事故の防止策等をまとめ、それを職員に徹底しなければならない。
5. 提出された「報告書」の結果については、委員会にて統計報告し、セミナーにて情報公開する。
6. 委員会は、職員が事故に関する報告をしたことにより不利益な処遇を受けないように配慮

する。

7. 医療事故発生時には、別途定める「慶應義塾大学病院医療事故対応マニュアル」に従い対応する。

第8条 資料の収集

1. 委員会は、医療事故の予防に役立つ資料を収集し備え置かなければならない。
2. 委員会は、前項により収集した資料に基づき、医療事故防止のための教訓および事故防止策を検討し、それを職員に周知徹底させなければならない。
3. 委員会は、第8条第1項により収集した資料を職員が随時閲覧できるようにしなければならない。

第9条 研修・教育

1. 委員会は、医療事故防止および医療安全推進のため、年2回以上研修会を開催する。
2. 委員会は、各職場での会議を通じて、医療事故防止および医療安全推進の対策が全職員に徹底するよう努める。
3. 委員会は、新たに採用された職員や新たな職場に異動した職員に対し、医療事故防止および医療安全推進のために必要な事項の教育をする。尚、別途定める「新規採用職員を対象とする医療安全研修内規」に従い対応する。
4. 医療安全に関する研修・教育については、「院内安全対策研修会内規」に別途定める。

第10条 院内安全対策マニュアル

委員会は、院内安全対策マニュアルを作成し随時改訂するように努め、その内容が職員に徹底するように努める。

第11条 民主的な人間関係の形成

委員会は、職種・職位等にかかわらず、職員が医療事故防止に関して自由に発言できるように努めなければならない。

第12条 情報の取り扱い

1. 委員会の委員および特別委員は、その職務に関して知りえた事項のうち、一般的な医療事故防止策（他の医療機関等にも参考になる事項であって、関係する個人が特定可能でないもの）以外のものは、委員会の承諾なくして第三者に公開してはならない。
2. 委員会の委員および特別委員は、患者のプライバシーを尊重しなければならない。

第13条 「報告書」の取り扱いについて

1. インシデント事例（患者影響レベル0～2）が発生した場合は、院内端末情報システムを活用した入力システムにより「インシデント報告書（入力式）〈様式0〉」を作成し、委員会へ送信する。アクシデント事例（患者影響レベル3～5）および患者影響レベル不要事例が発生した場合は、「報告書（記述式）〈様式1〉」に記入し、速やかに秘書課（ボックス）に提出する。原則として提出期日は翌日の午前中までとする。尚、報告書の提出については、別途定める「慶應義塾大学病院院内報告書入力システム運用マニュアル」に従い対応する。
2. 「報告書」は、医療安全対策室が受信および回収し、分類・分析する。
3. 「報告書」は、原則として委員会事務局のみがオリジナルを保管する。病院長および委員長には、随時報告内容を報告する。保存期間は5年間とする。

4. 裁判所より証拠保全手続き等により「報告書」の開示を求められた場合は、リーガルアドバイザーと相談の上回答する。

第14条 要綱の改廃

本要綱の改廃は、病院運営会議の了承を得て病院長がこれを行う。

第15条 その他の事項

1. 本要綱に定めるもののほか、必要な事項は委員会が定める。
2. 本要綱は、患者およびその家族等から閲覧の求めがあった場合には、閲覧の理由に応じて原則としてこれに応じるものとする。

(平成12年10月1日 制定)

(平成14年9月1日 改訂)

(平成15年8月7日 改訂)

(平成16年4月1日 改訂)

(平成19年6月1日 改訂)

(平成19年10月1日 改訂)

(平成19年11月1日 改訂)

(平成20年5月1日 改訂)

(平成20年10月1日 改訂)

(平成21年3月1日 改訂)

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務局長 原 邦夫
閲覧担当者氏名	医療事務室長 竹田 巧一 医療事務室課長 山本 慎一 総務担当次長 朝倉 崇
閲覧の求めに応じる場所	第1応接室 中央病歴室閲覧室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	65.80%	算定期間	平成20年4月1日 ~平成21年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	22,105人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14, 229人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	6,509人	
	D : 初診の患者の数	50,869人	

- (注) 1. 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2. A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名) ・ 無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (2名) ・ 無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
・所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (7) 名 ・活動の主な内容： 医療安全管理部門の業務指針および医療安全管理者業務に関する申し合わせー 4, 業務 参照	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) ・ 無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) ・ 無
・指針の主な内容： 医療安全管理体制の確立、医療安全管理のための具体的な方策及び医療事故発生時の対応方法等について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供を資すること。	
⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 11回
・活動の主な内容： 院内安全対策委員会要綱 参照 (資料6)	
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8回
・研修の主な内容： 全病院教職員向けとして、安全対策 (医療機器、薬剤、呼吸管理、肺血栓塞症等) に関わること、インシデント・アクシデント事例の集計分析・検証結果を中心に安全に関わる教育研修を行う。	
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)	
・その他の改善のための方策の主な内容： ワーキンググループの発足、肺血栓塞症、呼吸管理、侵襲的処置 (血管内・血管外)、薬剤に関する安全対策委員会 (小委員会)	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

<p>①院内感染対策のための指針の策定状況</p> <p>・指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策室の設置 3. 院内感染対策運営委員会及び感染専門委員会の設置 4. 職員研修</p> <p>5. 感染対策状況の報告 6. 院内感染発生時の対応 7. 患者への情報提供と説明 8. 病院における院内感染対策の推進</p>	<p>(有) ・ 無</p>
<p>②院内感染対策のための委員会の開催状況</p> <p>・活動の主な内容： 院内感染対策運営委員会（月1回、年12回開催） 感染専門委員会（隔月、年6回及び臨時開催）</p>	<p>年 18回</p>
<p>③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況</p> <p>・研修の主な内容： 院内感染対策講習会：全教職員対象 （5月、9月、10月（2回）、11月、3月の計6回）</p> <p>注）全教職員対象の講習会（年4回）については、参加できなかった教職員のために別途録画CDを上映（CD視聴会）し機会を設けている。年3回（7, 12, 2月）。</p>	<p>年 6回</p>
<p>④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーベイランス：耐性菌、抗酸菌、ICU、NICU、デバイス、SSI、血液培養、アスペルギルス ・ラウンド・感染症患者、耐性菌検出患者、抗菌薬（月1～3回） <ul style="list-style-type: none"> ・病棟・外来の感染対策（月1～3回） ・施設環境、職員意識調査（月1～2回） 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・研修の主な内容： 資料1参照</p>	
③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 ((有) ・ 無)</p> <p>・業務の主な内容： 年2回のラウンドで病棟及び外来診察室などにおいて、手順書に基づく業務の実施および医薬品保管・管理状況の確認</p>	
④医薬品の安全使用のための必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための本策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報収集の整備 ((有) ・ 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容： 資料2参照</p>	

従業者に対する医薬品安全使用のための研修実施状況

- 平成 21 年 3 月 看護師注射点滴調製研修
薬剤の基礎知識と管理を含めた講義と演習
- 平成 21 年 3 月 研修医・専修医オーダーリングトレーニング
内・外用薬処方入力、注射点滴処方入力、検査・画像オーダー入力など
- 平成 21 年 4 月 研修医注射点滴調製研修
処方入力時の注意と点滴調製の手技
- 平成 21 年 6 月 院内安全対策セミナー
医薬品の安全使用に向けて
—ヒヤリ・ハット事例を中心に—
- 平成 21 年 7 月 感染対策講習会
医療従事者が知っておきたい抗菌薬の基礎知識

医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施

医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集

- 医薬品に係る添付文書等の収集は製薬会社の医薬品情報担当者が直接持参する。改訂情報を毎週チェックして届いていない情報は請求する。

得られて情報の周知方法

- 「緊急安全性情報」「医薬品・医療機器等安全性情報」が発出された場合、各診療科・医師（講師以上）・関係各部署に宛名シールを貼付して配布する。院内イントラネット（処方端末系ネットワーク）にも掲載する。
- 院内への情報発信は、必要に応じて病院庶務課を通して行う。
- その他、院内イントラネットへ適宜情報を掲載する。

医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施

- 薬剤師による注射薬混合調製未実施（500ml以上の処方）の内科系8病棟の実施。これにより、薬剤部での注射薬混合調製は、外来・入院患者の抗がん剤、小児3病棟の全処方、ICU病棟の250ml以上の処方、成人病棟の500ml以上の処方を実施。
- 「薬剤名（力価）」表示される薬剤の入力単位を「mgに統一」して投与量の桁間違いを防止。
- 薬袋印字システム導入による調剤方法の変更（薬剤1薬袋とすることで1薬剤ごとに薬剤名を表示することが可能となり、投薬の安全性が高まる。）
- 処方せんにミニ薬歴（ハイリスク薬を登録）を印字して、ハイリスク薬の投与量、重複投与、休薬期間などを調剤前に処方監査する仕組みを構築。

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有) ・ 無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 14回
<p>・研修の主な内容：人工心肺装置・人工呼吸器・除細動器・診療用高エネルギー発生装置・診療用放射線照射装置等の安全使用のための研修（注意事項・点検方法・トラブル事例とその対処法など）</p>	
③医療機器の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有) ・ 無)</p> <p>・業務の主な内容：人工心肺装置・補助循環器装置・血液浄化装置については、臨床工学士による使用前・使用後点検、4ヵ月ごとの定期点検、メーカーによる年1回の定期点検。人工呼吸器は、臨床工学士による使用前、使用後点検、毎月の定期点検、メーカーによる定期点検。除細動器については、配置部署による日常点検、メーカーによる年1回の点検。診療用高エネルギー放射線発生装置については、放射線物理士・技師による使用前点検、1週間、1ヶ月、6ヶ月、1年点検 メーカーによる年4回の定期点検。診療用放射線照射装置については、放射線物理士・技師による使用前、使用後による定期点検、線源交換時による点検、メーカーによる年2回の定期点検。</p>	
④医療機器の安全使用のための必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための本策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報収集の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関する安全使用等の情報は、放射線関係のものについては中央放射線技術室、それ以外は医用工学センターで情報収集を行い、医療機器安全管理責任者は、医療機器の不具合や健康被害等に関する内外の情報収集に努めるとともに病院長への報告を行う。</p>	